

平成27・28年度指導資料第38集

へき地・複式教育ハンドブック (社会科・理科・生活科編)



平成29年3月
青森県教育委員会

刊 行 に 当 た っ て

県教育委員会では、へき地・複式教育の充実に資するため、昭和41年度からへき地・複式教育にかかわる指導資料を刊行してまいりました。その一環として、今回は「へき地・複式教育ハンドブック（社会科・理科・生活科編）」を作成し、県内すべての小学校に配布することとしました。

本書では、本県のへき地・複式教育の現状と課題、複式学級における学習指導について概説しております。また、社会科・理科・生活科教育の目標と役割について、指導の在り方や指導計画及び実践例について、「学年別指導」を基本とした複式指導を具体的にとらえていただくため、作成委員の指導事例を写真を交えて紹介しております。特に、社会科・理科・生活科の授業改善の在り方を踏まえ、各小学校で活用できるものになるよう心がけました。

各校におきましては、複式学級の個に応じた指導方法を単式学級でも生かしていくために本書を積極的に活用し、自校の実態に応じた学習指導の充実・改善に一層努められるようお願いいたします。

最後に、本書の作成に当たり、2年間にわたって御尽力いただきました作成委員並びに関係各位に対しまして、心からお礼申し上げます。

平成29年3月

青森県教育庁
学校教育課長 和 嶋 延 寿

へき地・複式教育ハンドブック(社会科・理科・生活科編)

目次

第1章	本県のへき地・複式教育の現状と課題	
第1節	現状と課題	1
第2節	複式学級における学習指導	4
第2章	社会科	
第1節	社会科教育の目標と役割	7
第2節	指導計画について	11
第3節	実践事例(5・6年)	16
	事例1) 5年 「これからの食料生産とわたしたち」	
	6年 「明治の国づくりを進めた人々」	
	事例2) 5年 「情報産業とわたしたちの暮らし」	
	6年 「長く続いた戦争と人々の暮らし」	
第3章	理科	
第1節	理科教育の目標と役割	45
第2節	指導計画について	49
第3節	実践事例(3・4年)	54
	事例1) 3年 「じしゃくのひみつ」	
	4年 「水の3つのすがた」	
	事例2) 3年 「ものの重さを調べよう」	
	4年 「もののあたたまり方」	
第4章	生活科	
第1節	生活科教育の目標と役割	79
第2節	指導計画について	83
第3節	実践事例(1・2年)	88
	事例1) 1年 「ありがとうがいっぱい」いえのしごと	
	2年 「わたし大すき」小さいころのこと	
	事例2) 1年 「みんななかよし」わたしのつうがくろ	
	2年 「春はっけん」春の町ではっけん	

第 1 章

本県のへき地・複式教育の現状と課題

第1章 本県のへき地・複式教育の現状と課題

第1節 現状と課題

1 へき地等学校の現状

へき地等学校の指定は、へき地教育振興法（第5条の2及び3）において、「へき地学校」、「へき地に準ずる学校」、「特別の地域に所在する学校」の3種類の学校が規定されているが、これはへき地教育振興法施行規則にある、算定された「基準点数」と「調整点数」の合計点数に応じて定められているものである。

また、へき地学校は、合計点数によって1～5級に区分されており、5級へき地学校が最もへき地度が高い。[表1]

平成21年度にへき地教育振興法施行規則が改正され、へき地の級の見直しが行われた。これによって、全国的にへき地等学校が減少した。県内においても、指定から外れたり、新たに指定を受けたり、区分を変更したりした。

平成28年5月1日現在、全県の小学校の約13.0%（約8校に1校）、中学校の約19.3%（約5校に1校）がへき地等指定学校である。[表2] [表3]

[表1] へき地学校点数による区分

区 分	1級地	2級地	3級地	4級地	5級地
合 計 点 数	45～79	80～119	120～159	160～199	200～

（へき地教育振興法施行規則より）

[表2] 青森県内のへき地等指定学校数

区 分	特地	準へき地	1級地	2級地	3級地	4級地	5級地	合 計
小 学 校	1	4	26	4	1	2	0	38
中 学 校	2	3	19	4	1	2	0	31

（平成28年5月1日現在：学校基本調査より）

[表3] へき地等指定学校数と各地域における割合

地 域	東 青	西 北	中 南	上 北	下 北	三 八	国 立	全 県	全 国
小学校総数	53	40	60	50	20	69	1	293	20,083
へき地等学校	3	8	2	10	10	5	0	38	1,931
割 合 (%)	5.7	20.0	3.3	20.0	50.0	7.2	0	13.0	9.6
中学校総数	27	19	28	※31	16	39	1	161	9,628
へき地等学校	3	6	2	7	9	4	0	31	997
割 合 (%)	11.1	31.6	7.1	22.6	56.3	10.3	0	19.3	10.4

※県立三本木高附属中を含む

（平成28年5月1日現在：学校基本調査より）

県内のへき地等学校は、近年の少子化等の影響を受けた学校の統廃合及び平成21年度のへき地の級の見直しにより、学校数及びその割合は減少傾向にある。また、学校数全体に占める割合は、全国に比較してやや高い状況である。

2 複式学級の現状

本県の複式学級の編制基準（平成28年4月1日現在）は、「第1学年を含む複式学級の児童数は、8人までとする。第1学年を含まない場合に、16人までとする。」ことになっている。

県内の小学校293校中71校、中学校161校中7校が複式学級を有しており、小学校においては、へき地等指定学校数より多い。複式学級の数は、ここ数年、全体に占める割合が、やや増加傾向にある。複式学級数の割合を全国と比較してみると、小学校では約2.5倍、中学校では約2.7倍である。

[表4] 青森県内の複式学級を有する小・中学校

	県内小学校	割合 (%)	全国小学校	割合 (%)
総学校数	293		20,083	
総学級数	2,379		224,905	
総児童数	60,090	0.9	6,406,328	
複式学級を有する小学校	71	24.2	1,955	9.7
複式学級数	121	5.1	4,748	2.1
複式学級児童数	1,208	2.0	39,703	0.6

	県内中学校	割合 (%)	全国小学校	割合 (%)
総学校数	161		9,628	
総学級数	1,407		114,227	
総生徒数	34,573	1.1	3,164,484	
複式学級を有する中学校	7	4.3	156	1.6
複式学級数	7	0.5	175	0.2
複式学級生徒数	24	0.06	873	0.02

(平成28年5月1日現在：学校基本調査より)

3 今後の課題

本県は、へき地等指定学校及び複式学級の割合が全国に比べて高い現状を踏まえ、「生きる力」の育成に向け、次のような指導の充実が必要である。

- ・ 複式指導に伴う、指導計画や指導方法の工夫や配慮
- ・ 話し合い活動の充実や、コミュニケーション能力の育成
- ・ 自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的に探究する力の向上

これらの指導の充実を図るため、「へき地の特性」を生かす教育を踏まえながら、以下の点に配

慮し、各校の実態に応じ取組を進めるとともに、校内外での研修の充実を図ることが大切である。

- ・ 学年別指導における学習過程の工夫（学習過程の「ずらし」及び教師の「わたり」の効果的な活用）
- ・ 直接指導と間接指導の在り方の工夫（学習手順・教具・学習の手引・ワークシート・ヒントカード等の工夫）
- ・ 話し合い活動の活性化や学習ガイドの育成
- ・ 学習環境の整備・充実（黒板配置、教室環境等）

本ハンドブックでは、上記に基づき、社会科、理科、生活科の学習について、複式学級の特徴を生かした指導や、指導計画づくりについて概説するとともに、実践事例を紹介するものである。

第2節 複式学級における学習指導

1 「ずらし」と「わたり」について

同一教室内で、2つの学年の学習指導を同時に進めるとともに、それぞれ授業を展開するため、「ずらし」と「わたり」を用いて学習指導を進めるのが一般的である。

(1) 「ずらし」とは

同一教室内にいる2つの学年のうち、1つの学年に直接指導を行い、もう一方の学年には間接指導を行う。その際、指導段階をずらして組み合わせ、学習指導を展開するが、こうした組合せを「ずらし」と呼ぶ。






(2) 「わたり」とは



(1)の「ずらし」の指導中、一方の学年から他方の学年へ教師が必要に応じて移動しながら指導を進めることを「わたり」と呼ぶ。

2 学習過程における「ずらし」

(1) 1単位時間内における「ずらし」の例

配慮事項

段階	問題解決の過程	下学年の学習活動	直・間	上学年の学習活動	段階
つかむ	①問題把握 ②見通し	○(単元及び)前時の学習内容を復習し、本時の課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 児童に既習の内容を想起させ、解決の方法を確認させる。 </div> 	直接指導	○前時のまとめを利用して学習内容を振り返る。また、今日の学習内容に当てはめてみる。 ○本時の学習への意欲につながる課題意識をもつ。	深める・広める
調べる	③自力解決	○自分の思いや考えを生かしながら課題を追究する。 ○ペアやグループを活用し、意見を確かめたり集約したりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 児童が自分で立てた計画に従い、課題に取り組ませる。 </div> 	間接指導	*左斜め上の欄「つかむ」参照 ○課題を解決する手立てや、学習を進める際の留意事項等を確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 児童の興味を引き出し、意欲を喚起する学習課題を設定する。 </div>	つかむ
まとめる	④比較・検討 ⑤整理	○解決の過程と結果等を全体で発表する。 ○意見交換をし、自分の考えを見直す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 児童がねらいに即した解決を図ったかどうか確認する。 </div>  ○学習のまとめをする。	直接指導	*左斜め上の「調べる」欄参照 ○様々な意見を集約したり、出された意見を列挙したりする。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 解決方法をノートに児童の言葉で簡潔にまとめさせる。 </div>	調べる

深 め る ・ 広 め る	⑥振り返り	○まとめた結果を利用して、今日の学習内容を振り返る。	間 接 指 導	*前ページ「まとめる」欄参照。	ま と め る
		○次時の学習への意欲につながる疑問や課題をもつ。			
		次時の学習用具や準備物等についても確認する。			自分の考えを他の考えと比較し、よりよい解決方法に導く。

(2) 単元全体の「ずらし」

単元の導入を大切にする場合、2学年分の単元全体をずらして指導すること。児童も教師も単元導入時の学習にゆとりをもって取り組めるというメリットがある。

A 学年	前単元のまとめ	単元の導入		単元のまとめ
B 学年		単元の導入		単元のまとめ

(3) 留意事項

- ア 児童が意欲をもち主体的に学ぶことができるよう、全校体制で学び方を育てていくこと。
- イ 学年別指導を効率的に行えるよう、学習内容の系統性を踏まえて単元の配列を工夫すること。

3 授業における「わたり」

(1) 「わたり」の種類

ア 2つの学年にほぼ同じ割合で直接指導する「わたり」

A 学年の学習活動→	導入	直接指導	間接指導	直接指導	間接指導	まとめ
B 学年の学習活動→		間接指導	直接指導	間接指導	直接指導	

イ 一方の学年に重点を置いて指導する「わたり」(下はA学年を重点化)

A 学年の学習活動→	導入	直接指導	間接指導	直接指導	間接指導	まとめ
B 学年の学習活動→		間接指導	直接指導	間接指導	直接指導	

ウ 2つの学年に同時に間接指導をする中で行う「小わたり」(⇕)

A 学年の学習活動→	導入	直接指導	間接指導	同時間接指導	直接指導	まとめ
B 学年の学習活動→		間接指導	直接指導	同時間接指導	間接指導	

「小わたり」=間接指導時に児童個々の状況を把握するため、学年をまたがって小さな「わたり」を繰り返すこと

(2) 「わたり」の必要性

- ア 直接指導においては、教師が直接関わり、指導・評価をしなければならないため。
- イ 間接指導においては、児童の主体的な学習を促し、自力解決する力を養うため。

(3) 留意事項

- ア 画一的な時間配分ではなく、ねらいや児童の実態を踏まえ、学習の充実感がもてるように直接指導と間接指導の組合せ方や時間配分等を検討すること。
- イ 直接指導の際は、教師が教える部分と、児童自身が考える部分のバランスを重視すること。
- ウ 指導段階に合わせてわたることとし、1単位時間内では3～4回程度を目安とすること。
- エ わたる前に、その時点で直接指導している学年の児童が、自力解決できるようになっているか確認すること。
- オ 個別指導の充実を図るよう「小わたり」を行ったり、2つの学年同時に自力解決の場を設けたりするなど、指導の工夫改善に努めること。

第 2 章

社会科

第2章 社会科

第1節 社会科教育の目標と役割

1 現状と課題

(1) 社会科の指導で求められていること

学習指導要領では、小学校社会科の目標を「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。」としている。社会科は、地域社会や我が国における人々の社会生活を広い視野からとらえ総合的に理解することを通して、公民的な資質の基礎を養うことをねらいとしている教科である。

また、「公民的資質」とは、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者、すなわち市民・国民として行動する上で必要とされる資質を意味している。したがって、公民的資質は、平和で民主的な国家・社会の形成者としての自覚をもち、自他の人格を尊重し合うこと、社会的義務や責任を果たそうとすること、社会生活の様々な場面で多面的に考えたり、公正に判断したりすることなどの態度や能力であると考えられる。

さらに、児童一人一人に公民的資質の基礎を養うためには、社会科の学習指導において地域社会や我が国の国土、産業、歴史などに対する理解と愛情を育て、社会的な見方や考え方を養うとともに、問題解決的な学習を一層充実させ、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことを一層重視することが大切である。

そして、作業的、体験的な学習や問題解決的な学習を一層充実させることにより、学習や生活の基盤となる知識・技能を習得させるとともに、それらを活用して観察・調査したり、各種の資料から必要な情報を集めて読み取ったりしたことを的確に記録し、比較・関係付け・総合しながら再構成する学習や考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習など言語活動の充実を図ることが必要である。

また、次期学習指導要領改訂に向けて、中央教育審議会教育課程企画特別部会では、社会科について、「社会的な事象に関心をもって多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させること等に重点を置いて、その充実が図られているところである。一方で、主体的に社会の形成に参画しようとする態度等の育成や、資料から読み取った情報を基にして社会的な事象について考察し、表現しようとする事等については、さらなる充実が求められるところである。」としている。

さらに、小学校社会科については、「社会的な見方や考え方の育成を一層重視するとともに、世界の国々との関わりや我が国の政治への働きに関心を高める学習、社会に見られる課題を把握して社会の発展を考える学習を充実する等が考えられる。」としている。

これらは、複式指導においても同様であり、その特性を生かしつつ、主体的に学ぶ意欲と態度、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成のために、「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいた授業改善が求められているのである。

(2) 課題

複式指導においては、その課題として、「人数が少ないため話し合いなどにおいて多様な考えをもとにした深まりや広がりが乏しくなる傾向があること」、「教師が直接指導する時間が少ないこと」、「人間関係が固定化し、なれあいになりがちで、社会性の育成や向上心の高揚を図りにくい傾向があること」、などが挙げられる。また、④児童たちの普段の生活経験が限られたものになりやすい傾向もみられる。

しかし、それらの課題をよさとしてとらえ直すことで、特性を生かした指導につながっていくと考えることもできる。社会科の授業改善においても同じことが言える。

① 少人数のよさを生かした個に応じた指導や主体的に学ぶ意欲の育成

個々の児童のよさを見いだし、伸ばしていくことが学習指導の基本である。基礎的な知識や技能のみならず、それらを活用して思考・判断・表現する力や主体的に学ぶ意欲を、それぞれの児童のよさや発達の段階に応じて指導し、伸ばしていくことは、社会科においても大切なことである。

また、学級の人数が少ないことは複式学級のよさであり、児童一人一人のよさ、興味や関心などを教師が的確に見いだし、それぞれに応じた指導を行いやすいことを意味している。少人数という特性を、個に応じた指導を行いやすい特性ととらえ、指導していくことが大切である。

② 限られた指導場面を生かした自力解決や集団解決による問題解決的な能力の育成

社会科においても、問題（課題）の発見と解決に向けて、自力で試行錯誤しながら解決したり、それをもとに集団で学び合ったりする学習活動の充実が求められている。

複式指導では、教師の直接指導の時間の他に、児童たちがガイドを中心に学習していく時間が設定されることが多い。自分たちで試行錯誤しながら協働的に課題を解決していく学習活動は、問題解決的な能力の育成のために有効であるととらえ、指導していくことが大切である。

③ 学年の枠を越えた活動と交流の場を生かした学習活動と社会参画的な態度の育成

学年単位で考えると人間関係が固定化しやすい傾向はあるものの、学級単位で考えると毎年度、その構成児童が変わることが多い。また、学年の枠を越えて様々な異学年で交流する活動も計画的に行われている。

そこで、異学年の児童たちに、調べたことや学習したことを発信したり交流する場を通して、多様な集団での交流による学び合いや相手意識をもった学習活動の展開することも可能であると考えられる。あわせて、自分たちの学びを身近な地域や自分たちの生活とつなげて考えることで、社会参画的な態度を培うことができるように指導していくことも大切である。

④ 地域のよさを生かした体験的な活動や地域教材を取り入れた学習の充実

へき地・複式校のある地域は、自然に恵まれ、地域の行事や文化財なども身近にあり、地域の人々も学校の諸活動に協力的であることが多い。

社会科では、特に中学年においては地域の社会的事象を対象として学習を展開していくことが多い。高学年においては学習内容が概念的、抽象的になりがちなので、関連する地域の社会的事象を取り上げて、具体的に学習していくことも大切である。地域のよさを教師自身が知るとともに、地域の人々とのよりよい協力関係を構築、維持し、社会科の教材開発や地域のよさを生かした体験的な学習を意図的、計画的に取り入れて指導していくことも大切である。

2 学年別指導（複式指導）における社会科の指導の在り方

(1) これから求められる指導

複式学級の社会科の指導の工夫として、従前は指導の効率化を図るために「同内容指導」も行われていたが、児童の発達段階や学習内容の系統性を踏まえた指導、転出入児童への配慮などにより、「学年別指導」を行うことが多くなっている。また、担任以外の教員の指導により、「単式化による指導」を行っている学校も少なくない。

一般的に、複式指導では、「少人数であるため個に応じた指導を行いやすいこと」、「間接指導の時間帯に自力解決や集団解決の時間を十分に確保することができること」、「2つの学年で編制されているため異学年での交流の機会を設定しやすいこと」、などがその特性として挙げられる。よって、社会科でも、これらの特性を生かして指導の充実を図ることが重要になってくる。

また、社会科では、単元又は小単元での学習問題を設定して、問題解決的な学習を展開することが多い。よって、当該単元に応じて、「ずらし」を工夫したり、調べ学習などの同時間接指導場面で小わりによる両学年への指導を取り入れたり、異学年と交流しやすいような単元や学習内容を組み合わせたりした指導を計画するなど、身に付けさせたい力と児童たちの実態を踏まえつつ、その特性を生かした指導計画を作成し、柔軟に指導していくことが大切である。

さらに、体験的な活動や地域教材を取り入れた学習は、社会的条件からそこに住む児童たちの普段の生活経験が限られたものになりやすいへき地・複式校だからこそ必要であるとも言える。そのためには、教師自身が地域を知り、それらを生かした学習を創造的に展開していくことが大切であることは言うまでもない。

複式学級における社会科指導は、一般的に見ると、異教科の学年別指導から社会科同単元異内容指導、同単元同内容指導へと変遷してきた。そして、現在は、学年の系統性や発達の段階に応じた指導、転出入児童生徒への配慮などから、学年別指導又は単式化による指導が多く見られる。

学年別指導について、社会科においては、主に次の方法が考えられる。

① 学年別に異なる教科を指導する。（異教科の組合せ）

学年別に異なる教科を組み合わせる指導する方法で、例えば、第2・3学年で構成される学級で、2年生が生活科、3年生が社会科を学習するような組合せである。

また、県内では、この方法による指導において、担任以外の教員も加わることで、実質的に単式化した指導を行っている事例も少なくない。

② 社会科であるが学年別に異なる内容を指導する。（異単元又は同単元異内容の組合せ）

学年別に異単元、同単元異内容を組み合わせる指導する方法で、内容の系統性や各学年の発達の段階などを踏まえ、学年別指導で多く見られる方法である。

(2) 学年別指導を基本とした指導の工夫

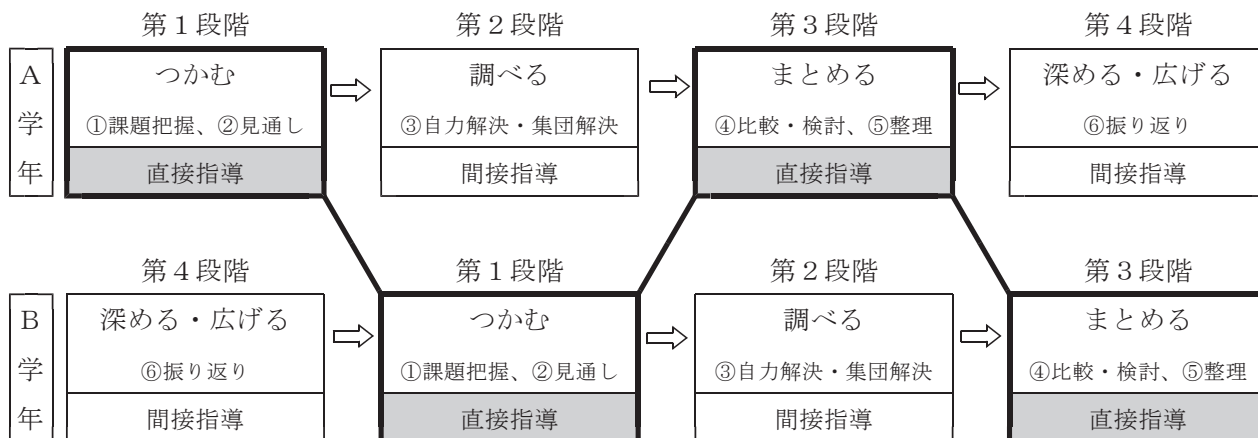
学年別指導とは、学年毎の目標を達成させるために、それぞれ学年の学習内容を指導するものである。一人の教員が両学年の児童の指導を行うために、学習過程を「ずらし」たり、「わたり」を行ったりして直接指導と間接指導を組み合わせ、学習活動を展開する方法である。

学年別指導では、2つの学年をまたいで授業を展開するので、一方の学年に「直接指導」を行う際、他方の学年には「間接指導」を行うといった学習過程の「ずらし」を組み合わせる。また、その時に、一方の学年から他方の学年へ移動する「わたり」を行いながら指導する。

さらに、同時に両方の学年の指導を行う「小わり」を意図的にすることも効果的である。

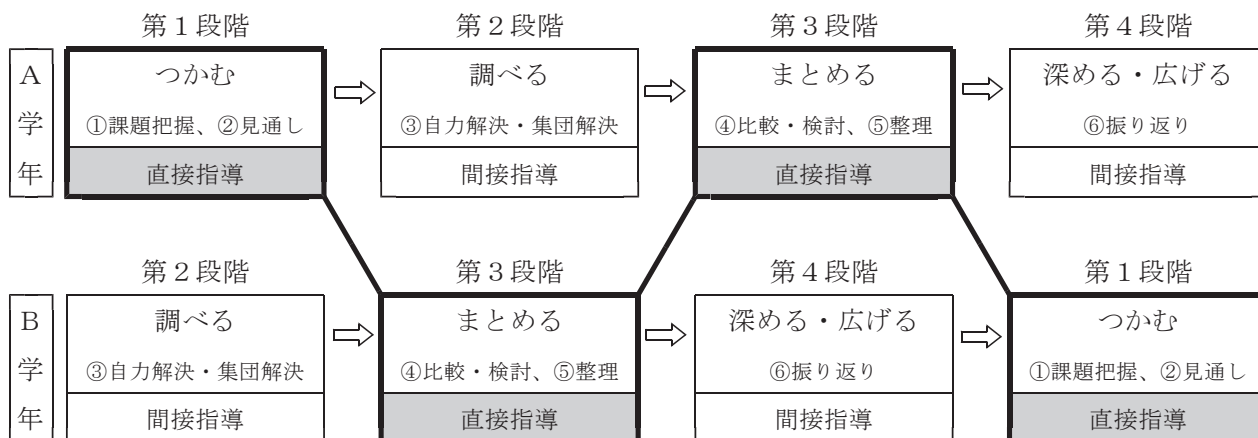
社会科に限らず、一般的に、学習過程を4段階で考え、一段階ずらして一方の学年では課題把握の第1段階から授業を進め、他方の学年では、前時のまとめをもとに深めたり広げたりする第4段階から授業を進めることが多い。

① 1 単位時間内における「ずらし」の一般的な例



しかし、社会科では、学習問題（課題）に基づいて、調べ学習を進めていくことも多く、その際は、前時間の後半の時間で課題把握の第1段階を行い、本時ではそれを受けて調べる活動の第2段階から授業を進めるような「ずらし」も有効である。この「ずらし」を取り入れた展開は、授業以外の時間で調べたことや関連する生活経験と結び付けやすいというよさもある。

② 1 単位時間内における「ずらし」の変形例 * 調べ学習等に効果的な指導例



また、社会科では1単元（又は小単元）で問題解決的な学習過程を進めることが多い。その際に、導入での学習問題を設定する場面では、教師の直接指導の時間を多く要することになる一方で、調べ学習の場面では、子どものみで学習を進める間接指導の時間が多くなることも多い。そこで、単元全体の学習過程に「ずらし」を取り入れることも有効である。どのような学習を展開していくのかを単元や毎時間の目的に応じて構想し、「ずらし」を設定するとともに、意図的に「わり」を行っていくことが大切である。

第2節 指導計画について

1 年間指導計画の在り方

(1) 指導計画作成における基本的な考え方

小学校の社会科は、社会生活を広い視野から総合的に理解することを通して、「公民的資質の基礎を養う」ことをねらいとしている。したがって社会科の学習指導に当たっては、地域社会や国土、産業、歴史などに対する理解と愛着を育て、社会的な見方や考え方を養うとともに、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を身に付けることが大切である。

指導計画の作成に当たっては、地域教材を取り上げる場合が多くなることから、他教科以上に児童・学校・地域の実態を踏まえた独自性が必要になる。そこで、直接・間接の体験を重視するとともに、現地調査をはじめ、多くの資料や情報を扱う学習活動となる。このように、指導が多岐で複雑になることから、一層計画性が必要となってくる。

さらに、複式学級では、一人の教師が二つの学年を同時に指導するという条件を加味した指導計画を作成することになる。したがって、複式学級の年間指導計画の作成に当たっては、内容相互の関連を図るとともに、現状を踏まえ、学校の実態に応じた弾力的な年間指導計画の作成が望まれる。

作成上の留意点として、次のようなことが挙げられる。

① 生活経験を広げ、多様性を図る指導計画の作成

児童の関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解などについては、個人差があるため、指導の際には、この個人差や学年差に配慮する必要がある。

また、社会科は生活経験の違いが、社会的事象に対する関心・意欲・態度の差として現れることが考えられる。そこで、教材の選定・開発、提示の方法、資料の活用方法などについて、児童一人一人の生活経験に着目しながら指導計画を作成する必要がある。

② 地域との連携による教材開発

へき地校区は、地域との連携がとりやすく、都市部では得がたい素材がある。これらを利点と捉え、大いに活用すべきである。

特に、地域の社会生活にかかわる内容を扱う場合、直接現地に出かけ、調査・観察・資料収集などを行うといった体験的な活動を取り入れることは、児童の学びを深める上で非常に有効である。このような指導の充実を図るためには、地域との連携が不可欠であり、地域の人々の協力が得られるように環境を整えていくことが大切である。

(2) 各学年の目標及び内容の構成

学習指導要領に示されている各学年の目標及び内容は、「第3学年及び第4学年」「第5学年」「第6学年」というようにまとめられている。

年間指導計画の作成に当たっては、それぞれの学年の児童の実態や発達の段階を考慮しつつ、系統的、発展的な指導ができるよう十分に留意し、各学年の目標及び内容のまとめ方や重点の置き方に適切な工夫を加え、効果的、段階的に指導できるようにする。

また、児童の実態等を考慮し、指導の効果を高めるため、合科的・関連的な指導を進めること

も望まれる。

(3) 単元配列の仕方

複式学級の学習指導に当たっては、学年ごとの目標を実現するために学年別指導を基本とした年間指導計画を作成することが必要である。特に、社会科では、より効果的に学習指導を行うために、指導内容の関連を図った単元の配列の工夫をしていくことが大切である。

そこで、以下のようなことが考えられる。

- ① 学年ごとの目標の実現を目指しながら、二つの学年が同じ場所において活動すること、類似した学習内容を扱い指導すること、共通した資料や教具を活用するなどがある。
- ② 上学年と下学年の役割や二つの学年の関わりを取り入れること、教科の系統性や学年差に配慮すること、児童が自らの力で学習を進める間接指導が円滑に進むように配慮するなどがある。

(4) 指導に当たっての留意点

社会科の指導において、知識・理解の定着のみならず、児童が意欲的に学習に取り組むためには、調査・見学の方法や表現の仕方等を工夫し、学習活動の内容を充実させていく必要がある。

そのため、以下の点について配慮する必要がある。

- ① 児童一人一人に資料や地図の読み取りのスキルを示した「学び方カード」を用いて、間接指導の時間に児童自らが主体的に資料を読み取っていくことができるようにする。
- ② 間接指導の時間に調べ活動を充実させるため、ワークシートの内容を工夫し、資料を調べて分かったことや考えたこと、疑問に思ったことなどを書き込めるようにする。
- ③ ガイド学習を行う際は、ガイド役の児童が学習進行計画表によってリードできるよう、タイマー等を活用し、時間を意識した学習方法を指導することが重要である。
- ④ 実際に観察や見学・調査、体験ができない場合は、学校図書館やインターネット等を活用し、様々な方法で情報収集活動を行うことができるよう配慮する。
- ⑤ 学習の成果を自分の言葉でノートに書き表したり、絵やイラスト・新聞等にまとめたりするなど、多様な方法で表現する活動を取り入れる。

2 年間指導計画例

(1) 年間指導計画作成における主な留意点

- ①第3学年の「はたらく人とわたしたちの暮らし」の学習と第4学年の「わたしたちの県」の学習を同時期に配列することにより、商品の生産や販売が県内外の他地域とかかわっていることについて、資料等を共有することができる。
- ②第3学年の「かわってきた人々の暮らし」の学習と第4学年の「きょう土のはってんにつくす」の学習を同時期に配列することにより、二つの学年で郷土資料館等に行き、学芸員の話を書く学習と施設見学をしながら必要資料を収集する学習を並行して行うことができる。

(2) 3・4学年の複式学級年間指導計画例

第3学年（70時間）			第4学年（90時間）		
単元名	時数	月	月	時数	単元名
オリエンテーション	1	4	4	1	オリエンテーション
1 わたしたちのまち みんなのまち		7	7		4 暮らしを守る
①学校のまわり	1 1			9	①火事から暮らしを守る ①地震から暮らしを守る ②事故や事件から暮らしを守る
②市の様子	1 2			9	
				1 2	5 住みよいくらしをつくる ①水はどこから
2 はたらく人と わたしたちの暮らし		8	8	1 4	②ごみのしよりと利用
①店ではたらく人	1 7	12	12		7 わたしたちの県
②農家の仕事	1 2			1 1	①県のひろがり
③工場の仕事				1 7	②特色ある地いきと人々の暮らし
				4	③世界とつながるわたしたちの県
3 かわってきた人々の暮らし		1	1		6 きょう土のはってんにつくす
①古い道具と昔の暮らし	9	3	3	1 3	①谷に囲まれた台地に水を引く
②のこしたいもの、 つたえたいもの	8				

※ 単元名・教材名等は、平成27年度用小学校教科書「新編 新しい社会」（東京書籍）より

2 年間指導計画例

(1) 年間指導計画作成における主な留意点

- ①第5学年の「わたしたちの生活と食料生産」の学習と第6学年の「日本の歴史」の学習を同時期に配列することにより、第5学年が稲作について学習する際に、手作業だった室町時代の稲作と機械化された現代の農業を比較することができる。
- ②第5学年の「情報化した社会とわたしたちの生活」の学習と第6学年の「わたしたちの生活と政治」、「世界の中の日本」の学習を同時期に配列することにより、パソコンを共有してインターネットの活用ができるとともに、レポート作成の学習を同時に行うことができる。

(2) 5・6学年の複式学級年間指導計画例

第5学年（100時間）			第6学年（105時間）		
単元名	時数	月	月	時数	単元名
オリエンテーション	1	4	4		1 日本の歴史 ①縄文のむらから古墳のくにへ ②天皇中心の国づくり ③貴族の暮らし ④武士の世の中へ ⑤今に伝わる室町文化 ⑥3人の武将と天下統一 ⑦江戸幕府と政治の安定
1 わたしたちの国土		4 7	4 7	9	
①国土の地形の特色	7			7	
②低い土地の暮らし	5			3	
②高い土地の暮らし				5	
③国土の気候の特色	3			3	
④あたたかい土地の暮らし	4			6	
④寒い土地の暮らし				5	
2 わたしたちの生活と食料生産					
①暮らしを支える食料生産	5				
②米づくりのさかんな地域	9	8	8	5	2 わたしたちの生活と政治 ⑧町人の文化と新しい学問 ⑨明治の国づくりを進めた人々 ⑩世界に歩み出した日本 ⑪長く続いた戦争と人々の暮らし ⑫新しい日本、平和な日本へ
③水産業のさかんな地域	7	8	8	7	
④これからの食料生産とわたしたち	4	12	12	6	
				7	
				7	
3 わたしたちの生活と工業生産					
①工業生産と工業地域	3			8	
②自動車をつくる工業	8				
③工業生産を支える	5				
④これからの工業生産とわたしたち	5				
4 情報化した社会とわたしたちの生活					
①情報産業とわたしたちの暮らし	7				
②社会を変える情報	5	1	1	8	③わたしたちの暮らしと日本国憲法
③情報を生かすわたしたち	4	1	1		
		3	3		
5 わたしたちの生活と環境					3 世界の中の日本 ①日本とつながりの深い国々 ②世界の未来と日本の役割
①わたしたちの生活と森林	8			7	
②環境を守るわたしたち	5			9	
③自然災害を防ぐ	5				

※ 単元名・教材名等は、平成27年度用小学校教科書「新編 新しい社会」（東京書籍）より

第3節 実践事例（5・6年）

事例1）第5学年 社会科学学習実践事例（児童数8名）

1 小単元名 「これからの食料生産とわたしたち」（東京書籍）

2 小単元について

(1) 児童の実態

児童は今まで、我が国の農業や水産業について、様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、おもな食料生産物の分布や土地利用の特色、食料生産に従事している人々の工夫や努力などを学習してきた。水産業では一度に何種類ものグラフを読み取る場があったが、比較したり関連付けたりして考えることを困難としている児童が多く、全員で確認しながら学習を進めているところである。

また、社会的事象に対して考えようとはしているものの、その考え方は一面的であったり主観的であったりする傾向が見られる。これは、これまでの学習において、資料を比較したり、関連付けて考える学習や、社会的事象を様々な立場から見たり、考えたりする学習が不足していたためであると考えられる。

本単元では、地域柄自分の生活と密接に関わりを持つ農業にスポットを当て、家族の仕事にも目を向けさせながら、これからの食料生産について考えるきっかけを与えたいと思っている。

(2) 小単元の特性

本小単元は、学習指導要領第5学年の内容（2）アを受けて設定したものである。

本小単元のねらいは、日本の食料生産が今抱えている問題について、現在始まっている取組やこれまで学習してきた内容を生かしながら、一人一人がこれからの食料生産について考えることにある。

食料問題が身近な問題であることが実感できるように家庭と協力し、どのような食材選びをしているかを見つめさせたい。給食などの身近な食について取り上げていくことで、問題意識を持ちやすくし、主体的に考えさせていく。そのような活動の中から、我が国には様々な食料問題があることに気付かせ、食料自給率や農業従事者の減少、食品の安全性や、食に関わる国際協調などについて自分が興味を持ったテーマで調べる活動を行わせたい。

また、調べたことを発表し合う活動を通して、我が国の食料問題に対して今後どのように対応していくべきかについて、自分なりの考えをもたせたい。

3 小単元の目標

- (1) 自分の生活と食料生産とのかかわりをもとに、我が国の食料生産の現状や未来について関心をもち、我が国の食料生産の発展を願おうとする。
- (2) 我が国の食料生産の抱える問題について、環境への影響、国際協調の観点、生産者と消費者などの観点をもとに、思考・判断したことを適切に表現できる。
- (3) 我が国の食料生産の問題点を、農業就業者数や耕地面積、自給率や輸入額の変化のグラフなどの資料から読み取り、調べる過程でわかったことを図や文章でまとめることができる。
- (4) 我が国の食料生産は国民生活を支えていることや、これからの食料生産には、就業者の減少、食品の安全性、環境保全、自給と輸入の関係など、さまざまな課題があることを理解する。

第6学年 社会科学学習実践事例（児童数8名）

1 小単元名 「明治の国づくりを進めた人々」（東京書籍）

2 小単元について

(1) 児童の実態

6年生で始まった歴史学習については、多くの児童が楽しみにしていた学習の1つであり、図書館や学級文庫で歴史の本を読む姿を多く見かけ、自主学習などでも意欲的に調べ学習に取り組んでいる児童が多くいる。これまで歴史学習では絵画資料を提示したり、興味・関心が湧くようなエピソードを交えたりして取り組んできた。

しかし、資料を読みとった事実から考えること、また、歴史的な背景や意味を考え、確かなものとしていくことはやや苦手としている。資料から分かる事実とそこから推測されることを自分なりに考えていくという思考する力を育てていきたいと考えている。また、本単元では修学旅行で訪れる函館方面と関連が深いため（ペリー来航、開国、箱館戦争等）、それらの活動も織り交ぜながら関心をもたせ、幕末から明治への変遷について理解を図りたい。

(2) 小単元の特性

本小単元は、学習指導要領第6学年の内容（1）キを受けて設定したものである。

本小単元のねらいは、幕末から明治の初期にかけての歴史的事象を調べることを通して、我が国が諸改革を行い欧米の文化を取り入れ、近代化を進めていったことを理解させる単元である。

児童が興味をもって学習に取り組めるように、興味・関心が持てる資料を最初に提示することから始める。自然と疑問が湧くような文章資料や、視覚的に捉えやすい資料を掲示したいと考えている。そこで、ペリー来航時の絵画資料等を読みとり、アメリカがどのような態度で日本に開国を迫ったのか、資料から丁寧に読みとらせたい。この学習により幕府の対応に不満をもつ若い武士達が強い意志をもって立ち上がり、討幕運動から明治政府の成立へと向かっていったことなどを捉え、自分の考えをもたせて話し合いができるようにさせたい。

3 小単元の目標

- (1) 明治維新をつくりあげた人々の働きに関心をもち、明治維新による我が国の近代化の様子を意欲的に調べようとする。
- (2) 我が国の近代化に果たした人々の働きや思いを、当時の社会の様子や外国と関係付けて考えることができ、明治維新をつくりあげた人々の働きと関連付けながら表現できる。
- (3) 絵画資料や年表、写真、文章資料等の資料を効果的に活用して、明治政府の諸政策や当時の人々の様子を調べ、まとめることができる。
- (4) 明治政府が廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解する。

4 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
<p>①我が国の食料生産の現状と未来について関心を持ち、意欲的に調べようとしている。</p> <p>②自分の生活と食料生産とのかかわりからこれからの我が国の食料生産について考えようとしている。</p>	<p>①我が国の食料生産をめぐる問題について学習問題や予想、学習計画を考え表現している。</p> <p>②食料自給率の低下や食の安全・安心、生産者と消費者などの観点を基に、思考・判断したことを適切に表現している。</p>	<p>①地図や地球儀、統計などの資料を活用して、我が国の食料生産の問題点について必要な情報を集め、読み取っている。</p> <p>②調べたことを図や文章、新聞などにまとめている。</p>	<p>①さまざまな食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあることを理解している。</p> <p>②我が国の食料生産には、食料自給率の低下や食の安全性などの問題があることを理解している。</p>

5 指導と評価の計画（全4時）

次	時間	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準(◇)・評価方法(◆)
一	1	<p>【日本の食料生産をめぐる問題点】</p> <p>①スーパーマーケットの売り場の写真や資料を見て、気付いたことや考えたことを話し合い、学習問題をつくる。</p> <p>②食料自給率について調べ、日本の現状を把握する。</p>	<p>・スーパーマーケットの写真から読み取れることと資料を関連付けて考えさせ、食料自給率の低下の問題に気付けるようにする。</p>	<p>◇我が国の食料生産をめぐる問題について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。[思・判・表]</p> <p>◆ノートや学習計画の記述内容や発言による。</p>
二	2 (本時)	<p>【わたしたちの食生活の変化と食料生産】</p> <p>③日本の食料生産にはどのような問題があるか、課題を確認する。</p> <p>④40年の間に食生活がどのように変化し、どんな問題があるか調べ、問題を解決するための取組について考える。</p>	<p>・40年前と今の朝食を比較し、和食から洋食へと変化している状況から、食生活は外国に影響されていることをとらえ、その問題点について考えさせるようにする。</p>	<p>◇我が国の食料生産には、食料自給率の低下や食の安全などの問題があることを理解している。[知・理]</p> <p>◆調べる観点を示したワークシートへの記述内容や発言による。</p>
	3	<p>【食の安全・安心への取り組み】</p>	<p>・トレーサビリティについて</p>	<p>◇我が国の食料生産にお</p>

4 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
黒船の来航から明治維新、文明開化などの時代の変化とともに、廃藩置県、四民平等、大日本帝国憲法の発布などの諸改革を行った明治政府に関心を持ち、我が国が欧米の文化を取り入れながら、近代化を進めていったことを進んで調べようとしている。	黒船の来航、明治維新、文明開化と時代が変化し、廃藩置県、富国強兵、地租改正や四民平等、大日本帝国憲法の発布などの諸改革を行ったことについて、調べたことを比較したり、関連付けたり総合したりして、明治政府が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことや、それらにかかわる人物の願いや働き、文化遺産の意味を考え、人物相関図などに表現している。	①明治という新しい時代になって人々の生活が変化したことや我が国を近代化するために様々な諸改革を行った代表的な人物の働きや文化遺産について、必要な情報を集め、読み取っている。 ②調べたことを白地図や年表、作品やノート、新聞などにまとめている。	黒船の来航、明治維新、文明開化と時代が変化し、明治政府が廃藩置県や四民平等、大日本帝国憲法の発布などの諸改革を行ったことを通して、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解している。

5 指導と評価の計画（全7時）

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準(◇)と評価方法(◆)
一	1	<p>【江戸から明治へ】</p> <p>①江戸時代の日本橋の様子と明治時代の日本橋の様子を比べてみて、分かることや考えたことを話し合う。</p> <p>②同じように「勉強している様子」と建物を比べて、話し合う。</p> <p>③江戸から明治に変わる20～30年間で調べてみたいことを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料を比べさせる際に、見て分かることと考えたことを分けて発言させる。 特にわずか20～30年間の間での変化であることに注目させる。 まちや人々の様子、「学校」の大きな変化から、どうしてこんなに変わったのかということに興味をもたせる。 	<p>◇江戸から明治への変化に関心を持ち、大きな変化に気付き、だれがどのようにして変えていったのかという疑問をもとうとしている [関・意・態]</p> <p>◆ノートの記述内容と、友だちとの話し合いによる。</p>
	2	<p>【明治の新しい世の中】</p> <p>④ほかにも変化したものはないか疑問を持ち、資料を見て自分の考えを述べ合い、調べたいことを学習問題としてまとめる。</p> <p>⑤学習問題に対する予想や調べ方などを発表し合い、学</p>	<ul style="list-style-type: none"> 変わったのはまちの風景だけだろうかというような投げかけをする。 資料を参考に考え方や生き方の変化にまで目を向けさせ、学習問題につなげる。 予想については理由や根拠も考えさせる。 	<p>◇学習問題の予想について、理由や根拠をもとに、学習計画を考えている。[思・判・表]</p> <p>◆ノートの学習計画の記述内容や発言による。</p>

		<p>⑤食の安全・安心に対する取組について、課題を確認する。</p> <p>⑥食の安全・安心に向けて行われている取組や環境との関連について調べ、食の安全・安心に向けた行動について考える。</p> <p>⑦これまでの学習してきたことをもとに、学習してきた「ことば」とその意味を確認する。</p>	<p>調べるために、スーパー等で買った物についてトレーやシールを集めておくよう指示をする。</p>	<p>ける食の安全・安心とその取り組みについて、資料から必要な情報を集め、読み取っている。[技]</p> <p>◆調べる観点を示したワークシートへの記述内容や発言による。</p>
			<p><u>トレーサビリティ</u></p> <p>食品の安全を確保するために、栽培や飼育から加工・製造・流通などの過程を明確にすること。</p>	
三	4	<p>【これからの食料生産について考える】</p> <p>⑧これからの食料生産について問題を整理し、まとめる。</p> <p>⑨「生産者」「販売者」「消費者」の立場から、日本の食料生産にかかわる問題について話し合う。</p>	<p>・「ことば」を活用して表現させることによって、これまで学習してきたことを生かせるようにする。</p>	<p>◇自分の生活と食料生産とのかかわりから、我が国の食料生産の発展を考えようとしている。[関・意・態]</p> <p>◆今まで学習したことをまとめたノートやワークショップでの話し合いの内容による。</p>



		習計画を立てる。		
二	3 (本 時)	<p>【若い武士たちが幕府をたおす】</p> <p>⑥どのようにして江戸幕府が倒れたのかについて調べ、新しい世の中に変わる過程を話し合う。</p> <p>⑦明治維新の中心となった人物について調べ、何を行い、何を目指したのか、考えを出し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料をもとに、ペリー来航以降幕府が動揺したことや、開国か攘夷かなど、考え方の違いも出てきたことを押さえる。 下田とともに開港した函館について、修学旅行(函館方面)で集めてきた資料を活用する。 	<p>◇日米修好通商条約が国内生活を混乱させ、幕府への不満を募らせたことや、江戸幕府よりも強い政府が必要と考えた若い武士たちが明治維新を進めたことを理解している。[知・理]</p> <p>◆調べる観点を示したワークシートへの記述内容や発言による。</p>
	4	<p>【大久保利通と明治新政府の改革】</p> <p>⑧欧米に学んだ大久保利通らが、どのような国づくりを目指したのかを調べ、発表する。</p> <p>⑨明治新政府の具体的な政策についてまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 富国強兵を進めるためには、財源を確保して、国の財政を安定させる必要があったことに気付かせる。 それぞれの改革にどのような意味があったのかを考えさせる。 	<p>◇明治の諸改革を相互に関連付けて考え、大久保利通らが富国強兵を進めるために国の財政を安定させようとしていたことを表現している。[思・判・表]</p> <p>◆調べる観点を示したワークシートへの記述内容や発言による。</p>
	5	<p>【板垣退助と自由民権運動】</p> <p>⑩改革に不満をもつ人々の行動について調べる。</p> <p>⑪板垣退助と自由民権運動について調べ、まとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 政府に不満をもつ人々の行動が、反乱から言論へと変わっていったことに気付かせる。 明治維新後の北海道と沖縄の様子についても調べさせる。 	<p>◇政府に不満をもつ人々の行動が反乱から言論へと変化していったことを、国会開設を求める板垣退助の願いや行動と関連付けて考えている。[思・判・表]</p> <p>◆調べる観点を示したワークシートへの記述内容や発言による。</p>
	6	<p>【伊藤博文と国会開設、大日本帝国憲法】</p> <p>⑫各地でつくられた憲法案や伊藤博文がつくった憲法案</p>	<ul style="list-style-type: none"> 憲法案をつくった伊藤博文の思いがどのようなものであったのかを考えさせる。 憲法の内容については、現在 	<p>◇大日本帝国憲法案の特色について、資料を活用して調べ、天皇に強い権限があることや選</p>



6 本時の指導（2 / 4時）

(1) 目標

我が国の食料生産について調べ、輸入が欠かせなくなった結果、農業に携わる人や耕地面積が減少するなど、食料自給率の低下には問題があることを理解することができる。

(2) 展開に当たって

資料（グラフ）を調べる活動では、本時のめあてを板書にしっかりと提示して、調べる目的を全員で確認してから活動に入る。その際、資料から読み取れることや、そこから考えられることを一人一人がノート（ワークシート）にまとめる時間を十分確保し、話合いに向かわせるようにする。複数の資料から事実を読み取る活動になるので、一つずつの情報（グラフ）についてノートに貼らせ、その下に読み取れたことや疑問、問題・課題について書かせていく。資料は「食料輸入量の増加」「農業生産率の低下」をとらえさせるものとなっているが、輸入が増えていくと今後どのような問題が起きるか、思考させていくような活動を展開していきたい。

6学年との複式授業になるため、本時の展開は前時の【ひろげる】の段階からスタートする「ずらし」を行う。そのため、食料自給率の現状について把握する活動をした後、本時の課題へと向かわせるようにする。

		について調べ、話し合う。 ⑬議会と選挙制度について調べ、まとめる。	との比較でとらえるのではなく、自由民権派がつくった憲法案との比較から考えさせる。	挙権をもつ人は国民の一部だけだったことを読み取り、まとめている。 [技] ◆調べる観点を示したワークシートへの記述内容や発言による。
三	7	【まとめ】 ⑭学習をふり返り、各時間のまとめを整理し、グループで人物関連図をつくる。 ⑮グループ同士の発表、感想交流。 *発展 【平城京跡を守るために】 ⑯平城京保存に尽力した棚田嘉十郎について調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・中心とする人物は、多くの人と深いかわりをもった維新の三傑がよいことを伝える。 ・中心とする人物を決め、その働きを書きそえる。 ・自分たちの地域にも、明治維新に活躍した人物がいないかを調べさせる。 	◇関係図の中心となる（もっとも興味をもった）人物を選び、そのほかの人物や出来事との関係を考えて、適切に表現している。 [思・判・表] ◆今まで学習したことをまとめた人物関連図や発表による。

6 本時の指導（3／7時）

(1) 目標


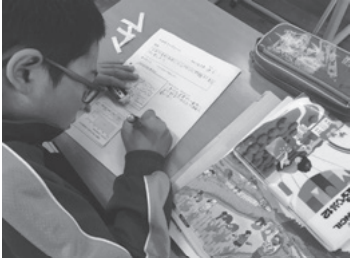


ペリーが来航して、アメリカと結ぶことになった日米修好通商条約が国内生活を混乱させ、幕府への不満が高まったことや、江戸幕府よりも強い政府が必要と考えた若い武士たちが明治維新を進めたことを理解することができる。

(2) 展開に当たって

本時では登場人物や歴史的事象が多いため、出来事の流れや因果関係を分かりやすくさせるためのワークシートを活用する。その中で、資料をもとに、それぞれの人物がどのような思いをもっていたかを、吹き出しに書く活動を取り入れて感じ取らせていきたい。また、修学旅行での見学活動も交えながら、身近なところで「開国」の動きがあったことをとらえさせ、理解につなげていきたい。

(3) 展開

(■：直接指導 □：間接指導)


段階	主な学習活動	教師の働きかけ○ガイド ● 児童の反応(・)	指導上の留意点(△)評価規準(◇)評価方法(◆)	形態
<p>ひろげる</p> <p>10分</p>	<p>1 我が国の食料自給率の実態をつかみ、現状をとらえる。</p>    	<p>●資料集を参考にして、それぞれの品物の食料自給率を調べましょう。</p> <p>米 自給率 … 96%</p> <p>小麦 自給率 … 12%</p> <p>大豆 自給率 … 8%</p> <p>果物 自給率 … 38%</p> <p>野菜 自給率 … 78%</p> <p>肉 自給率 … 55%</p> <p>魚介類 自給率 … 53%</p> <p>●まとめたものをみんなで確認しましょう。</p> <p>・輸入に頼っている品物がある。(小麦、大豆、果物など)</p> <p>・米はほとんど自給できる。</p> <p>・肉、魚も半分近くは輸入だ。</p>	<p>△ワークシート準備</p> <p>△ガイドによる進行</p> <p>△教科書では棒グラフで表されているが、それぞれの品物の割合がとらえやすくなるため円グラフにまとめていく作業を進めさせる。</p> <p>△子どもたち同士の話し合いから、食料自給率への関心を広めていくようにする。</p>	
<p>つかむ</p> <p>10分</p>	<p>2 40年ほど前と現在の食事を比較し、変化について考える。</p> <p>3 輸入が増えていくと起こりうる問題について話し合う。</p> <p>4 課題を確認する。</p>	<p>○昔の食事と今の食事を比べてみましょう。ちがいについて気付いたことを発表しましょう。</p> <p>・小麦や肉が中心になっていくと、輸入する食料がもっと増えていきそうだ。</p> <p>○食生活が変化している中で、何か問題がありますか。</p> <p>・外国に頼りすぎ。</p> <p>・もし、輸入できなくなったら日本はどうなるのだろう。</p>	<p>△昔の食事の写真と現在の食事の写真の提示</p> <p>△写真の比較から、自由に発言させ、大きく変化したことをおさえる。</p> <p>△日本の食料生産について与える影響について考えさせ、課題につなげていくようにする。</p>	

(3) 展開

(■：直接指導 □：間接指導)

形態	主な学習活動	教師の働きかけ(○) ガイド(●)児童の反応(・)	指導上の留意点(△) 評価規準(◇) 評価方法(◆)	段階
	<p>1 「ペリーの来航」の絵図を見て、外国の力の大きさに気付く。</p> <p>2 開国を迫られた江戸幕府の対応を予想する。</p> <p>3 課題を確認する。</p>	<p>○「ペリーの来航」を見て、日本と外国のちがいについて気付いたことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 整然とした軍隊、大人数 ・ 黒船（戦う大きな船） <p>○ペリーの要求は「開国」であるが、鎖国をしている日本はどのように対応したのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鎖国をしている日本は動揺した。 ・ 幕府の弱さに気づき世の中を変えようとする動き（明治維新）が出てきた。 <p>○課題を確認しましょう。</p>	<p>△「ペリーの来航」拡大絵図を提示。</p> <p>△拡大絵図を活用して、武士や民衆など、それぞれの立場の吹き出しを用意し、考えさせる。</p> <p>△ペリーの持参した国書の資料を取り上げて紹介する。</p> <p>△圧倒的な戦力のちがいに気付かせ、鎖国状態の江戸幕府が兵力の差などで外国から遅れを取っていたことをとらえさせる。</p>	<p>つかむ 8分</p>
	<p>ペリーの来航によって開国した後の社会の様子と、明治維新で中心になった人々について調べ、人々や若い武士たちはどのような思いをもっていたのか考えよう。</p>			
	<p>4 解決方法を把握する。</p> <p>5 自力解決する。</p>	<p>○これから調べることについて確認しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①開国後の社会の様子 ②明治維新で中心になった人物 <p>●教科書や資料を使って調べましょう。</p>	<p>△出来事の流れは年表を使わせ、また、人物については相関図を使用したワークシートを準備する。</p> <p>△ガイドによる進行。</p> <p>△ワークシートはキーワードを押さえつつ、それぞれの疑問、意見についても記入する。</p> <p>△修学旅行で得た情報、資料も使って調べさせる。</p>	<p>調べる 12分</p>



		<ul style="list-style-type: none"> ・日本の農業が心配。 <p>○課題を確認しましょう。</p>	
	日本の食料生産には、どのような問題があるか考えよう。		
調 べ る 12 分	<p>5 解決方法を確認する。</p>	<p>○これから調べることについて確認しましょう。</p> <p>①日本の食料生産が抱える問題点や変化を、グラフから読み取る。</p> <p>②資料を読み取り、気付いたことや考えたことを書いて話し合う。</p>	<p>△ワークシートを準備</p>
	<p>6 自力解決する。</p>	<p>①食料品別の輸入量の変化 〈気付いたこと〉 〈考えたこと〉</p> <p>②産業別の人口のわりあいの変化 〈気付いたこと〉 〈考えたこと〉</p> <p>③土地利用の変化 〈気付いたこと〉 〈考えたこと〉</p>	<p>◇資料（グラフ）から読み取ったことをもとにそれぞれの観点について、ワークシートに記入しているか。 [思・判・表]</p> <p>◆ワークシートの記載内容や児童同士の話し合いによる。</p> <p>△教科書、資料集、地図帳を活用させる。</p> <p>△自力解決であるが、低位の子にはペアで学習させるなど配慮する。</p>
			
ま と	<p>7 調べたことを発表し、確認する。</p>	<p>○調べたことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洋風の食事が増えて、肉や小麦など輸入する食料が増えて 	<p>△それぞれの発表を聞き合い、自分の書いたものと比べさせる。</p>



△早く終わった児童には、人物について、その功績等、さらに詳しく調べさせる。

6 調べたことを発表し、確認する。

○調べたことを発表しましょう。
①開国後の社会の様子

△年表を年代順に確認する。
△用語について、随時解説する。
△維新の三傑について、その功績を確かめさせる。

まとめ

7 明治維新へ向けての人々の思いを考える。

○若い武士たちは幕府の対応を知り、どういう国を目指さなければならぬと考えたのでしょうか。
・幕府の対応には大きな不満。
・言いなりにならず、自分たちで動かす、強い国をつくろう。

◇ペリーの来航が国内生活を混乱させ、幕府への不満を募らせたことや、江戸幕府よりも強い政府が必要と考えた若い武士たちが明治維新を進めたことを理解できたか。

10分

8 まとめ

○今日の学習についてまとめましょう。

[知・理]

◆ワークシートへの記述内容や発言による。

黒船の来航から開国までの流れの中で、若い武士たちは外国に負けない国づくりを目指し、新しい時代をつくる動きを進めた。

9 幕府の終わり時代の変化について「江戸城開城」の話合いを想像する。

○学習したことをもとに、西郷隆盛と勝海舟の話合いの場での会話を再現してみましょう。



*勝海舟と西郷隆盛の話合い図（吹き出し入り）を提示。

ひろ

め る 13 分		<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまりにも外国に頼りすぎているのではないかな？ ・日本では、食料生産の力が落ちってしまうかも知れない。 	<p>△発表したことをワークシートの構成に沿って板書にまとめていく。</p> <p>△3つの資料は関連するものなので、互いを結び付けた意見も大いに推奨していく。</p> <p>△教科書の資料を活用。</p>
8 食料生産の問題点について考える。	<p>○農業協同組合の後藤さんの話を読み、考えたことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸入する食料も大切だけど、国内の食料生産が減り、自給率が下がってしまうのも問題だ。 	<p>◇我が国の食料生産には、食料自給率の低下について問題があることを理解できたか。[知・理]</p>	
9 まとめる	<p>食生活の変化や就業人口の減少、国内の農業生産や漁業生産の減少により、食料自給率が低下していること。</p>		<p>◆調べる観点を示したワークシートへの記述内容や発言による。</p>
10 次時予告	<p>○次回は食べ物の安全や安心について調べていきましょう。</p>		

(4) 授業を終えて (◎よかった点・△改善点)

- ◎昔の食生活と今の食生活を比較し、考えさせてから答える過程が良かった。
- ◎日本の食生活の未来像に迫る指導をしていた。児童の見方・とらえ方を生かすような活動が開かれ、これからの食料生産について多面的に考える学習となっていた。
- ◎自分で作業を進められるようなワークシートだったため、自力解決をする間接指導時でも集中して考えていた。児童の実態に合わせた難易度のあるワークシートの準備が良かった。
- ◎ガイドの統率のとれたリードぶりが見事であった。
- △児童は自分の考えを文にまとめていたが、3つのグラフについての記載というよりも、1つのグラフに絞り、話し合いを活性化させていくことも有効である。
- △準備した資料は説明をするとどうしても時間がかかってしまう。資料の精選が必要である。

	<ul style="list-style-type: none"> ●吹き出しに記入してください。 ●発表しましょう。 ●今日の学習について感想を書きましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> *同様のワークシートを準備。 △ガイドによる進行。 △感想交流をさせる。 	げ る 15 分
			
10 次時予告	○次回は大久保利通と明治政府の新しい改革について調べていきましょう。		

(4) 授業を終えて (◎よかった点・△改善点)

◎大統領の親書の朗読も、大統領になりきって紹介していて、児童にもインパクトがあった。

◎学習の流れをパターン化するのも効率がよいし、一人学びにも有効である。

◎学年が上の場合でも、写真などの資料は印象が強く、効果的である。

◎直接指導の時はガイドの進行ではなく、教師が押さえないところをしっかりと指導し、学習を展開していた。

△学習時間 (45分) を考えると、内容が少し盛りだくさんであった。主要人物の調べ活動などは別に設定し、この時代の社会の様子について、もっとじっくりと話し合う活動があってもよかった。

事例 2) 第 5 学年 社会科学習実践事例 (児童数 8 名)

1 小单元名 「情報産業とわたしたちの暮らし」(東京書籍)

2 小单元について

(1) 児童の実態

児童の日常会話に耳を傾けると、テレビや新聞、インターネットなどから、多くの情報を受け取りながら生活を送っていることが分かる。わたしたちの身の回りには、数多くのメディアがあるが、事前調査を見ると、中でも児童がより多くかかわっているのは、「テレビ」ということが分かった。

そこで本小单元では、まず、情報を伝える側の学習として「テレビ」を取り上げる。事前調査から、ニュース番組を視聴している児童は多くないことが分かった。しかし、それでも保育園のときに経験した東日本大震災時、繰り返し放送されていたニュースについては、強く印象に残っていた。そこで、小单元の導入は、震災の状況を伝えるニュース番組の写真や映像資料を取り上げる。発問や問い返しを工夫しながら、資料から感じたことや考えたことを自由に意見交換させ、「放送局では、どのように番組をつくっているのか」「番組づくりの工夫や努力はどんなものがあるのか」「情報を受ける側が気を付けるべきことは、どんなものか」といった単元の学習問題をつくりたい。その後、それらの問題を解決していくための学習を進めていくことになるが、児童がよく視聴している番組を事例として取り上げたり、児童の利用率が高いインターネットを使って調べ学習をさせたりするなどして、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫しながら学習を進めていきたい。

(2) 小单元の特性

本小单元は、学習指導要領第 5 学年の内容 (4) ケを受けて設定したものである。

近年、情報化の進展は著しく、社会は情報に溢れている。その中で、わたしたちは、テレビや新聞、インターネットなどのメディアから、気軽に、また、知らず知らずのうちに、多くの情報を得ている。これらの情報は、わたしたちの生活の向上・充実の一翼を担っているが、その一方で、責任ある情報の発信や大量に氾濫する情報の活用などが課題として挙げられている。そして、それらが原因で、事件・問題行動に至ってしまうケースが出ているということが現状としてある。

そこで、本小单元では、まず、情報を伝える側の学習として、ニュース番組のつくり方や番組編成の工夫について資料を基に調べさせていく。その中で、情報を発信する側の人々は、より速く・正確に・分かりやすく情報を発信しようとしていることや視聴する人のニーズに合わせた番組づくり・編成をしていることなどの工夫や努力に気付かせたい。その後、情報を受け取る側の学習として、報道被害の事例について取り上げる。その中で、情報をうまく活用するためには、情報を取捨選択したり見比べたりすることが必要であるということを考えさせたい。単元を通して、情報を発信するときの役割や責任、情報を受け取る時の判断の仕方を身に付けさせ、生活の中で生かすことができる児童を育てたいと考えている。

第6学年 社会科学学習実践事例（児童数5名）

1 小単元名 「長く続いた戦争と人々の暮らし」（東京書籍）

2 小単元について

(1) 児童の実態

児童は、総合的な学習の時間の中で、戦争や当時の生活の様子について簡単な調べ学習を経験している。その成果もあり、事前調査では、以前、大きな戦争があったことやその相手国の一つがアメリカであるということについて全児童が理解していた。また、日本が空襲を受けたことや戦争に負けたことについて記述している児童もいるなど、断片的な知識はもっている。さらに、これから学習してみたいこととして、「戦争が起こった原因について知りたい」「戦時中の日本の様子について知りたい」など、戦争の全体像にかかわる意見を挙げていた児童が多かった。

そこで、本小単元では、まず、東京大空襲や広島原爆、沖縄戦の写真の様子を読み取らせたり、考えたことを意見交換させたりしながら、「このような悲惨な戦争はどうして起こってしまったのか」「戦時下の国民の生活はどのようなものだったのか」といった単元の学習問題をつくりたい。その後、満州事変から第二次世界大戦が終わるまでの15年間について、断片的な知識をつなげるように発問や板書を工夫しながら一つ一つのできごとを丁寧に整理し、戦前・戦中の流れや歴史的背景、戦時下の国民生活についてとらえさせていきたい。その上で、単元の最後に、学習問題や戦争・平和について自分なりの考えをまとめさせる。戦争をより広い視野でとらえさせるためにも、単元を通して、当時の様々な立場の人たちについて取り上げたり、その人々の気持ちを考えさせたりしたい。

(2) 小単元の特性

本小単元は、学習指導要領第6学年の内容（1）ケを受けて設定したものである。

本小単元では、満州事変から第二次世界大戦が終わるまでを扱う。まず、昭和に入り、我が国は、第一次世界大戦以降続いていた不景気の打開や満州での権益を守るために中国に戦場を広めたこと、資源を求めアジア支配に向かったことにより米英と対立し、太平洋戦争に突入していったことを理解させる。また、戦時体制により国民生活のすべてが戦争に注がれていったことや中国をはじめとする諸国に大きな損害を与えたことについて調べさせる。それらを通して、戦争は決して肯定できない行為だという認識をもたせ、我が国を担っていく社会の形成者として、二度と戦争を起こさないという決意をもたせたいと考えている。そして、これらの学習を、民主的な国家として出発し、国際社会の中でも重要な役割を果たすようになった戦後の学習につなげていきたい。

3 小単元の目標

情報産業とわたしたちの暮らしについて関心をもち、資料や新聞記事などで意欲的に調べることを通して、情報産業が果たす役割の大切さを理解し、それらが国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用の仕方について考えることができるようにするとともに、学んだことを日常生活に生かそうとする態度を養う。

4 小単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用技能	社会的事象についての知識・理解
情報産業と国民の生活とのかかわりに関心をもち、意欲的に調べるとともに、情報を有効に活用しようとしている。	情報産業と国民生活とのかかわりを関連付けてとらえ、情報は、わたしたちの生活に大きな影響を及ぼしていることや、情報の有効な活用の仕方について考え、適切に表現している。	情報産業と国民生活とのかかわりについて、資料を活用して必要な情報を集め、情報を発信する側の役割や責任について読み取ったりまとめたりしている。	わたしたちは、生活の中で多くの情報を受け取っていることや、情報を発信する側の工夫について理解している。

5 指導と評価の計画（全6時）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準（◇）・評価方法（◆）
一	1	①東日本大震災時、放送局がすばやく情報を伝えられたわけについて調べる。	・資料を見せたり、自分自身の経験とも結び付けたりしながら、感じたことや考えたことを自由に話し合わせることで、これからの学習への意欲を高める。	◇東日本大震災時、放送局は、各種関係機関から情報を収集していたことや働いている人々は様々な工夫・努力をしていたことについて調べようとしている。[関・意・態] ◆発表の内容・ノートの記事による。
	2	②東日本大震災時、放送局がどのように情報を発信していたのかを知り、放送局の番組のつくり方やそれに携わる人々の工夫や努力、情報の生かし方に関心をもち、学習問題をつくとともに、それらについて予想を立てる。	・情報を伝えるメディアは様々あるが、この小單元では、児童にとって最も身近なメディアである「テレビ」を取り上げていくことを確認する。	◇放送局の番組づくりの仕方や放送局で働く人々の工夫や努力、情報の生かし方などについて、学習問題を考え、既習や経験を基に予想している。[思・判・表] ◆発表の内容・ノートの記事による。
二	3	③資料を基に、テレビの	・教科書の資料と合わせ	◇放送局では、より速く・正確に・

3 小単元の目標

戦争の様子やその頃の国民生活、それらにかかわる代表的な文化遺産について関心をもち、写真や地図、年表、グラフなどの資料を活用して意欲的に調べることを通して、我が国が戦時体制に移行したことや敗戦によって国民が大きな被害を受けたことを理解するとともに、戦争やその頃の国民生活の歴史的背景、それらに関わる代表的な文化遺産の意味、平和の尊さなどについて考えることができる。

4 小単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用技能	社会的事象についての知識・理解
戦争の様子やその頃の国民生活、それらにかかわる代表的な文化遺産に関心をもち、それらを意欲的に調べ、平和の尊さについて考えようとしている。	満州事変・日中戦争・第二次世界大戦について戦争の実態や起こった原因、戦争下の国民生活、平和の尊さなどについて思考・判断したことを適切に表現している。	長く続いた戦争と人々の暮らしについて、地図や写真資料、文書資料、年表などを活用し必要な情報を集め、15年間に渡って戦争が続き、我が国の国民やアジア・太平洋地域に住む人々に大きな損害を与えたこと、敗戦によって国民が大きな被害を受けたことなどを読み取ったりまとめたりしている。	15年間にわたって戦争が続き、我が国の国民やアジア・太平洋地域に住む人々に大きな損害を与えたこと、国民が大きな被害を受けたことを理解している。

5 指導と評価の計画（全7時）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準（◇）・評価方法（◆）
一	1	①戦時下の写真から、15年にわたって戦争が続いたことを知り、戦争が起こった原因やその頃の国民の生活について関心をもち、学習問題をつくる。	・東京大空襲、沖縄戦、原爆の写真を取り上げることで、これからの学習への関心を高める。	◇東京大空襲、沖縄戦、原爆の様子を写した写真を基に、戦争の様子や当時の人々の生活に関心をもち、意欲的に調べようとしている。 [関・意・態] ◆発表の内容・ノートの記事による。
二	2	②年表や地図などの資料から、我が国が不況の打開や満州での権益を守るために戦場を中国全土に広げ、中国の人々に大きな損害を与えたことについて調べる。	・地図や年表を基に、中国の戦場が拡大していったことを視覚的にとらえることができるようにする。 ・「満州移住を呼びかけるポスター」を基に、当時の政府が満州を重視していたことについて考える活動を取り入れる。	◇我が国が不況の打開や満州での権益を守るために戦場を広げ、中国の人々に大きな損害を与えたことを理解している。[知・理] ◆発表の内容・ノートの記事による。
	3	③戦争の広がりや当時の	・地図を基に、太平洋地域の	◇地図や写真資料、文書資料、年表

		ニュース番組がどのようなにつくられているのかについて調べる。	て、「NHKデジタルミュージアム」を参考に、テレビ番組ができるまでの流れについて調べさせる。	分かりやすく情報を伝えるため、様々な工夫や努力をしていることを資料や新聞から読み取っている。[技] ◆発表の内容・ノートの記事による。
4	④	新聞のテレビ欄を見て気が付いたことを発表し合い、放送局の番組編成の工夫について気付く。	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビの視聴について、児童の経験とも照らし合わせて、新聞のテレビ欄を見ながら話し合わせることで、意欲を高める一助とする。 ・「知る番組」と「楽しむ番組」という観点で分類させ、放送の時間帯について調べさせることで、放送局の番組編成の工夫について気付かせる。 	◇放送局では、テレビ番組を視聴者が見る時間帯に合わせて編成していることを理解している。[知・理] ◆発表の内容・ノートの記事による。
三	5 (本時)	⑤マスコミの誤報によるえん罪事件の事例を通して、これからどのように情報にかかわっていくべきかについて自分なりに考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは、情報を発信する側の学習をしてきているが、本時は情報を受ける側の学習であるということをおさえる。 ・松本サリン事件について取り上げ、情報とのかかわり方について自分なりの考えをもつ。 	◇情報を受け取る際には、情報を選択したり、信憑性を判断したりしながら、自分自身で真実を求めていくことの大切さについて考え、表現している。[思・判・表] ◆発表の内容・ノートの記事による。
四	6	⑥これまでの学習を振り返り、情報を発信する側と情報を受け取る側のそれぞれが心がけることや、情報の生かし方について自分なりの考えをもつ。	・情報を発信する側の使命や責任、情報を受け取る側の心構えの両方を丁寧に振り返り、学習した言葉を使って考えをまとめさせる。	◇これからの情報とのかかわり方に関心をもち、責任ある情報の発信の仕方や有効な情報の利用の仕方について考え、生活に生かそうとしている。[関・意・態] ◆発表の内容・ノートの記事による。

	日本の状況と関連付けて考え、戦争が世界に広がっていった背景について話し合う。	戦場の拡大について視覚的にとらえることができるようにする。 ・世界の様子と我が国の現状を関連付けて考えさせ、戦争が広がっていった背景についてまとめさせるようにする。	などを活用し、戦争の広がりを世界の様子と当時の我が国の状況とを関連付けて考え、資源を求めてアジアに進出し、米英などと対立し、戦争が広がっていったことを読み取っている。[技] ◆発表の内容・ノートの記述による。
4 (本 時)	④戦時中の国民の生活の様子について調べたことを基に、国民生活すべてが戦争に注がれていった当時の社会状況について考える。	・年表や資料だけでなく、地域の人々から聞き取りをさせながら、戦争中の生活の様子について調べるようにさせる。 ・戦争の様子と国民生活を関連付けて考えさせ、国民の生活すべてが戦争に注がれていった背景について考えさせる。	◇戦争中の生活の様子について、我が国の戦時下の国民生活についての資料（学校生活、食料事情、家庭生活、その他）を比較・関連付けて考え、国民生活のすべてが戦争に注がれていたことをまとめた発表したりしている。[思・判・表] ◆発表の内容・ノートの記述による。
5	⑤都市の地図や写真、東京大空襲の体験談をもとに、空襲で兵士以外にも多くの国民が各地で犠牲になったことを調べる。	・地図や写真を基に、空襲を受けた都市を調べさせ、被害の広さをとらえさせる。	◇空襲による被害で、兵士以外にも多くの国民が各地で犠牲になったことを読み取っている。 [技] ◆発表の内容・ノートの記述による。
6	⑥写真や戦争体験談をもとに、戦争末期のできごとについてまとめ、戦争によって日本国民やアジアの人々など、多くの人々が大きな犠牲を受けたことに気付く。	・東京大空襲や青森空襲の体験談を紹介し、空襲の被害について考え、話し合わせる。 ・沖縄戦、原爆投下の際の写真や手記を調べさせ、分かったことや考えたことを話し合わせる。	◇沖縄戦や広島・長崎への原爆投下により、多くの国民が犠牲になって敗戦を迎えたことを理解している。[知・理] ◆発表の内容・ノートの記述による。
三	7 ⑦これからまで学習を振り返り、戦争に対する自分なりの考えをまとめる。	・学習の導入で取り上げた学習問題について自分なりの考えをまとめさせるとともに、原爆ドームがどうして世界遺産に選ばれたのかを考え、話し合わせる。	◇世界文化遺産の原爆ドームに関心をもち、二度とこのような悲惨な戦争をおこさず平和な世の中をつくっていくことの大切さを考えている。[関・意・態] ◆発表の内容・ノートの記述による。

6 本時の指導（5／6時）

(1) 目標

メディアで流される情報が私たちの生活にもたらす影響を考え、情報を受け取る側として、これからどのように情報にかかわっていくべきかについて自分なりにまとめることができる。

(2) 展開に当たって

児童は、前時までにテレビ局のニュース番組制作について学習し、それにかかわる人々は、信念をもち、「より速く・正確に・分かりやすく」情報を伝えようとしていることや視聴する人のニーズに合わせた番組づくり・番組編成をしていることを学習してきている。本時は、情報を伝える人々の工夫や努力を前提として、1994年6月に起きた松本サリン事件の事例から、わたしたちの情報の受け止め方について考えさせる。

事前調査によると、児童も信頼性の高いものとそうでないものがあるということは頭では分かっている。信頼できるものとしては、テレビや新聞のニュース、図書資料を挙げている。しかし、それらの情報でさえ、必ずしも正しいとは限らないという事象に出会わせることで、わたしたちの身の回りに溢れている情報の取捨選択、正否についての判断の重要性に気付かせたい。そして、それを、第3小単元の「情報を生かすわたしたち」の学習へと発展させていきたいと考えている。

(3) 展開

(■：直接指導 □：間接指導)

段階	主な学習活動	教師の働きかけ(○)・ガイド(●)・児童の反応(・)	指導上の留意点(△)・評価規準(◇)・評価方法(◆)	形態
つかむ(10分)	1 これまでの学習を振り返り、テレビニュース番組制作に携わっている人々の工夫や努力を確認する。	○テレビ番組づくりに携わっている人々は、どんなことを考えながらニュース番組をつくっていましたか。 ・速く、正確に、分かりやすくに気を付けている。 ・公平、公正に伝える、ということに信念をもって作っている。	△前時までのニュース番組づくりの学習を想起させながら「速く、正確に、分かりやすく」が心がけられていることを確認する。	■
	2 ニュース番組の情報がすべて正しいのかどうかを、予想する。	○新聞でニュースを伝える人々は、どんなことを考えながら作っているのでしょうか。 ・テレビでニュースを伝えている人々と同じ気持ちだと思う。 ○では、テレビや新聞で伝えられるニュースは、すべて正しいといえるのでしょうか。 ・テレビや新聞は正しいと思う。	△現状の知識や経験とも照らし合わせながら考えさせる。	
	テレビや新聞のニュースの情報はすべて正しいといえるのだろうか。	・インターネットはあやしい。		



6 本時の指導（4／7時）

(1) 目標

戦時下の国民生活の様子について調べたことを基に、生活のすべてが戦争に注がれていったという当時の社会状況について考えることができる。

(2) 展開に当たって

児童はこれまでに、日中戦争の経緯やそれによる日本、中国双方の損害、太平洋戦争が起こった経緯について学んできている。それを受けて本時では、「戦争中、国民は、どんな生活を送っていたのか」ということについて考えさせる。児童は、本時に入る前に、事前に「学校生活」「家庭生活」「食料事情」「その他」の4つの事項の中で、自分が興味・関心をもったことについて、教科書や資料集、家族・地域の方々への聞き取り等で調べている。そして、それを基に一人一人が、戦時下の国民生活について自分なりの言葉でまとめている。児童は、自分で考えたことに執着しがちで、友達の発表を参考に考えを広げたり深めたりすることが得意とはいえない。

そこで、発問や板書を工夫しながら、戦時下の国民生活について自分が調べたことや考えと、友達の発表を比較したり関連付けたりさせることで、多様な視点から国民生活のすべてが戦争に注がれていったことに気付かせたい。

(3) 展開

(■：直接指導 □：間接指導)

形態	主な学習活動	教師の働きかけ(○)・ガイド(●)・児童の反応(・)	指導上の留意点(△)・評価規準(◇)・評価方法(◆)	段階
	1 めあてを確認する。	●前時につくっためあてを確認しましょう。	△めあては前時につくっている。授業の冒頭は、それを確認する程度とする。	調べる (17分)
	戦争中、国民は、どのような生活を送っていたのだろうか。			
	2 自分が調べてきた事項について発表するとともに、それを基にして考えた国民の生活について意見を出し合う。 ・学校生活について発表する。 ・食料事情について発表する。	●調べてきたことを発表しましょう。 ・当時、女学生も工場で働いていた。 ・兵士が不足し、大学生も戦争に駆り出されることになった。 ・だから、戦時中、国民は、国のために働く生活をしていたといえる。 ・農作物を生産する働き手がないので、食料不足になった。 ・食料や衣料品、生活用品までもが配給になった。 ・だから、戦時中、国民は、まずし	△発表を聞くときは、必要に応じてメモをとるようにさせる。 △教師がわたってきたとき、資料と資料を比較したり、関連付けたりしたことを板書することで、国民生活について考えを広げたり深めたりするための一助とする。 △分からない用語などがあつたときは、その都度質問させたり調べたりさせる。	

調 べ る (15 分)	3 松本サリン事件についての新聞記事の見出しを読み取り、新聞の情報でさえも、正しくない情報があることに気付く。	●まず、松本サリン事件についての新聞記事の見出しを読み取りましょう。そして、誰が犯人なのか、事件についてどう思うかをノートに書きましょう。 ・犯人は会社員だと思う。 ・許せない事件だ。	△松本サリン事件についての資料を提示する前に、地元について取り扱った記事を提示し、新聞記事の読み取りの仕方について教える。 △資料を読み取る視点として、5W1Hで読み取るように指示する。 △資料は時系列順に読み取らせる。 △難しい言葉については、教師の方で補足する。	同 時 間 接
 	4 記事を読んで勘違いしないためには、どんなことが大切だったかを考える。	○犯人は、会社員ではありませんでした。他にいたのです。新聞の情報ですら、すべて正しいといえますか。 ・正しいとはいえない。 ・疑われた人は大変。		
ま と め る (15 分)	5 友達の発表をもとに、情報を受け取る時にどんなことが大切かをノートに書き、それを基に話し合い、学習をまとめる。	○みなさんが正しい情報を届けてくれると考えていた新聞でさえも、誤った情報を伝えることがある、ということが分かりました。テレビのニュースにも同じことが言えますね。これまでの勉強を基に、わたしたちが情報を受け取る時に、どんなことに気を付けなければならないか、自分の考えを書きましょう。	△自分自身の考えをノートにまとめさせたあと、それを発表し合い、共通のまとめとする。 	

同
時
間
接

- ・家庭生活について発表する。
- ・その他について発表する。

- い生活だったといえる。
- ・空襲が激しくなることを予想して、防火訓練をしていた。
- ・児童は、戦火を逃れるために地方へ疎開して生活した。
- ・だから、戦時中、国民は、命を守る生活をしていたといえる。
- ・マンガ本すら戦争一色だった。
- ・「贅沢は敵だ」等の標語もできた。
- ・だから、戦時中、国民は、一致団結して戦争に向かう生活をしていたといえる。



3 友達の発表を基に、戦時下の国民はどのような生活をしていたと言えるか自分の考えをノートに書き、それを基に話し合い、学習をまとめる。

- みんなの発表を基に、戦時中、国民は、どのような生活をしていたと言えるか、自分の考えを書きましょう。



- 書いたことを発表し合い、戦時中、国民は、どのような生活をしていたと言えるのか、みんなの考えを基にまとめましょう。

- △友達の発表や板書を基に、自分の考えをノートにまとめさせる。
- △それぞれの考えを発表し合い、意見をまとめさせる。

まとめる
(13分)

- ◇戦争中の生活の様子について、我が国の戦時下の資料(学校生活、食料事情、家庭生活、その他)を比較・関



○書いたことを発表し合い、わたしたちは、情報を受け取る時に、どんなことに気を付けなければならないのかをまとめましょう。

- ・情報を受け取る時は、本当なのか確かめなければならない。
- ・一つのメディアでなく、いろいろなメディアから情報を受け取らなければならない。

◇情報を受け取る時には、情報を選択したり、信憑性を判断したりしながら、自分自身で真実を求めていくことの大切さについて考え、表現している。[思・判・表]

◆発表の内容やノートの記述による。

テレビや新聞のニュースでさえもすべて正しいとは言えない。だから、情報はそのまま信用することなく、何が正しいかを考え、判断することが大切である。


広げる・深め

6 学習の振り返りをノートに書くとともに、次時の学習内容の見通しをもつ。

●学習の振り返りをノートに書きましょう。終わったら、ノートに書いたことを交流しましょう。

- ・これからは、勘違いしないように、情報を見比べたり確かめたりしていきたい。

△振り返りの中で、他のメディアに興味に向いている児童の内容を取り上げ、次時につなげたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・苦勞しながら生活をしていて、ということが共通している。 ・戦争に勝たなかったから苦しい生活に耐えられたのだと思う。 	<p>連付けして考え、国民生活のすべてが戦争に注がれていたことを文章のまとめたり発表したりしている。</p>	
<p>戦争中、国民は、戦争に勝つために、大人も子どもも必死に生活をしてきた。</p>		<p>[思・判・表] ◆発表の内容やノートの記述による</p>	
<p>4 青い目の人形を取り上げ、青森県の人々はどんな生活していたか考えたか考える。</p>	<p>○青森県の人々は、戦争中どんな生活をしていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここまで大変ではなかったと思う。 ・新郷村にも八戸から食料を買いに来たそうなので、こちらの方も同じだったと思う。 <p>○親善が目的で送られた青い目の人形は、戦時中、どうなったのか予想し、確かめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・焼くとか海に捨てるなどがある。 ・青森県でも戦争に勝ちたいという気持ちで生活に耐えていたんだ。 	<p>△家族・地域の方々への聞き取り等で調べたことを基に発表させる。</p> <p>△児童に予想させたあと、当時の新聞資料を基に確かめる。</p> <p>△まとめに吹き出しで「日本中」を加える。</p>	<p>深める・広げる(8分)</p>
<p>5 学習の振り返りをノートに書く。</p>	<p>●学習の振り返りをノートに書きましょう。</p>		
<p>6 児童の振り返りの交流を基に、次時のめあてをつくる。</p>	<p>●ノートに書いたことを交流しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本中の国民が大変な苦勞をしていたことが分かった。 ・今後、戦争がどうなっていったのか知りたい。 ・日本は、原爆で大きな被害を受けたと聞いたことがある。 <p>○日本が受けた被害には、どんなものがあるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原爆、東京大空襲、沖縄戦。 <p>○日本が受けた被害は、これだけですか。</p>	<p>△振り返りやそれに対する意見交流の中で、発問や問い返し等を工夫し、日本が敗戦したことや日本の被害について取り上げ、東京大空襲や沖縄戦、広島・長崎の原爆の写真を資料として提示していく。</p> <p>△「東京大空襲」「沖縄戦」「広島原爆」「長崎原爆」「その他」の5つで、興味があるものについて話し合わせ、何を調べてくるかを</p>	<p>つかむ(7分)</p>

る
(
5
分
)

・もっと違うメディアについても調べてみたい。

○どんなメディアについて調べてみたいですか。

・インターネット。

○今度は、インターネットについて勉強していきましょう。




(4) 授業を終えて (◎よかった点・△改善点)

◎松本サリン事件という具体的な事例を取り上げたが、当時の新聞記事を準備したことで、児童の興味関心が高まった。また、普段、新聞を読むという経験が少ない児童が多かったため、見出しを時系列で集め資料としたが、それらを読んで児童は、犯人を「会社員」だと思い込んでいた。そこで、犯人は「会社員」でなかったことを教えたが、児童は大変驚いていた。その驚きが、情報を正しく受け取るために大切なことはどんなことなのかを考える必要感につながった。

◎本時では、正しい情報を届けてくれていると思っていた新聞でさえも、誤った情報がある、ということに気付かせた上で、情報を受け取る時に気を付けなければならないことについて、まず、各自でまとめさせた。その後、全体で話し合う活動を取り入れたことで、一人一人の学びを深めることができた。個々の知識や考えを基に仲間で学び合うことで、よりよい答えが導き出されていくことを検証できた。

△本時では、1994年に起きた松本サリン事件の新聞報道を教材として取り上げ、情報との関わり方について考えさせたが、児童が問題意識をより明確にもてるような教材の開発や発問の工夫については、今度も研究していきたい。

	・他にもあると思う。	決める。
日本は戦争で、どんな被害を受けたのだろう。		
	○東京大空襲、沖縄戦、広島原爆、長崎原爆、その他の被害について教科書や資料集などを使って調べます。どれについて興味をもちましたか。調べたいことを相談して決めましょう。	

(4) 授業を終えて (◎よかった点・△改善点)

◎本時の授業は、5年生の方を、一般的な「つかむ」「調べる」「まとめる」「深める・広げる」という学習過程で進めた。一方、6年生の方は、「調べる」「まとめる」「深める・広げる」「つかむ」という学習過程をとった。6年生児童は、前時に学習課題を設定し、家庭で教科書や資料集、家族や地域の方々への聞き取りをしている。本時は、それらを発表するところから授業をスタートさせた。6年生は、授業の前半、調べたことを活用しながら、めあてに向かって自分たちで学び合っていたので、その時間を使って5年生へじっくり直接指導できた。この学習過程の「ずらし」は、調べ学習を活用した授業を展開するのに有効であった。(※複式指導の観点から5・6年合わせての成果)

◎児童は、本時まで「学校生活」「食料事情」「家庭生活」「その他」の4つの観点の中から、自分が興味をもったことについて各自調べ学習をしている。そして、それらの観点から戦時下の国民生活の様子について考え、自分の言葉でまとめている。本時の授業で発問や問い返し、板書等を工夫しながら、それらを比較・関連付けさせる活動を取り入れたことは、社会的事象を多面的にとらえる力を高めることにつながった。

△家庭で意欲的に調べ学習に取り組ませられるようにするためには、それに向けて教材提示の工夫やめあてを焦点化させるための発問等が必要になってくる。これらのことについては、さらに研究を進め、児童が意欲的に活動に取り組めるように努めていきたい。

第 3 章

理 科

第3章 理科

第1節 理科教育の目標と役割

1 現状と課題

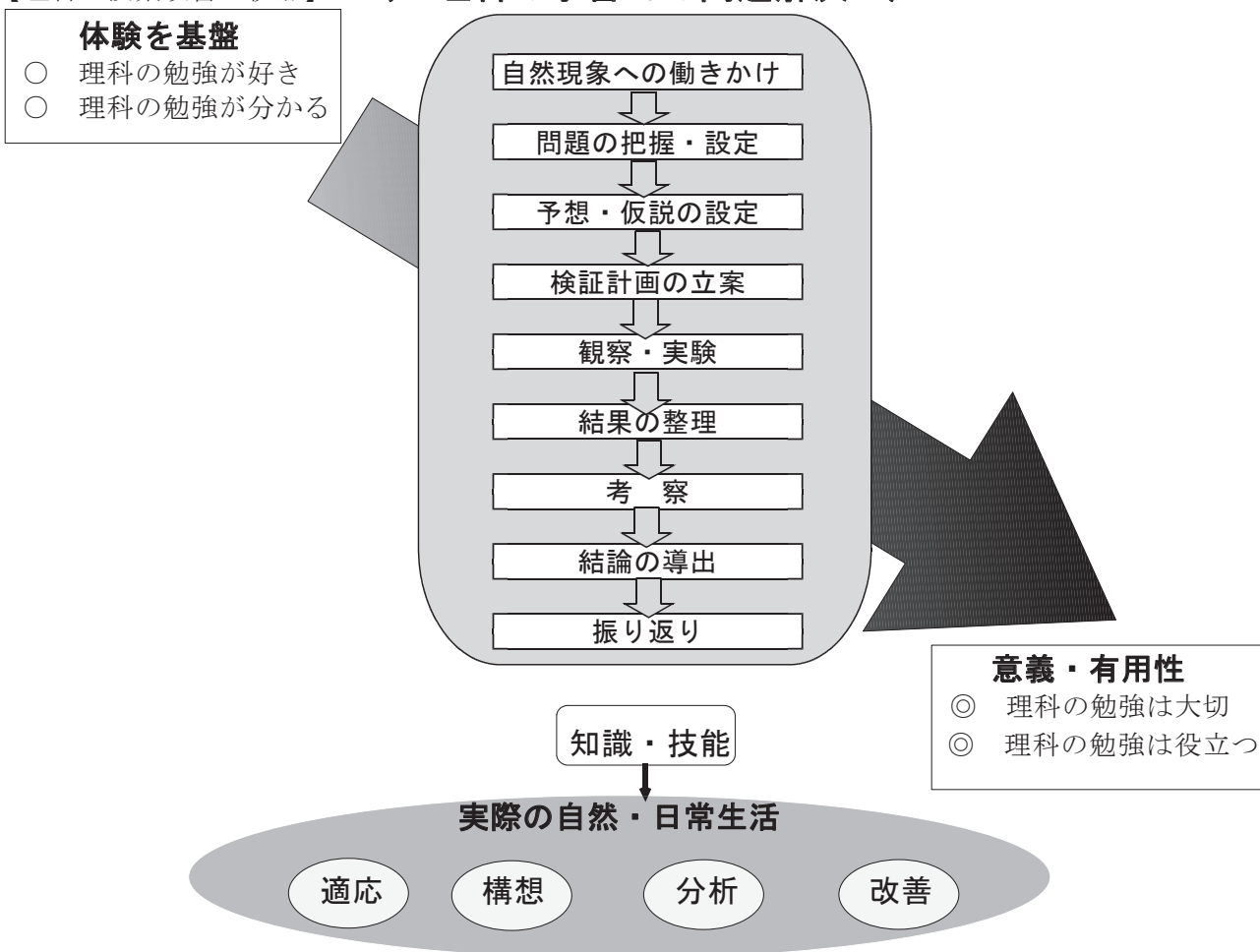
(1) 理科の指導で求められていること

学習指導要領における理科の目標は、自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養うことである。

理科においては、発達の段階に応じて、知的好奇心や探究心をもって自然に親しみ、目的意識をもった観察、実験を行うことにより、科学的に調べる能力や態度を育てるとともに、科学的な見方や考え方を養うこと等に重点を置いて、小・中・高等学校の系統性にも留意することとしている。

【理科の授業改善の視点】

〈 理科の学習での問題解決 〉



【「全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会」平成27年 国立教育政策研究所】

理科では、「問題解決的な学習」が求められる。問題解決的な学習の充実は、問題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶことである。問題解決の流れに沿った学習過程により、学びの質や深まりを大切にする。

(2) 課題

理科の勉強が楽しいと答える中学生及び高校生の割合が国際的に見ても低い傾向があるなど、学習する楽しさや学習する意義の実感等については、更なる充実が求められる。日進月歩で発展する科学技術と自然の事物・現象との関係を実感する機会をもたせることにより、理科好きな子どもたちの裾野を拡大していけるよう、小・中・高等学校教育全体を通じて改善していくことが一層求められる。

さらに、地球温暖化やエネルギー資源等の地球規模の課題に対して、科学技術・学術研究の先進国として世界をリードしていくことを目指すことが求められる。

次期改訂に向けては、幼児期に恵まれた自然との関わり等の基礎や、小学校低学年に生活科をはじめとする学習を通じて身に付けた資質・能力の上に、小・中・高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力を、三つの柱「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」に沿って明確化し、各学校において、実生活との関わりを意識した探究的な活動の充実を図っていくことが求められる。

次に、理科の目標の理解を深めるため、以下のことに留意する。

① 自然に親しむこと

見通しをもって観察、実験を行うため、自然の現象に直接触れ、疑問を生み出す。

② 見通しをもって観察、実験を行うこと

「なぜ」ではなく、仕組み、規則性、共通性など科学的な視点をもって因果関係を明らかにする。規則性が分かることで仲間分けの根拠となり見通しをもつことへとつながる。

「どのようになっているのか」「どのようなときにおこるのか」という視点を大事にする。

③ 問題解決の能力を育てること

ア 問題を見いだす

- ・関心や意欲をもって自ら問題を見だし、学習活動の基盤を構築する。
- ・問題意識醸成のための意図的な活動を工夫し、気づきや疑問を引き出す。

イ 追究する課題の設定

- ・観察、実験に見通しや目的意識をもって取り組ませることで、自立的な学習ができるようにする。
- ・解決の見通しをもてる課題を設定する。児童の予想や仮説を明確にする。
- ・「調べてみよう」から「何が、どのように？」へと学習課題を具体化する。
- ・観察、実験の計画を立てたり、条件の制御を考えさせたりしていく。

ウ 結果と考察

- ・結果と考察を区別し、根拠を明確にした論理的な思考力や表現力を育てる。
- ・結果を分かりやすく整理する活動及びその結果を基に論理的に思考する活動を意図的に設定する。

④ 学習評価（振り返り）

自分の考えがどう変化していったのか、単元の中で、又は授業ごとに振り返らせることで気づきを引き出し、それを記録させる。振り返るための見通しを大切にする。

2 学年別指導（複式指導）における理科の指導の在り方

(1) これから求められる指導

理科は、日常の自然現象を教材としている。そこで、まず、児童自ら、自然の事物・現象の特性や内容に興味・関心をもち、それらに主体的に働きかける姿勢をもつ必要がある。一般に、複式学級の存在する地域は自然環境に恵まれているが、自然の豊富さにより児童の自然現象への興味・関心が高くなるとはいえない。日頃から自然現象について、面白いと思うこと、不思議に思うこと、こうなってほしいと思うこと、調べてみたいこと、作ってみたいものなどを話し合ったり、メモやノートなどに書き出して、記録したりする習慣を身に付けておくことが大切である。そのために、児童が自然現象との継続的な関わりをもてるよう、教師が適切な場の設定と支援を行う必要がある。

複式指導では、教師が一方の学年に直接指導する際、他方の学年には間接指導することになる。間接指導時には、児童が学習を進めることになるため、理科における学び方を身に付ける必要がある。また、学習の内容・問題の把握・解決の方法等について、可能な限り自分の力で問題解決を進め、結論を出していく力も必要となる。教師は、児童が日々の学習を通して一連の問題解決の活動を経験し、それらをノートやレポートなどにまとめたり、表したりする活動を繰り返すことで児童の主体的に学習へ向かう態度を育てていくことが求められる。それとともに、理科学習の基本的な手順や方法、技能についての指導も合わせて行う必要がある。

理科における学年別指導によるA・B年度方式の年間指導計画は、一方の学年が基礎となる内容を学習せずに次の段階に進むことになり、教材内容によっては、1年おきに指導する場合が生じる。このことは、先行経験を生かし系統的に思考が深まるよう学習を進めたり、技術的に習熟を要する観察、実験を行ったりする上で障害となる可能性がある。

以上のことから、複式学級での理科指導における様々な困難はあるが、各学年の指導内容を児童が当該学年に属する間に学習させることが大切である。

理科の学習では、観察、実験を通して問題解決をする活動が多く、実験等の手続の困難さや安全面の配慮などから、直接指導が必要とされる場面が多い。また、異なる場所での学習活動、観察、実験が困難な学習活動、児童の安全確保を要する学習活動により、間接指導が困難な状況になる場合がある。

そのため、以下の点に留意する必要がある。

- ・ 間接指導が可能かどうかを判断する視点
- ・ 間接指導を指導過程に位置付ける際に必要な配慮や状況に応じた体制等
- ・ 間接指導ができない場合に必要な対応
- ・ 支援者が必要な場合の見通し
- ・ 完全複式の場合には、週に3時間ずつ実施する場合を想定した時間割を用い、支援計画の作成

(2) 学年別指導を基本とした指導の工夫

ア 単元配列の工夫

- 二つの学年が同じ場所において活動することや、類似した学習内容を扱い指導すること、共通した資料や教具を活用することなどを考慮しながら、指導内容の関連を図った単元の配列を工夫する。

イ 学習問題を設定する場面

- 事象提示などで、自然現象を直接観察して学習問題を設定することが多い。気付きを十分に引き出した上で問題を焦点化するため、できるだけ直接指導で対応することが望ましい。
- 一方の学年は、「ずらし」によって間接指導で対応できるよう、学習過程の工夫が必要である。

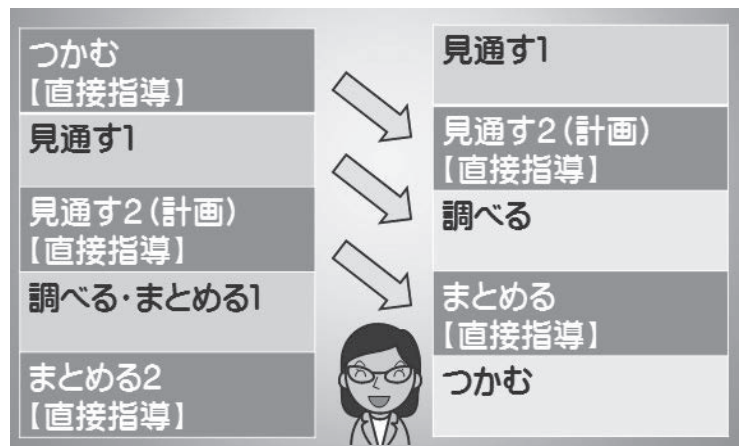
ウ 予想や仮説と観察、実験の計画を立てる場面

- 予想や仮説と観察、実験の計画を立てる活動は、見通しをもった観察、実験を行う上で重要な学習活動である。予想と照らし合わせて適切な方法であるかどうかなど、どちらの学年も直接指導で確認する必要がある。

エ 観察、実験と考察、まとめの場面

- 観察、実験が安全に行うことができる状況であれば、観察・実験の場面をずらして部を間接指導で行うことも可能である。
- 児童のみで活動ができない場合は、観察、実験を二つの学年同時に開始し、単式学級で複数のグループを同時に指導するような形態をとることも考えられる。
- 間接指導時に児童の観察等が進めやすいよう、学習ノートやワークシート等の活用を図る。
- 考察、まとめの場面では、観察、実験に係る時間差を利用したり、観察、実験の結果を整理する時間を利用して指導過程をずらすことも考えられる。
- 評価の際には、評価項目を絞り、科学的な見方や考え方等をプラス面から評価するようにする。

【学習過程のずらしの例】



第2節 指導計画について

1 年間指導計画の在り方

(1) 指導計画作成における基本的な考え方

理科の学習指導においては、児童一人一人がその子らしさを発揮しながら問題解決に取り組み、科学的な見方や考え方を自ら獲得していくことが求められる。そのために、学習指導要領では、学習が発展的かつ系統的に展開されるよう、内容を「A物質・エネルギー」「B生命・地球」の二つの内容区分に分け、その配列についても内容を相互に関連させ、問題解決の能力や自然を愛する心情の育成、自然の事物・現象についての実感を伴った理解、科学的な見方や考え方の構築ができるよう配慮している。

複式学級の年間指導計画作成においては、内容相互の関連を図るとともに、複式学級の特徴を積極的に生かすという考え方に基づき、単元配列の工夫等によって、複式学級や少人数指導の問題点ができる限り解消されるように配慮することが大切である。

(2) 各学年の目標及び内容の構成

年間指導計画を作成するにあたっては、学習指導要領に示されている各学年の目標と学年間の系統性・関連性を明らかにする必要がある。そのためには、既習事項を整理し、学習の発展性を考慮することが大切である。また、指導する内容を明確にするために、児童の経験や能力、指導目標を考え、指導内容をまとまりのあるものとして組織し、単元を構成する必要がある。

- ① その地域、学校、児童の実態から、教材としてふさわしい自然の事物・現象を選定する。
- ② 季節の影響を受ける内容については、季節的な条件に配慮する。自分達の地域の季節を考え、適切な指導時期を設定する。
- ③ 学習指導要領は、A・Bと二つの内容区分から構成されている。関連のある内容や発展的な内容については、相互に関連を図りながら単元構成を行い、指導の順序を工夫する。

(3) 単元配列の仕方

単元配列の組み合わせについては、以下のような点に配慮する必要がある。

- ① 児童の既習の経験が生かされ、科学的な認識や思考が深められるとともに自然を調べる能力が育つようにする。そのためには、単元間の関連を図り、基礎的な事項が積み上げられるよう教材の発展性や系統性に留意する。
- ② 単元配列の順序を決定するときに、季節に関係ある単元については、特別に配慮する。動植物については、素材の出現時期、成長・変化等の適期を外すとそれらの事象についての学習が不可能になるので、注意する必要がある。
- ③ 複式学級の学年間の関連に配慮する。教材の中で、二つの学年の間に内容の類似性や共通性が考えられる場合には、可能な限り同時期に配列し、指導の効率化を図ることが望まれる。
- ④ 火気を扱い安全指導が必要な場合等、教師の直接指導を十分確保しなければならない内容と児童が自主的に学習を進められる内容を学年間で組み合わせることも大切である。

⑤ 他教科、道徳及び特別活動や特別活動、学校行事などとの関連を図りながら、総合的な計画を作成するようにする。

(4) 指導に当たっての留意点

① 実験器具の正しい操作や安全な使い方を児童に身に付けさせておく。また、準備や後片付けが効率的にできるような手立てを指導しておくことが必要である。

② 観察、実験の時は「ずらし」を活用し、二つの学年が同時に行わないように工夫する必要がある。

③ 問題解決の過程をずらすために、一方の学年は導入の事象提示から始め、もう一方の学年は前時に行った観察、実験の結果発表から始めるといった直接指導と間接指導を適切に配置する工夫が大切である。

④ 間接指導時に児童が観察、実験を進めやすいように、ワークシートの工夫や ICT の活用を図る。

⑤ 日頃からガイド学習等で児童同士で主体的な問題解決ができるようにしておく。その際、ガイド表を活用したり、授業前にガイド役の児童と実験の仕方等を打ち合わせしたりすることによって、教師の同時間接指導時の小わたりの指導が可能になり、単式学級の場合と変わらない授業展開が期待できる。

⑥ 他教科、道徳、特別活動、外国語活動及び総合的な学習の時間、さらには、学校の教育活動全体、家庭生活、地域社会などとの関連に配慮する。

2 年間指導計画

(1) 年間指導計画作成における主な留意点

- ① 第3学年の「しぜんのかんさつ」と第4学年の「あたたかくなって」の単元を同じ時期に配列し、生物分野では両学年合同で観察を行えるように配慮している。
- ② 第3学年の「明かりをつけよう」と第4学年の「電気のはたらき」を同時期に学習するように単元配置を組み替えた。これによって、第3学年の児童には、学習内容の系統性に関わる第4学年への学習のつながりを意識させることができるようにし、第4学年の児童には、昨年度の学習を思い出しながら学習が進んでいくことが期待できる。
- ③ 青森の気候に配慮し、第3学年の「光で遊ぼう」は10月から光が強い9月に配置を組み替え、「実ができるころ」は実ができる時期が遅いため9月から10月に配置を組み替えることによって、学習の効果を高めることが期待できる。
- ④ 安全面では、火を扱う危険に配慮しなければならない単元が重ならないような配列にしている。

(3年生の「じしゃくのひみつ」と4年生の「水の3つのすがた」)

(2) 3・4学年の複式学級年間指導計画例

第3学年			第4学年		
単元名	時数	月	月	時数	単元名
しぜんのかんさつ	4	4	4	5	あたたかくなって ●季節と生きものの様子-1
植物を育てよう	3			5	1日の気温と天気
たねをまこう	1	5	5	5	空気と水 ●もののせいしつ-1
かげと太陽	4				
かげと太陽	4	6	6	2	空気と水 ●もののせいしつ-1
明かりをつけよう	8			1 2	電気のはたらき
チョウを育てよう	8	7	7	4	暑い季節 ●季節と生きものの様子-2
ぐんぐんのびろ	3			2	夏の星
ぐんぐんのびろ	2	8	8	1	自由研究をしよう
花がさいた	1			3	夏の星
光で遊ぼう	8	9	9	8	月や星の動き
こん虫を調べよう	1				
こん虫を調べよう	3	10	10	5	すずしくなると ●季節と生きものの様子-3
実ができるころ	3			4	自然の中の水
じしゃくのひみつ	1 1	1 1	1 1	3	自然の中の水
				8	水の3つのすがた ●もののせいしつ-2
ゴムのはたらき	8	1 2	1 2	2	水の3つのすがた ●もののせいしつ-2
				9	ものの体積と温度 ●もののせいしつ-3
風のはたらき	3	1	1	1	科学者の伝記を読もう
				4	冬の星
風のはたらき	5	2	2	5	寒さの中でも ●季節と生きものの様子-4
ものの重さを調べよう	2			6	もののあたたまり方 ●もののせいしつ-4
ものの重さを調べよう	5			3	もののあたたまり方 ●もののせいしつ-4
科学者の伝記を読もう	1	3	3	6	人の体のつくりと運動
3年のまとめ もうすぐ4年生	2			2	4年生のまとめ もうすぐ5年生

※ 単元名等は、平成27年度用小学校教科書「みんなと学ぶ 小学校理科」(学校図書)より

2 年間指導計画

(1) 年間指導計画作成における主な留意点

- ① 第5学年の「種子の発芽と成長」と第6学年の「植物の養分と水」の単元を同じ時期に配列し、生物分野では両学年合同で観察・実験を行えるように配慮している。
- ② 第5学年の「人のたんじょう」と第6学年の「人や動物の体」、第5学年の「流れる水のはたらき」と第6学年の「大地のつくりと変化」、第5学年の「電流のはたらき」と第6学年の「電気と私たちの生活」、第5学年の「もののとけ方」と第6学年の「水溶液の性質」を同時期に学習するように単元配置を組み替えた。これによって、第5学年の児童には、学習内容の系統性に関わる第6学年への学習のつながりを意識させることができるようにし、第6学年の児童には、昨年度の学習を思い出しながら学習が進んでいくことが期待できる。
- ③ 第5学年では、「種子の発芽と成長」「魚のたんじょう」「人のたんじょう」を連続して配列することで、児童の思考が連続的に展開していくような工夫をしている。

(2) 5・6学年の複式学級年間指導計画例

第5学年			第6学年		
単元名	時数	月	月	時数	単元名
種子の発芽と成長 ●生命のつながり-1	6	4	4	6	植物の養分と水
種子の発芽と成長 ●生命のつながり-1	6	5	5	5	植物の養分と水
魚のたんじょう ●生命のつながり-2	4			5	生物のくらしと環境
魚のたんじょう ●生命のつながり-2	4	6	6	1 1	人や動物の体
人のたんじょう ●生命のつながり-3	7				
ふりこの運動	9	7	7	9	ものの燃え方と空気
ふりこの運動	2	8	8	2	ものの燃え方と空気
台風の接近	3			3	てこのしくみとはたらき
実や種子のでき方 ●生命のつながり-3	9	9	9	7	てこのしくみとはたらき
				2	月の形と太陽
実や種子のでき方 ●生命のつながり-3	1	1 0	1 0	6	月の形と太陽
雲と天気の変化	8			3	大地のつくりと変化
流れる水のはたらき	1 0	1 1	1 1	7	大地のつくりと変化
				3	電気と私たちの生活
電流のはたらき	9	1 2	1 2	9	電気と私たちの生活
電流のはたらき	3	1	1	8	人と環境
冬の天気	5				
もののとけ方	1 2	2	2	1 2	水溶液の性質
もののとけ方	4			3	水溶液の性質
5年生のまとめ もうすぐ6年生	3	3	3	1	科学の本を読もう
				3	6年生のまとめ もうすぐ中学生

※ 単元名等は、平成27年度用小学校教科書「みんなと学ぶ 小学校理科」(学校図書)より

第3節 実践事例（3・4年）

事例1）第3学年 理科学習実践事例（児童数3名）

1 単元名 「じしゃくのひみつ」（学校図書）

2 単元について

(1) 児童の実態

前単元「明かりをつけよう」（6月に指導）では、本単元で扱う磁石と同じ目に見えない力によって起こる電気の現象について、電気を通す物と通さない物を比較しながら意欲的に問題解決する姿がみられた。児童が自分の考えを表現する際（予想、考察）には、目に見えない電気の様子をイメージ図にかいて話し合ったり、実験結果を表に整理して共通点や相違点に目を向けて考察したりする経験を積み重ねてきた。その結果、児童は電気の回路についての見方や考え方、問題解決の流れが身に付いてきている。

本単元で扱う磁石については、磁石が物に付くということを除くと、その性質や働きについては知らない児童が多い。前単元の電気の学習経験を生かし、児童が目に見えない磁石の存在を意識しながら問題解決することで磁石についての見方や考え方を養っていきたい。

(2) 単元の特性

本単元は、学習指導要領の内容「A 物質・エネルギー」を基に設定したもので、磁石の性質や働きについて興味・関心をもって追究する活動を通して、磁石に付く物と付かない物を比較する能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、磁石の性質や働きについての見方や考え方をもちつことができるようにすることがねらいである。

単元の導入では、本単元で扱う内容が出てくる魚釣りゲームを水上で行い、目に見えない磁石の力を感じながら体験ができるようにする。そこから生まれた気付きや疑問を基に、次時以降の事象提示や学習問題につなげることで単元を通した追究意識をもたせたい。

3 単元の目標

- (1) 磁石に物が付くことに興味・関心をもち、意欲的に磁石の性質や働きを調べようとするができる。
- (2) 磁石に引き付けられる物と引き付けられない物を比較して、それらの違いを考えることができる。
- (3) 身の周りの物を磁石を使って調べ、磁石に付く物と付かない物を分け、整理することができる。
- (4) 物には磁石に付く物と付かない物があり、磁石に付く物は鉄であることを理解することができる。

4 単元の評価規準

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
①磁石に物を付けたり自由に動くようにしたりしたときの現象	①磁石に引き付けられる物と引き付けられない物や、磁石同士や磁石	①磁石を使って付く物を調べたり着磁させたり、ものづくりを	①物には磁石に引き付けられる物とそうでない物があること、

第4学年 理科学習実践事例（児童数2名）

1 単元名 「水の3つのすがた」（学校図書）

2 単元について

(1) 児童の実態

「空気と水」の学習では、空気と水の性質の違い、前単元の「自然の中の水」では、空気中の水の変化について学習している。これらの学習では、水の様子や変化をモデル図に表し、生活経験から根拠をもって予想し、意欲的に観察・実験し、考察する姿がみられた。

本単元で扱う温度の変化と水の状態変化については、児童は水を温めると蒸発することや温度が低くなると氷になることを生活経験から捉えている。しかし、水は蒸発すると水蒸気として空气中に存在していることや水蒸気と湯気の違いについての理解は曖昧である。そのため、目に見えない現象をイメージし、説明できるようにする必要があると考える。そこで、温度変化による水の状態変化を表やグラフに整理し、集めたデータを基に考察したり、水の粒の様子をモデル図にかいて説明したりすることで、実感をもたせていきたい。

(2) 単元の特性

本単元は、学習指導要領の内容「A 物質・エネルギー」を基に設定したもので、水を熱したり冷やしたりするとき起きる変化を観察し、温度変化と水の状態変化とを関連付けて追究する活動を通して、水は温度によって水蒸気や氷に変化したり、元に戻ったりするという見方や考え方をもちることができるようにすることがねらいである。

単元の最後には、これまでの学習を基に自然界に存在するいろいろな水の姿と結び付けて考えることで、水の状態変化と温度、体積との関係についてまとめながら、自然界の水のめぐりについての見方や考え方をもちせていきたい。

3 単元の目標

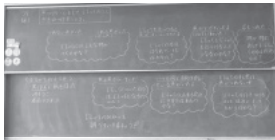

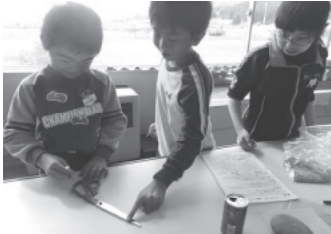
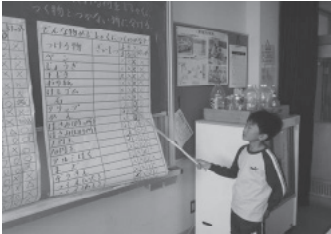
- (1) 水を熱したり冷やしたりしたときの温度による状態変化を、見通しをもって調べようとすることができる。
- (2) 水蒸気や氷に姿を変える水の状態変化と温度を関係づけて考察し、自分の考えを表現することができる。
- (3) 加熱器具等を安全に操作し、水の状態変化を調べる実験を行い、その過程や結果を記録することができる。
- (4) 水は温度によって水蒸気や氷に変わることや、水が氷になると体積が増えることを理解することができる。

4 単元の評価規準

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
①水を熱したり冷やしたり、身の回りの水の様子を調べたりす	①水が水蒸気や氷に姿を変える状態変化と温度を関係づけて、予想や	①加熱器具等を安全に操作し、水の状態変化の実験をしている。	①水は、温度によって水蒸気や氷に変わること理解している。


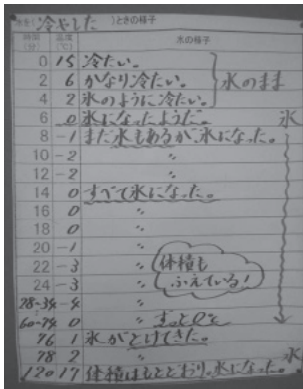

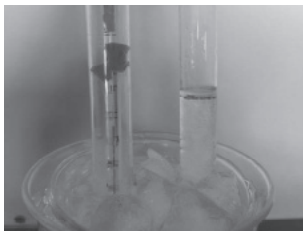
に興味・関心をもち、磁石の働きや性質を調べようとしている。 ②磁石の働きや性質を使ってものづくりをしようとしている。	に引き付けられる物との間を空けても引き付ける力が働いている現象を比較して予想や考察をし、表現している。	したりしている。 ②磁石に付く物や磁石の極性を調べ、その過程や結果を記録している。	磁石に付けると磁石になる物があること、磁石の異極は引き付け合い、同極は退け合うことを理解している。
---	---	--	---









5 指導と評価の計画（全11時）

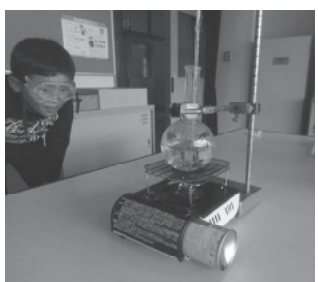
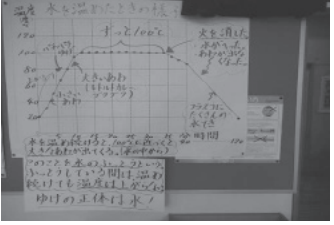
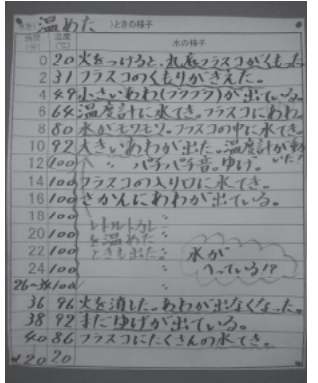

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準（◇）・評価方法（◆）
一	1	○磁石を使った魚釣りゲームをして気付いたことや疑問を話し合い、今後の学習に見通しをもつ。 	・水上で磁石が自由に動くようにすることで、磁石の力に気付きやすくする。 	◇磁石を使った魚釣りゲームをして、磁石の性質や働きによって起こる現象に興味・関心をもち、進んで調べようとしている。[関・意・態] ◆活動の様子の観察や磁石に関する発言の内容による。
二	2 3	○身の回りにあるどんな物が磁石に付くか話し合う。 ○調べた結果を表に整理し、磁石に付く物と付かない物に仲間分けして、分かったことをまとめる。 	・前単元で通電性を調べた物を想起させ、電気の性質と比較して考えさせる。 ・磁石を近づけてはいけない物があることを実験前に指導する。 	◇磁石に引き付けられる物と引き付けられない物を分類し、それらの違いを考えている。[思・表] ◆実験結果の表から考察できているか、発言の内容による。 ◇磁石に引き付けられる物は鉄であることを理解している。[知・理] ◆ワークシートの記述内容や、発言の内容による。
三	4 5 （本時）	○磁石と鉄の間が空いても磁石の力が働く理由を話し合う。 ○磁石に糸を付けたクリップを近づけて調べ、分かったことをまとめる。 ○磁石と鉄の間に物があっても、磁石の力が働く理由を話し合う。 ○磁石と鉄の間にいろいろな物をはさんで調べ、分かったことをまとめる。	・磁力の強い、ネオジム磁石を使って磁石の力を捉えやすくする。 ・イメージ図にかいて説明させることで磁石に対する見方や考え方を深める。 ・自作の実験器具で実験を行い、意欲をもたせる。 ・砂鉄で磁石の力を可視化して、視覚的に捉えられるようにする。	◇磁石の力は、離れていたり間に物があっても働くかを確認、結果を表に記録している。[技] ◆活動の様子の観察や、ワークシートへの記述内容による。 ◇間に物を入れても磁石の力が働くことをイメージ図にかき説明している。[思・表] ◆ワークシートへの記述内容や発言の内容による。

ることに興味・関心 をもち、温度による 水の状態変化を調べ ようとしている。	考察し、表現している。	②水の状態変化を調べ、 過程や結果を記録し たり、表やグラフに 表したりしている。	②水が氷になると体積 が増えることを理解 している。
---	-------------	--	----------------------------------

5 指導と評価の計画（全9時）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準（◇）・評価方法（◆）
一	1	○水を冷やしていくと何度 で氷になるか予想し、話 し合う。	・体積変化が分かりやすく なるよう細めの試験管を 用いる。	◇水を冷やしたときの変化の様 子に興味・関心をもち、進ん で調べようとしている。 [関・意・態]
	2	○水を氷で冷やして凍らせ、 そのときの様子や温度と 体積の変化等を観察する。 ○温度変化や水の様子の変 化を表に整理する。	・水の状態が変わる様子や そのときの温度をグラフ で表現させる。 ・水の姿と温度の関係につ いて、モデル図で表現し ながらまとめる。	◆水を冷やす活動の様子の観察 や、発言の内容による。 ◇水が凍るときや氷がとけてい くときの温度変化の様子を時 間を追って観察し、表やグラフ に表している。[技] ◆活動の様子の観察や、ノート への記述内容による。
	3	○水を冷やしたときの様子 や温度、体積の変化など、 実験結果を基にグラフに 整理し、分かったことを まとめる。		◇水が状態を変えるときに温度 変化の特徴を考え、表現して いる。[思・表] ◆実験結果の表から考察できて いるか、発言の内容による。 ◇水は0℃くらいで氷になるこ とや水が氷になると体積が増 えることを理解している。 [知・理] ◆ワークシートの記述内容や、 発言の内容による。
				
				
二	4	○水を沸騰させて、その様 子を観察する。 ○湯気や水の量の変化など について気付いたことや 疑問を話し合う。	・沸騰中の水の様子や、温 度の変化に気付かせる。 ・水の温度と水の量、水の 状態の変化など、観察の 視点を与え、工夫して表 現できるようにする。	◇水を熱したときの変化の様 子に興味・関心をもち、水が沸 き立つ様子や温度変化を意欲 的に調べようとしている。 [関・意・態] ◆水を熱する活動の様子の観察

四	6	<p>○磁石が鉄を引き付ける力は、どの部分でも同じか話し合う。</p> <p>○磁石のいろいろな部分に釘を付けて調べ、分かったことをまとめる。</p>	<p>・既習内容から、磁石のどの部分に鉄がよく付いていたか想起させる。</p> 	<p>◇磁石の力は、磁石のN極、S極の部分が強いことを理解している。[知・理]</p> <p>◆ワークシートの記述内容や、発言の内容による。</p>
	7	<p>○磁石はどのようなときに引き付け合うか話し合う。</p> <p>○磁石の極に他の磁石の極を近付けて調べ、分かったことをまとめる。</p> 	<p>・極表示のある磁石を使って、表示のない磁石のN極、S極を見付けさせ、極についての理解を深められるようにする。</p> 	<p>◇磁石に引き付けられる物や磁石の極性を調べ、結果を表に記録している。[技]</p> <p>◆活動の様子の観察や、ワークシートへの記述内容による。</p> <p>◇磁石の異極は引き合い、同極は退け合うことを理解している。[知・理]</p> <p>◆磁石の極に関する発言の内容による。</p>
	8	<p>○磁石を自由に動けるようにしたときの動きについて話し合う。</p> <p>○磁石を水に浮かべたり宙に吊したりして調べ、分かったことをまとめる。</p> 	<p>・磁石が南北の方角を指すことを調べる実験では、児童の実態に応じて方法を選択する。</p> 	<p>◇磁石を自由に動くようにしたときの現象に興味・関心を持ち、磁石の性質や働きを進んで調べようとしている。</p> <p>[関・意・態]</p> <p>◆活動の様子の観察や、磁石が向く方向に関する発言の内容による。</p>
五	9	<p>○磁石から離しても釘が落ちない理由を話し合う。</p> <p>○釘が磁石になっているか調べ、分かったことをまとめる。</p> 	<p>・磁石に付けた鉄の釘が磁石になったことを、方位磁針に近付けたときの磁針の動き等を基に考えさせる。</p> 	<p>◇磁石に引き付けられる物は、磁石に付けると磁石になることを理解している。[知・理]</p> <p>◆鉄を磁石にする活動の様子の観察や、磁石の性質に関するワークシートへの記述内容による。</p>
六	10 11	<p>○これまで学習してきた電気や磁石の性質や働きを利用したおもちゃづくりをして、発表する。</p>	<p>・磁石の性質や働きを利用した作品を見せ、意欲をもたせる。</p> 	<p>◇磁石の性質や働きを使って、意欲的にもものづくりをしている。[関・意・態]</p> <p>◆ものづくりの様子の観察や、発表の内容による。</p>

	<p>5 ○水を熱して温め続けたときの水の変化を話し合う。</p> <p>○水を熱して、沸き立つまでの様子、温度や体積の変化を調べる。</p> <p>○水を熱し続けたときの様子の変化を表に整理する。</p>	<p>・水を冷やしたときと比較しながら現象を捉えられるようにする。</p> 	<p>や、発言の内容による。</p> <p>◇水を熱する実験を安全に行うとともに、水を熱したときの温度変化を時間を追って観察し、表やグラフに表している。</p> <p>[技]</p> <p>◆活動の様子の観察や、ノートの記事内容による。</p>
	<p>6 ○水を熱したときの様子や温度、体積の変化など、表の結果を基にグラフに整理し、分かったことをまとめる。</p> 	<p>・熱い気体に手や顔を近づけないようにさせる。</p> 	<p>◇水は温度が100℃くらいになると沸騰し、沸騰している間は熱し続けても温度は変わらないことを理解している。</p> <p>[知・理]</p> <p>◆ワークシートの記事内容や、発言の内容による。</p>
<p>三</p>	<p>8 ○これまでの学習を振り返り、水は温度の変化によってどのように姿を変えたのかをまとめる。</p> <p>○身の回りの自然の中で見られる水の様々な姿について、でき方を話し合う。</p>	<p>・水の温度による状態変化をモデル図にかいて話し合う。</p> 	<p>◇沸騰しているときに出てくる泡の正体を空気の場合と比べながら考え、説明している。</p> <p>[思・表]</p> <p>◆泡の正体についてのノートの記事内容や発言による。</p> <p>◇水が沸騰しているときに出てくる泡は、水の状態が変化した水蒸気であることを理解している。[知・理]</p> <p>◆泡の正体についてのモデル図の記事内容や発言による。</p> <p>◇水は温度により、固体、液体、気体の3つの姿に変化することを理解している。[知・理]</p> <p>◆水の温度変化による状態変化についてのノートの記事内容や発言による。</p>

6 本時の指導（5 / 11 時）

(1) 目標

磁石と鉄の間にいろいろな物をはさんで調べる活動を通して、磁石の力は鉄以外の物に隔てられていても働くことを理解することができる。

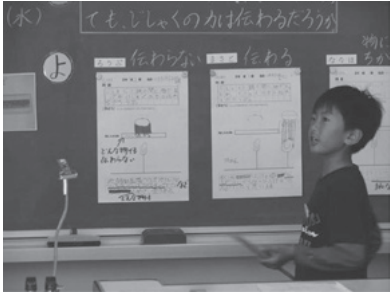
(2) 展開に当たって

事象提示や実験の場面では、実験器具を工夫することにより、目に見えない磁石の力を可視化して視覚的に捉えさせたい。その上で、イメージ図にかいて説明させることで、物が間に入っても働く磁石の力に対する見方や考え方を確かなものにしたいたいと考える。

ガイド表を使ったり、本時の学習の流れを黒板に掲示しておいたりすることにより、間接指導時に児童が見通しをもって、主体的な問題解決ができるようにする。3年生が間接指導で学習ガイドを中心に実験を進めている間に、4年生は事象提示から教師が直接指導で学習を始める。(ずらし) 実験の進捗を確認しながら小わたりを繰り返して、つまずきに対応していきたい。

(3) 展開

(■ : 直接指導 □ : 間接指導)

段階	主な学習活動	教師の働きかけ (○)・ガイド (●)・児童の反応 (・)	指導上の留意点 (△)・評価規準 (◇)・評価方法 (◆)	形態
ふりかえり 5分	1 前時を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">じしゃくと鉄の間に物があっても、じしゃくの力は伝わるだろうか。</div>	<p>●学習問題を読みましょう。</p> <p>●どんな予想が出ましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板に磁石で紙を付けることができるし、磁石の力は強く物を突き抜けて伝わるよ。 ・電気と同じで間に磁石に付かない物があると伝わらないよ。 ・電気と同じで物によって違う。 <p>●予想を確かめるために、どんな実験方法を考えましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・磁石と鉄の間にいろいろな物を入れてクリップを引き付けるか調べるよ。 <p>●調べる物は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下じき (プラスチック)、ノート (紙)、木の板 (木)、プレパラート (ガラス)、指、水の中にあるクリップ、はさみ、消しゴムです。 	<p>△児童が振り返りやすいように前時につくった学習問題、児童がイメージ図にかいた予想、実験計画を黒板に残しておく。</p>  <p>△一つの物につき、1回だけでなく3回は確かめさせる。</p> <p>△実験が終わったら実験結果を黒板の表に書かせ、結果を共有させる。</p>	同時 間接 指導
調	2 実験を行う。	●「うかぶくん」に入れたり、	△こまめに小わたりをして、つ	

6 本時の指導（7／9時）

(1) 目標

水が沸騰しているときに出てくる泡を空気と比べたり、水蒸気が水に戻る実験で調べたりする活動を通して、泡は水が姿を変えた水蒸気であることを理解することができる。

(2) 展開に当たって

泡の正体を確かめるために、空気の場合と比較しながら風船の膨らみ方や水の量に着目して考えさせたい。また、膨らんだ風船を氷水に入れ、中の水蒸気が水になっていることを確かめ、泡の正体が水蒸気であることを実感させる。その上で、温度変化による水の状態変化を水の粒子のモデル図にかいて説明させることで理解を深めたい。

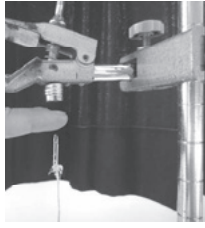
3年生が間接指導で学習ガイドを中心に実験を進めている間に、4年生は事象提示から教師が直接指導で学習を始める。(ずらし) 火を扱うため、実験のときは、全体を見渡せる位置に立ち、実験の進捗を確認しながら小わたりを繰り返して同時間接指導を充実させたい。

(3) 展開

(■：直接指導 □：間接指導)

形態	主な学習活動	教師の働きかけ (○)・ガイド (●)・児童の反応 (・)	指導上の留意点 (△)・評価規準 (◇)・評価方法 (◆)	段階
	1 事象提示する。  	○中に何が入っているだろうね。 ・おお、風船が飛び出して、膨らんでいく。破裂しそうだよ。 ○中はこうなっていました。 ・水が入っていたんだ。 ・泡が出てきたら、風船が上がってきた。押しているのかな。 ・前の時間も水を温めたら泡が出てきた。泡の正体は何かな。	△安全に実験ができるように安全めがねを着用させる。 △水は湯冷ましの水を使用する。 △ブラックボックス化して演示した後、ブラックボックスをとったもので再度実験をすることで、風船の動きが泡によるものだと焦点化させる。 △児童にとって身近な風船を使い、「水から水蒸気、水蒸気から水」という温度変化による状態変化を視覚的に捉えさせる。 	と ら え る 7 分
	2 学習問題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">水がふつとうしているときに出てくるあわの正体は何だろう。</div>	○今日の学習問題は、 ●学習問題を読みましょう。		
同時間接指導	3 予想する。  	●泡の正体が何か予想をノートに書きましょう。時間は5分です。(5分後) ●予想を発表してください。 ・風船がふくらんだから空気だ。 ・空気を水に入れたときの泡の感じと似ているから空気だよ。 ○前に出たレトルトカレーを温	△水の中に空気を入れると泡が出るという「空気と水」の既習事項や生活経験を想起して、理由を考えて予想させる。 △ノートに書いたら黒板にも書いて、発表し合うようにする。 △極少人数のため、意見が偏っ	見 通 す 15 分

べ
る
20
分



(自作教材「うかぶくん」)



はさんだりして調べます。

- 今日の役割は、記録が〇〇さん、発表が〇〇さん、片付けが〇〇さんです。椅子を入れて立って実験をしましょう。



- 「入れた場合と挟む場合は違います。挟むというのは、こういうことです。」

- 「はさみは一緒にやってみましょう。」

- ・鉄が間に入っているけど、磁石の力は伝わっているんだ。

- 後片付けをして、発表の準備をしましょう。

まずきに対応する。

- △磁力が強いネオジム磁石を使うことで事象を捉えやすくし、磁石の力をより強く意識しながら追究できるようにする。

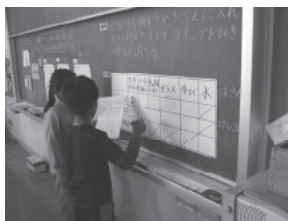


- ◇磁石が鉄を引き付ける力は、間に物があっても働くかどうかを確かめ、結果を表に記録している。[技]

- ◆活動の様子の観察や、ワークシート、黒板の表への記述内容による。

確
か
め
る
8
分

3 実験結果を確認する。



- 実験結果を発表しましょう。

<入れた場合>

- ・間に物を入れても、全部クリップは浮いたままだった。

<はさんだ場合>

- ・磁石を動かしたら、全部、たくさんクリップが付いてきた。

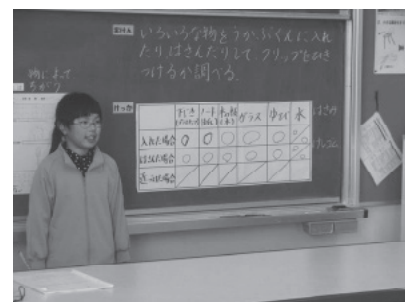
<近付けた場合>

- ・クリップが水の中から飛び出して磁石に付いた。

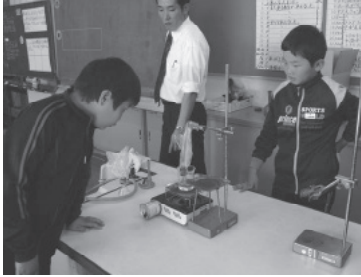
4 実験結果から考察する。

- 実験結果から考えられることは何でしょう。


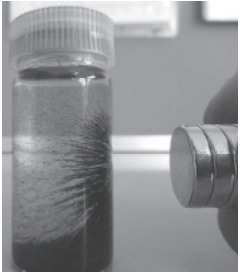



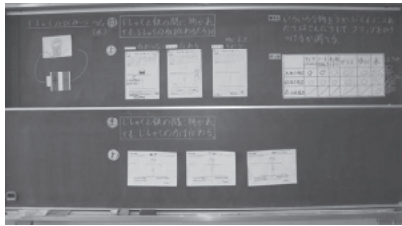
- ・予想では、〇〇だったけど、

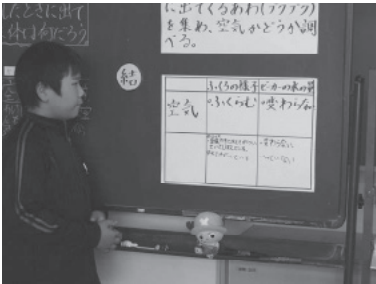







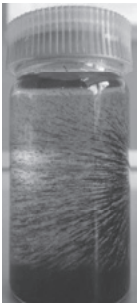
同
時
間
接
指
導

<p>4 実験方法を考え結果の見通しをもつ。</p> 	<p>めているときの泡も空気かな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・んー、どうかなあ。 <p>○どんな実験をすれば、空気だと確かめられるでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・袋に泡を集めて調べればいい。 <p>○泡を漏斗とビニル袋の実験装置で集めて空気かどうか調べましょう。泡が出てきたら、かぶせて集めます。</p> <p>○どんな結果になれば、2人の予想は当たったと言えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風船に空気を入れたときと同じようにビニル袋が膨らむ。 ・水の量は変わらない。 ・ビニル袋には何も付かない。 	<p>た場合、人形（教師）が意見を出し、考えを広げる。</p> <p>△発達段階を考え、児童からアイデアが出ない場合、教師から方法を提示する。</p> <p>△泡が出てきたタイミングでビニル袋が付いた漏斗をビーカーに入れることで、泡を集めるという意識をもたせる。</p> <p>△実験結果の見通しをもたせてから実験させることで、検証への意識付けをする。</p> <p>△フットポンプでビニル袋に空気を入れ、空気だった場合の様子を見せる。</p>
<p>5 実験を行い、空気かどうか調べる。</p> 	<p>●実験をしましょう。いすを入れて立って実験します。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ビニル袋が沸騰するとくもって膨らんできたよ。 ・火を消すとしぼんだ。 	<p>△ビーカーの熱でビニル袋が溶けないようにスタンドに固定する。</p> <p>△実験用ガスコンロを使用して、沸騰までの時間を短くする。</p> <p>△ビーカーの水の部分に印を付け、実験前と実験後の水の量に着目させる。</p> 

同時間接指導




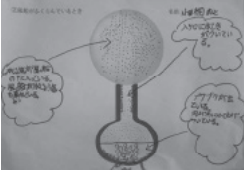
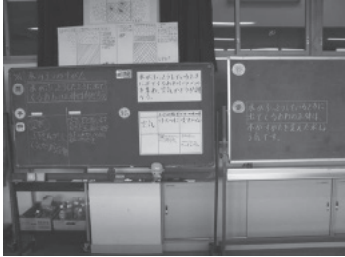
	<p>5 事象を見直す。</p>   	<p>磁石の力は、磁石と鉄の間に物があっても伝わるんだね。</p> <p>○磁石の力を砂鉄で見てください。磁石を近づけると…。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間が空いていても砂鉄が引っ張られて線ができていくね。 ・こんな風に伝わっていたんだ。 <p>○磁石を付けてみると…。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おお、すごい。上下に磁石を動かすと砂鉄も付いてくるよ。 <p>○電気の場合、電気を通さない物が間に入ると、明かりは…。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気の通り道（回路）ができないから、付かなかった。 ・間を空けても付かなかった。 ・磁石は、どっちの場合も伝わった。磁石の力はすごいなあ。 	<p>△磁石をサラダ油と砂鉄を入れたスチール棒瓶に近づけて磁石の力を可視化することで、視覚的に捉えさせる。</p> <p>△魚釣りゲームの発砲スチロールの岩は、中に鉄が入っていたことに気付かせる。</p> <p>△電気の性質と比べながら磁石の性質を考えさせる。</p> 
<p>まとめる</p> <p>10分</p>	<p>6 まとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>じしゃくと鉄の間に物があっても、じしゃくの力は伝わる。</p> </div> <p>7 学習したことを基にして、磁石と鉄の間が鉄以外の物に隔てられていても働いている磁石の力をイメージ図にかいて説明する。</p> 	<p>●学習のまとめをしましょう。</p> <p>●まとめを読みましょう。</p> <p>●調べた中で1つ選んで、磁石の力がどのように伝わっているかをイメージ図にかいて説明しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木の板でかきたい。 ・ノートでかきたい。 ・ガラスでかきたい。 <p>(5分後)</p> <p>●皆さん、かけましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだです。 <p>●まだのようなので、2分延ばします。(2分後)</p> <p>●全員終わったようなので、発表してください。</p>	 <p>△実験で確かめたものの中から1つ選んでかくようにする。</p> <p>△イメージ図にかいて説明させることで、物が間に入っているでも働く磁石の力に対する見方や考え方を確かなものにする。</p> <p>◇間に物を入れても磁石の力が働くことをイメージ図にかいて説明している。[思・表]</p> <p>◆目に見えない磁石の力についてのワークシートの記述内容や発言による。</p>

	<p>(10分後)</p> <p>●実験結果をノートに書きましょう。</p>		
<p>6 実験結果を確認する。</p>	<p>●実験結果を発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・袋は、膨らんでしぼんだ。 ・水滴が付いている。 ・水の量は変わらないです。 		<p>確 か め る 8 分</p>
<p>7 実験結果から考察する。</p>	<p>○本当にビーカーの中の水の量は変わっていないか見てみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の量が少しだけ減っている。 ・漏斗を取っていなかったんだ。 <p>○実験結果から考えられることは何でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想の空気と違って、ビニル袋は膨らんだ後しぼんだね。 ・水滴が付いていてビーカーの水の量も減っているの、泡の正体は空気ではないな。 	 	
<p>8 事象を見直す。</p> 	<p>○もう一度、丸底フラスコに風船を付けて、見直しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泡が出ているときに風船を付けると、膨らんでいくね。 ・風船に水滴が付いているよ。 ・風船を氷水に入れて冷やしたら、風船がしぼんだよ。空気の場合はしぼまないね。 	<p>△風船の動きや中の水蒸気が水になっていることを確かめ、泡の正体は空気ではなく、水蒸気であることを実感させる。</p> <p>◇沸騰しているときに出てくる泡の正体を空気の場合と比べながら考え、説明している。</p> <p>[思・表]</p>	

		<ul style="list-style-type: none"> ・磁石とクリップの間に指を入れても、クリップが落ちないのは、磁石の力がこんな風に指を突き抜けて伝わっているからです。 	<p>△イメージ図にかけなかったり、説明できなかつたりする場合は、小わたりで実物を見せて一緒に考える。</p>
と ら え る 2 分	<p>8 事象提示する。</p>   <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>じしゃくの鉄を引き付ける力は、場所によってちがうのだろうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○棒磁石をこの瓶に近づけると、砂鉄はどうなるでしょうか。 ・真ん中で近づけても動かないぞ。磁石の力は離れていても伝わるのにどうしてかな。 ・NやSと書いてある端の方は、きっと引き付けられるよ。 ○やってみようか。 ・引き付けられたね。 ・磁石の鉄を引き付ける力は、場所によってちがうのかな。 ○次の時間の学習問題は…。 	<p>△棒磁石の場所によって砂鉄の動きが違う様子から、磁石の力は離れていたり間に物があつたりしても働くという既習事項との矛盾を生み、極性を調べる問題意識をもたせる。</p> <p>△魚釣りゲームで、磁石の真ん中に魚が付かなかつたことを振り返る。</p>

(4) 授業を終えて (◎よかった点・△改善点)

- ◎前時に立てた実験計画を振り返ったり、事前にガイド役の児童と打ち合わせをしたりして、ガイド表（補足は付箋に教師の言葉を書いて添付）を基に学習を進めたことにより、間接指導時に児童の思考の流れが連続し、児童だけで見通しをもって問題解決する姿がみられた。
- ◎事前に実験器具を理科室の後ろの机に準備しておくことにより、道具の準備に手間や時間をかけずに、すぐに実験に移ることができた。
- ◎3年生が扱いやすく再現性のある実験器具を使用したことが児童の自発性を生み、追究意欲の持続につながった。
- ◎イメージ図（3年生）やモデル図（4年生）をかいている間（間接指導）に、教師が他方の学年の事象提示や考察場面を直接指導できるようにした。（ずらし）教師がいなくても児童だけで継続して取り組める課題を与えることで、教師は安心して他学年の直接指導ができた。
- △実験結果の書き方を○と×で混同して記録していたため（同時間接指導時に修正）、実験計画を立てる段階で確認が必要だった。

	<p>・風船の中から水が出てきたよ。 丸底フラスコの水も減っているから、水蒸気が冷えて水になったんだ。</p> 	<p>◆泡の正体についてのノートの記述内容や発言による。 △袋に付いている水滴や膨らみ方の違いに着目させる。</p> 	
<p>9 まとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>水がふっとうしているときに出てくるあわの正体は、水がすがたを変えた水じょう気である。</p> </div> <p>10 学習したことを基に、水が温度の変化によって姿を変える様子をモデル図にかき、次時に説明する準備をする。</p> 	<p>●まとめを書きましょう。</p> <p>●まとめを読みましょう。</p> <p>●水が温度の変化によって姿を変える様子をモデル図にかきましょう。</p> <p>・目に見えない部分が水蒸気で、見える部分が湯気だね。</p> 	 <p>◇水が沸騰しているときに出てくる泡は、水の状態が変化した水蒸気であることを理解している。[知・理]</p> <p>◆泡の正体についてのモデル図の記述内容や発言による。 △湯気と混同している場合、水が空気中に飛んで行き見えなくなるものは何か問いかける。</p>	<p>まとめ 5分</p>

(4) 授業を終えて (◎よかった点・△改善点)

- ◎ブラックボックスと風船を用いた事象提示が、児童の興味・関心を引き出すのに有効だった。
- ◎3年生の間接指導が長くなっても実験計画を基に児童だけで学習を進められるようにしていたため、4年生は事象提示から教師が重点的に直接指導にあたることができた。(ずらし)
- ◎3年生の「じしゃくのひみつ」と4年生の「水の3つのすがた」の単元を同じ時期に配列することにより、4年生の火を扱う実験に注意を払い、安全に実験を行うことができた。
- ◎ガイド表を継続して使ってきたことが理科の学び方の獲得につながり、予想、実験、考察を児童だけで進めることができた。それが同時間接指導の時間を生み出し、両学年が実験時にも教師のこまめな小わたりが可能になり、つまずぎに即座に対応し、支援することができた。
- △「膨らむもの=空気」という概念が、なかなか児童から抜けなかった。予想の段階で「水が変化したもの」という考えを提示して、「空気と水」を比べながら学習を進めればよかった。
- △時間短縮のために火力が強い実験用ガスコンロを使用したのが、ビニル袋が熱で溶けてしまったため、火力を抑えたり、ビニル袋の形状を細長くしたりする工夫が必要だった。

事例2) 第3学年 理科学習実践事例 (児童数4名)

1 単元名 「ものの重さを調べよう」(学校図書)

2 単元について

(1) 児童の実態

3年生の理科では、この単元で初めて「重さ」という概念が出てくる。また、同じ時期に算数科でも「重さ」の学習を行っている。そこで、本単元においては、身の回りのいろいろな物の重さの違いを、大きさなどの見かけで予想してから、その質感を体感したり、はかりを用いて調べたりする活動を行い、「重さ」の概念を形成することを目的とする。その過程の中で、重さを正確に測定できる種々の器具の扱い方なども指導し、「重さ」について、見かけの大小にとらわれなくて、「体積」とは別の量としてとらえさせるといこと、基準とする量(単位)のいくつ分かで重さを表で表すことと、長さや体積を測定した時に用いた考えを、重さの測定にも関連付けることを身に付けさせたいと考える。

本単元の指導を通して、「重さ」とは、重力による働きだということと質量保存の法則についても関連させて指導を行い、児童の科学的な物の見方や考え方を養いたいと考える。

(2) 単元の特性

第3学年の目標は(1)物の重さ、風やゴムの力並びに光、磁石及び電気を働かせたときの現象を比較しながら調べ、見いだした問題を興味・関心をもって追究したりものづくりをしたりする活動を通して、それらの性質や働きについての見方や考え方を養うことである。

本単元においては、学習指導要領の内容(1)に即して、いろいろな物の重さを調べて比べるという具体的な活動を通して、児童が、科学的な物の見方や考え方に興味・関心をもてるようにすることを目的としている。

学習指導要領では、物質を粒子の集まりととらえて、中学校まで系統的に学べるようカリキュラムが組まれている。そのはじまりとなるのが本単元「物と重さ」である。特に「粒子の保存性」にかかわる部分であり、5学年「物の溶け方」、6学年「水溶液の性質」、中学校2学年「化学変化と原子・分子」の学習につながるものである。

重さ(重量)とは、その物体に働く重力の大きさである。重さは重力によって異なるので、それぞれの物体に固有の性質ではない。固有の性質に当たるのは質量であるが、古くからこれらは、同一視されてきた。その意味では、一般概念としての重さはむしろ質量に当たるとみてもよいであろう。地球上では、物体は質量に比例した大きさの力で下向きに引かれるため、この引く力を物体の性質とみなしたのが重さである。そのことから、まずは児童には、見かけや質感から、重さの違いを予想させるという活動が必要となる。その後には正確な重さを種々のはかり等を使って確かめるという具体的な活動をすることで、児童が「重さ」という概念をもつことができると考える。

第4学年 理科学習実践事例（児童数7名）

1 単元名 「もののあたたまり方」（学校図書）

2 単元について

(1) 児童の実態

固体の熱の伝わりやすさ伝わりにくさは、いろいろな器具を作ったり操作したりすることを考えた場合、とても重要な性質である。フライパンや鍋では、熱を効率よく全体に伝わるように、また、手で扱う部分は熱が伝わりにくいように、それぞれにふさわしい材質が選ばれている。本単元においては、第一次では、身近にある金属の温まり方を調べることで、鉄や銅やアルミニウムなどの熱の伝わり方を体感させたいと考える。第二次では、水の温まり方を調べることで、熱せられた水の動きを体感させたいと考える。第三次では、空気の温まり方を調べることで、熱せられた空気の動きを体感させたいと考える。

本単元の指導を通して、温度とは、温かさや冷たさを数量化して表したものであり、熱とは、温度を変化させる原因であるということを通して、児童の科学的なものの見方や考え方を養いたいと考える。

(2) 単元の特性

第4学年の目標は(1)空気や水、物の状態の変化、電気による現象を力、熱、電気の働きと関係付けながら調べ、見いだした問題を興味・関心をもって追究したりものづくりをしたりする活動を通して、それらの性質や働きについての見方や考え方を養うことである。

本単元においては、学習指導要領の内容(2)に即して、金属、水、空気の温まり方を調べるといった具体的な活動を通して、児童が、科学的なものの見方や考え方に興味・関心がもてるようにすることを目的としている。

熱の移動には、伝導、対流、放射の3種類がある。小学校では、伝導と対流を主に学習する。放射は熱が空間を移動するため、理解が難しいので、経験や体験を通して学習を進める必要がある。

伝導とは、主に固体で起こり、物質の移動を伴わないで、物質の内部の高温の部分から低温の部分へ熱が移動していくことをいう。対流とは、温まった気体や液体自身の移動によって、高温の部分から低温の部分へ、熱が移動する現象である。放射とは、電磁波の形によるエネルギーの移動である。まずは児童には、これらの現象について自ら体感させることで、物の温まり方について、理解させていきたいと考える。

3 単元の目標

- (1) 身近な物の重さについて興味・関心をもって追究する活動を通して、物の形や体積、重さなどの性質の違いを比較することができる。
- (2) いろいろな物の重さを調べる活動を通して、種々のはかり等の器具の正しい扱い方を知るとともに、物の性質についての見方や考え方をもちすることができる。

4 単元の評価規準

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
①物の形や体積と重さの関係に興味・関心をもち、進んで物の性質を調べようとしている。 ②物の形や体積と重さの関係を適用し、身の回りの現象を見直そうとしている。	①物の形を変えた時の重さや物の体積を同じにした時の重さを比較して、それらについて予想や仮説をもち、表現している。 ②物の形を変えた時の重さや、物の体積を同じにした時の重さを比較して、それらを考察し、自分の考えを表現している。	①てんびんや自動上皿はかりを適切に使って、安全に実験やものづくりをしている。 ②物の形や体積と重さの関係について体感をもとにしながら調べ、その過程や結果を記録している。	①物は、形が変わっても重さは変わらないことを理解している。 ②物は、体積が同じでも重さは違うことがあることを理解している。

5 指導と評価の計画（全7時）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準(◇)・評価方法(◆)
一	1	○身の回りの物の重さを調べて、分かったことをまとめる。	・予想をもとに、実際に手で持ったりして比べさせるようにする。	◇身近な物の重さについて興味をもっている。[関・意・態]
	2	○物の置き方を変えたり細かく分けたりすると、物の重さは変化するか話し合う。	・これまでの経験をもとに、理由を付けて予想させ、話し合わせるようにする。	◆活動の様子や、重さに関する予想や発言の内容による。 ◇体感では分かりにくい物の重さの違いを予想し、はかりで調べ、考えている。[思・表]
	3 (本時)	○物の置き方を変えたり細かく分けたりすると、物の重さは変化するか調べて、分かったことをまとめる。	・用意した粘土を自分の予想をもとに、置き方や形を変えたり、細かく分けたりして、デジタルはかりを使って調べさせるようにする。	◆物の重さの違いを予想し、はかりを使って数値化し、考察できているかによる。 ◇物の重さを、デジタルはかりを適切に使って、計っている。[技]

3 単元の目標

- (1) 空気や水、物の状態の変化による現象を、熱の働きと関係付けながら調べ、見いだした問題について、興味・関心をもって追究したりものづくりをしたりすることができる。
- (2) 空気や水、物の状態の変化による現象を調べる活動を通して、物の性質や働きについての見方や考え方をもちることができる。

4 単元の評価規準

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
①金属、水、空気を温めたり冷やしたりした時の現象に興味・関心をもち、進んでそれらの性質を調べようとしている。 ②物の温まり方の特徴を適用し、身の回りの現象を見直そうとしている。	①金属、水、空気を熱した時の様子を火と温度を関係付けて考え、物による温まり方の違いについて予想や仮説をもち、表現している。 ②金属、水、空気と温度を関係付けて考察し、自分の考えを表現している。	①加熱器具などを安全に操作し、金属、水、空気の特徴を調べる実験やものづくりをしている。 ②金属、水、空気の温まり方の特徴を調べ、記録している。	①金属は熱せられた部分から順に温まるが、水や空気は熱せられた部分が移動して全体が温まることを理解している。

5 指導と評価の計画（全9時）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準(◇)・評価方法(◆)
一	1	○日常生活で、物を温めた経験から、金属、水、空気の温まり方について話し合う。	・身近な物での経験を想起させ、考えさせるようにする。	◇金属、水、空気を温めた時に見られる現象に興味・関心をもち調べようとしている。 [関・意・態]
	2	○金属の棒の温まり方を予想し、調べて、まとめる。	・予想する時は、図や絵、言葉で表現させるようにする。	◆活動の様子や、物の温まり方に関する予想や発言の内容による。
	3	○金属の板の温まり方を予想し、調べて、まとめる。	・矢印や色分けなど、言葉と図を使って予想させ、意見の交流ができるようにする。	◇実験から金属の温まり方を推測しようとしている。 [思・表] ◆物の温まり方に関する発言の内容や、ワークシートによる。 ◇金属は熱したところから順に温まっていくことを理解している。[知・理]

	4	○他の物は、形を変えると、重さが変化するかを調べて、分かったことをまとめる。	・重さを計る前に、見た感じや手応えを体感させるようにする。	◆活動の様子やワークシートによる。 ◇物には重さがあり、同質の物は形を変えても重さは同じであることを理解している。 [知・理] ◆ワークシートによる。
二	5	○体積と物の重さの関係について、手応えで体感したり計ったりして、結果を表にして、分かったことをまとめる。	・体積が同じという意味を確認してから予想させ、調べさせるようにする。	◇異質の物は、体積が同じでも重さが違う物があることを実験結果から考えている。 [思・表] ◆異質の物の重さに関して、実験結果から説明している内容による。
	6	○同体積の砂糖と塩の重さを計り、結果を表に数値化し、分かったことをまとめる。	・これまでの学習をもとに、理由を付けて予想させ、調べさせるようにする。	◇異質の物は、体積が同じでも重さが違う物があることを理解している。[知・理]
	7	○他の物の同体積の時の重さを調べて、分かったことをまとめる。	・見た目や体感で予想させ、分かったことや気付いたことをまとめさせるようにする。	◆ワークシートによる。

6 本時の指導（3／7時）

(1) 目標

物の置き方や形を変えたり細かく分けたりすると、物の重さは変化するか調べ、分かったことを伝え合うことができる。

(2) 展開に当たって

「重さ」に関する概念を形成させるために、違う重さの粘土を用意し、自分たちの予想をもとにして、デジタルはかりを使って、置き方や形を変えたり、細かく分けたりした粘土の重さを正確に計ることで、同質の物は、置き方や形を変えたり、細かく分けたりしても、重さが同じであることを理解させたい。

				◆ワークシートによる。
二	4	○水の温まり方を予想し、試験管の水を熱した時の動きについて分かったことをまとめる。	・ 示温テープを使い、色の変化が温度の変化であることを確認する。	◇水の温まり方を示温テープや示温インクの色の変化によって調べ、記録している。[技]
	5	○ビーカーの水を温めた時の動きを予想し、話し合う。	・ 前時の結果をもとに考えさせるようにする。	◆ワークシートによる。 ◇水は、温められた部分が上方に移動することによって、全体が温まっていくことを理解している。[知・理]
	6 (本 時)	○ビーカーの水を温めたときの動きについて調べ、分かったことをまとめる。	・ 示温インクを使い、色の変化が温度の変化であることを確認する。	◆ワークシートによる。
三	7	○空気の温まり方を予想し、話し合う。	・ 金属と水のどちらに似ているか考えさせて予想させるようにする。	◇空気の温まり方を、金属と水の温まり方に基づいて、推測しようとしている。[思・表]
	8	○空気を温めた時の動きについて調べ、分かったことをまとめる。	・ 線香のけむりの動きに注目させるようにする。	◆活動の様子や、空気の温まり方に関するの予想や発言の内容による。
	9	○金属、水、空気の温まり方について特徴をまとめ、物の性質について話し合う。	・ これまでの学習をもとに、物の温まり方の特徴をまとめさせるようにする。 ・ 「空気と水」「物の温まり方」「水の三つのすがた」の学習を振り返り、金属、水、空気の性質についてまとめさせるようにする。	◇空気も水と同じように、温められた部分が上方に移動することによって、全体が温まっていくことを理解している。[知・理] ◆ワークシートによる。

6 本時の指導（6／9時）

(1) 目標


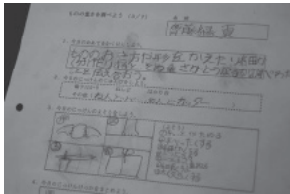




熱した水の温まり方を調べ、分かったことを伝え合うことができる。

(2) 展開に当たって

水の温まり方について理解を深めるとともに、次時のつながりとして金属の温まり方との違いにも着目させたい。



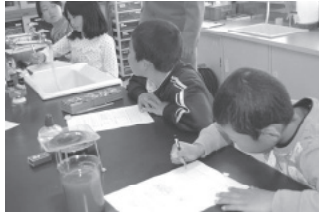
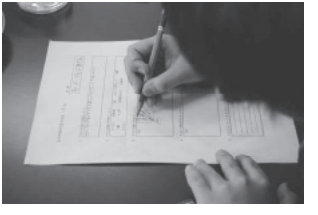

(3) 展開



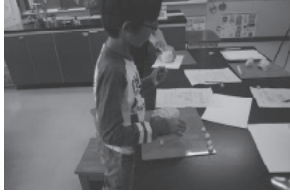




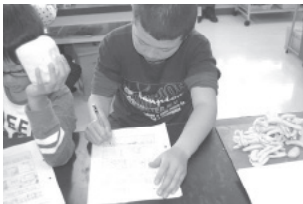
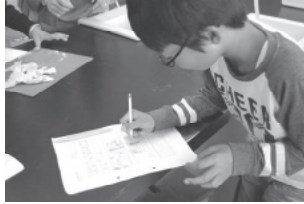
(■：直接指導 □：間接指導)

段階	主な学習活動	教師の働きかけ(○)・児童の反応(・)	指導上の留意点(△)・評価規準(◇)・評価方法(◆)	形態
とらえる 5分	<p>1 今日の学習活動をとらえる。</p> <p>ねん土を使って、置き方や形を変えたり、細かく分けたりするとその重さがどうなるか調べ、わかったことを伝え合おう。</p> 	<p>○今日のめあてをワークシートに書きましょう。</p> <p>○今日の実験の準備をしましょう。</p> <p>・今日の実験の準備をする。</p> <p>デジタルはかり、粘土、粘土板、粘土カッター</p> 	<p>△ワークシートに書かせ、今日の学習全体をとらえさせる。</p> <p>△今日の準備物を書かせ、準備させる。</p> 	
見通す 10分	<p>2 用意した粘土の重さを計り、その重さを変えるにはどうすればよいか予想し、発表し合う。</p> 	<p>○粘土の重さを計り、重さを変えるにはどうすればよいでしょう。</p> <p>・ぎゅっと固めると重い。</p> <p>・細かく切ると軽い。</p> <p>・細長くすると軽い。</p> <p>・太く短くすると重い。</p> <p>・平べったくすると軽い。</p>	<p>△一人一人が用意した粘土の重さを計らせる。</p> <p>△ワークシートに予想させる。</p> <p>△予想を全員に発表させる。</p> 	
調べ 15分	<p>3 粘土の置き方や形を変えたり、細かく分けたりして、重さを調べて比べる。</p> 	<p>○自分の予想した形に変えて重さを調べて比べてみましょう。</p> <p>・粘土の重さは〇〇〇g。</p> <p>・ぎゅっと固めても同じ。</p> <p>・細かく切っても同じ。</p> <p>・太く短くしても同じ。</p> <p>・平べったくしても同じ。</p>	<p>△自分で予想した形にして、その都度重さを計らせる。</p> <p>△ワークシートに記録させる。</p> <p>◇予想した粘土の重さを、デジタルはかりを適切に使って調べて、数値化できたか。</p> <p>[知・理]</p> <p>◆活動の様子と記録による。</p>	

(3) 展開





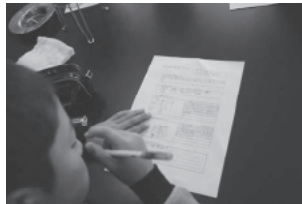
(■：直接指導 □：間接指導)

形態	主な学習活動	教師の働きかけ(○)・児童の反応(・)	指導上の留意点(△)・評価規準(◇)・評価方法(◆)	段階
	<p>1 前時までの学習を振り返り、実験の準備をする。</p> 	<p>○今日の実験の準備をしましょう。</p> <p>・今日の実験の準備をする。</p> <p>ビーカー、示温インク、アルコールランプ、三脚、三角架、マッチ</p> 	<p>△ワークシートに準備物を明示し、前時までの活動を振り返らせながら、危険がないよう声掛けして、準備させる。</p> 	<p>振り返る</p> <p>5分</p>
	<p>2 今日の学習活動をとらえ、予想する。</p> <p>水の温まり方を調べ、分かったことを伝え合おう。</p> 	<p>○今日のめあてをワークシートに書きましょう。</p> <p>○水の温まり方を予想しましょう。</p> <p>・火に近いところから順に温まる。</p> <p>・上の真ん中から温まる。</p> <p>・火から遠いところから温まる。</p> <p>・底から温まる。</p> <p>・はじから上に行って、下の方へ温まる。</p>	<p>△ワークシートに書かせ、今日の学習全体をとらえさせる。</p> <p>△ワークシートに予想させ、理由も考えさせる。</p> <p>△前時の試験管による実験を想起させる。</p>	<p>とらえる・見通す</p> <p>10分</p>
	<p>3 水の温まり方を調べる。</p> 	<p>○水の温まり方を調べてみましょう。</p> <p>・上の方から温まっていく。</p> <p>・火の当たっているところからまっすぐに道がのびて、上から下の方に温まっているよ。</p> <p>・上の方に一回上がって、下の方におりてきたよ。</p>	<p>△実験に入る時は、危険がないように声掛けし用意させ、必要に応じて小わたりする。</p> <p>△ワークシートに記録させる。</p> <p>◇水の温まり方を実験し、その動きを記録できたか。[技]</p> <p>◆活動の様子とワークシートによる。</p>	<p>調べる</p> <p>15分</p>

				
<p>確かめる 10分</p>	<p>4 全員で結果を発表し合う。</p> <p>5 今日の活動で分かったことをまとめる。</p> 	<p>○調べた結果について、全員で発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形を変えても、粘土の重さは変わりませんでした。 <p>○今日の活動から、分かったことをまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに分かったことを書く。 	<p>△一人一人の結果を発表させ、確かめ合わせる。</p> <p>△ワークシートに書かせる。</p> <p>◇同質の物は、形を変えても重さは同じであることを理解できたか。[知・理]</p> <p>◆ワークシートによる。</p> 	
<p>まとめる 5分</p>	<p>6 まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ねん土の置き方や形を変えたり、細かく分けたりしても、重さは変わらないことが分かりました。</p> </div> 	<p>○今日の活動から、分かったことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粘土の形を変えても、重さは変わらなかったし、重さを計ることもできて良かったです。 	<p>△次時の活動への意欲を喚起するために、全員に発表させる。</p> 	

(4) 授業を終えて (◎よかった点・△改善点)

- ◎粘土の形を変えることで、子どもたちが最後まで意欲的に集中して活動できた。
- ◎自分たちで予想した形を使って、デジタルはかりで重さを計るという作業を楽しんでいた。
- ◎ワークシートへ記録することで、活動時間を短縮することができた。
- △間接指導時の観察の工夫があればよかった。
- △ワークシートの工夫・改善が必要だと感じる。

<p>4 グループで結果について話し合い、まとめる。</p> <p>5 グループのリーダーが、全体に発表する。</p> 	<p>○調べた結果について、グループで話し合いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに書く。 <p>○今日の実験で分かったことを発表しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水は、上の方から下の方へ温まる。 	<p>△話し合った結果をワークシートにまとめさせる。</p> <p>△グループのリーダーに発表させる。</p> <p>◇水は、温められた部分が上方に移動することによって、全体が温まっていくことを理解できたか。[知・理]</p> <p>◆話し合いの様子とワークシートによる。</p>	<p>確かめる</p> <p>10分</p>
<p>6 まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>水は、熱したところから上に上がり、上の方から下の方へ温まっていくことが分かりました。</p> </div> 	<p>○今日の活動から、分かったことを発表しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・示温インクは分かりやすかったです。 ・前の実験と同じで、水は上の方から温まりました。 	<p>△次時の活動への意欲を喚起するために、全員に発表させる。</p> 	<p>まとめる</p> <p>5分</p>

(4) 授業を終えて (◎よかった点・△改善点)

- ◎前時の実験結果を踏まえて予想できていたので、実験によく集中できていてよかった。
- ◎示温インクは結果がよく見えていてよかった。
- ◎ワークシートへ記録することで、活動時間が短縮されてよかった。
- △間接指導時の観察の工夫があればよかった。
- △ワークシートの工夫・改善が必要だと感じる。

【理科】学習ガイド表

【学習のはじめのとき】 事象提示～予想

- ①今日の学習問題をノートに書きましょう。
(→読む) ※事象提示は教師
- ②予想をノートに書きましょう。ノートに書いた人は、黒板にも書きます。時間は5分です。
→まだなら1～2分のばす。(※1回だけのばす)
- ③予想を発表してください。○○さんから、お願いします。
- ④質問や意見はありませんか。
- ⑤予想をたしかめるために、どんな実験をすればいいですか。→先生が来るまで考えて話し合う

＜先生に教えること＞

- ・どんな予想が出たか。
- ・どんな実験を考えたか。

【ふ せ ん】

【たしかめるとき】 実験～考察

- ①実験方法をたしかめましょう。
- ②実験をしましょう。今日の役わりは、～です。
いすを入れて立って実験をします。
時間は、()分です。
- ③実験がおわった人は、ノートに結果を書いて黒板にも書きましょう。
- ④(全員が実験結果を黒板に書いたら)
○○さんから実験結果を発表してください。
- ⑤考察をしましょう。実験結果から分かることを話し合ひましょう。
- ⑥今日分かったことは、○○ですね。まとめと感想をノートに書きましょう。
- ⑦(全員ノートに書きおわったら) ○○さんから発表してください。

- ・黒板・・・()
- ・記録・・・()
- ・発表・・・()

【まとめから入るとき】 まとめ～練習

- ①前の時間の「学習問題」を読みましょう。さん、はい。
- ②前の時間は、どんな予想が出ましたか。○○さんから、自分の予想を発表してください。
- ③予想を確かめるためにどんな実験をしましたか。
- ④実験結果を教えてください。
- ⑤実験結果から、○○が分かりましたね。まとめと感想をノートに書きましょう。
※黒板にあるまとめを書いて、読む。
- ⑥(先生が来なかったら) 練習問題をやりましょう。時間は()分です。
※タイマーをセットする。よーい、ドン!
- ⑦まだの人はいますか。
※全員終わった時…「答え合わせをします。」
まだの人がいる時…「2分のばします。」
→算数と同じようにやる。

第4章

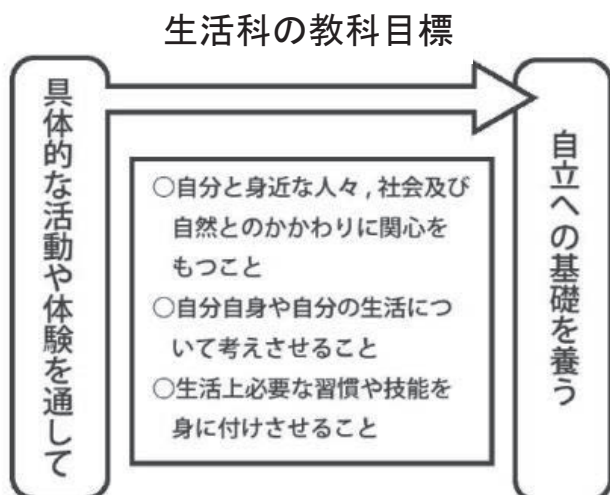
生活科

第4章 生活科

第1節 生活科教育の目標と役割

1 現状と課題

(1) 生活科の指導で求められていること



【小学校学習指導要領 生活編より】

生活科の目標を最も端的に言えば「具体的な活動や体験を通して、自立への基礎を養う」ことである。そして、生活科の学習においては、「自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつこと」「自分自身や自分の生活について考えさせること」「生活上必要な習慣や技能を身に付けさせること」が行われるという構成になっている。

生活科の指導に求められていることは、児童が充実した活動や体験をするとともに、そのことで生まれる気づきが大切である。この気づき

が質的に高まることによって、活動や体験は一層充実したものへと変容し、実際の生活における資質や能力及び態度は確かなものとして身に付いていくことである。

「気づきの質が高まるイメージ」

- 無自覚だった気づきから自覚された気づきへ
 - ・低学年は自分で気付いていないようなものがある。
→児童の無自覚な発言を意味付けたり価値付けたりして、次の活動につなげる。
- 一つ一つの気づきから関連付けられた気づきへ
 - ・バラバラなものがつながり合っていく。
→他の対象や友達の考えと比べたり関係付けさせたりして、視野を広げさせる。
- 働きかける対象への気づきだけでなく自分自身の気づきへ
 - ・対象と自分との関わりを深め、対象に気付くことで自分のことにも気付く。
→単元の前と後を比べて、自分自身の成長に気付かせる。

生活科においては、気づきの質を高めるような学習環境の構成や学習活動の準備、教師の児童に対する適切な声かけなどを工夫して授業を作っていくことが大切である。

また、生活科における気づきの質を高めることを中心とした学習指導の進め方としては、以下の四つに留意することが大切である。

【気付きの質を高める学習指導】

①振り返り表現する機会を設ける

気付いたことを基に考えさせ気付きの質を高めるためには、見付ける、比べる、たとえるなどの多様な学習活動の工夫が求められる。児童は表現することで活動や対象を見つめ直したり、過去のことや周りのことと比べたりして気付きの質を高めていく。中でも言葉などによる表現とかがわりが深いのは、たとえる学習活動である。児童は諸感覚を生かした豊かな体験をすることで、「ぶどうみたいな実を見つけたよ」などと、体験したことをこれまでの体験につなげて表現する。また、雲を眺めながら「白くてふわふわだったよ」と児童がつぶやいたとき、教師が「何みたいに」と投げかけることで「綿菓子みたい」「うさぎさんのように」などと児童は考え言葉で表現する。そこでは、「昨日の雲は違ったよ」「今日はモクモクしている」「明日の天気はどんなのかな」と、児童の気付きは質的に高まっていくのである。このような教師の働きかけ、言葉かけも重要である。

②伝え合い交流する場を工夫する

児童は体験したことや調べたことを伝え合う中で、「友達が調べているあのお店の人も、早起きして頑張っているんだ」「お年寄りがよく使う公園もあるんだな」など自分が発見したことと友達が発見したことを比べ、似ているところや違うところを見付ける。そうして、「わたしが調べているお店の人は、ほかにどんなことを頑張っているのかな」「ぼくが調べている公園もお年寄りが使うのかな」などと、次々に調べたいことを明らかにして再び地域に出かけていく。このように、互いに伝え合い交流する活動は、集団としての学習を高めるだけでなく、一人一人の気付きを質的に高めていく上でも意味がある。生活科の学習では一人一人の気付きを全員で共有し、みんなで高めていくことが重要である。

③試行錯誤や繰り返す活動を設定する

どんぐりゴマを作って遊ぶ児童は、集めてきたどんぐりや身近な物を準備し、何度も何度も作り直す中で、どんぐりの大きさや形、軸の立て方、回し方などによって回り具合が違うことに気づき、よく回るどんぐりゴマは、これだと納得する。このように、試行錯誤を繰り返し、条件を変えて試してみる過程で、どんぐりゴマの作り方への気付きが質的に高まっていく。また、繰り返し自然事象とかかかわったり、試行錯誤して何度も挑戦することは気付きの質を高めることになるとともに、事象を注意深く見つめたり予想を確かめたりするなどの科学的な見方や考え方の基礎を養うことにもつながる。このように教師は、条件を変えて試したり、再試行したり繰り返したりすることができる学習活動を用意し、学習環境を構成することを心がける必要がある。

④児童の多様性を生かす

児童の思いや願いに寄り添うことは、学習活動に多様な広がりを生み出す要因となる。教師は児童が示す多様性を生かすようにし、児童の学びをより豊かにしていくことが重要である。校内の様々な場所を探検する学習活動では、校長室に入ったり、保健室の養

護教諭に話を聞いたりする。出会いの中で一人一人の児童が気付くことは違っていても、それぞれの違いや共通点を見出す中で、「学校にはいろいろな人がいて、ぼくたちのために一生懸命働いてくれている」と気付きを質的に高める児童の姿が期待できる。このように、具体的な活動や体験を通して互いにかかわり合う状況に身を置けば、今まで見えなかった他の児童との共通点や相違点、児童自身のよさが見えてくる。それぞれの児童が自らのよさを発揮できるようにするとともに、互いのよさやそれぞれの気付きを共鳴させることが、生活科の学習指導では大切である。

(2) 課題

- ・活動や体験を行うことで低学年らしい思考や認識を確かに育成し、次の活動へつなげる学習活動を重視すること。「活動あって学びなし」との批判があるように、具体的な活動を通して、どのような思考力等が発揮されるか十分に検討する必要がある。
- ・幼児教育において育成された資質・能力を存分に発揮し、各教科等で期待される資質・能力を育成する低学年教育として滑らかに連続、発展させること。幼児期に育成する資質・能力と小学校低学年で育成する資質・能力とのつながりを明確にし、そこでの生活科の役割を考える必要がある。
- ・幼児教育との連携や接続を意識したスタートカリキュラムについて、生活科固有の課題としてではなく、教育課程全体を視野に入れた取組とすること。スタートカリキュラムの具体的な姿を明らかにするとともに、国語、音楽、図画工作などの他教科等との関連についてもカリキュラム・マネジメントの視点から検討し、学校全体で取り組むスタートカリキュラムとする必要がある。
- ・社会科や理科、総合的な学習の時間をはじめとする中学年の各教科等への接続が明確ではないこと。単に中学年の学習内容の前倒しにならないよう留意しつつ、育成を目指す資質・能力や「見方・考え方」のつながりを検討することが必要である。

2 学年別指導（複式指導）における生活科の指導の在り方

(1) これから求められる指導

生活科では、学校や家庭及び地域が学習の場となり、学習の素材は自分と社会や自然とのかかわりが具体的に把握できるものがよいとされている。そして、複式学級のある学校は、一般的に捉えると、地域社会との結び付きが密接で、学校の周りが豊かな自然に恵まれている場合が多い。そのため、生活科の学習を進めていく上で、よい条件にあると言える。

一般的に複式学級の指導には、①少人数のための個に応じた指導を行いやすいこと、②学年別の指導の場合、間接指導の時間帯に、自力解決の時間を十分に確保することができること、③2つの学年で編成されているため異学年交流の場や機会を設定しやすいこと、などがメリットとして挙げられる。生活科においてもこれら複式のメリットを生かした指導の充実を図ることが重要になっている。

現在、複式学級における生活科の授業においては、以下のような取組がされている。

○リーダー性の育成

- ・2年生を中心とした学習を展開することで、2年生のリーダー性を育てることができる。

○異学年交流の利点を生かした指導

- ・2学年一緒に学習をすることで、人数が増え、活動の幅が増える。

○話合いの時間の確保

- ・少人数のため話合い活動にかける時間が確保できる。

○同単元同内容指導時の工夫

- ・評価規準に合わせ、学年毎にワークシート様式をかえて活用できる。

具体的に学習を進める際には、2学年の児童が、1学年の児童に教える場面を設定し、リーダーの自覚をもたせるようにすることが大切である。この異学年相互のかかわりの中で、2学年の児童は1学年の児童に、これまでの自分の姿を重ねながら思いやりをもって接するようになる。そして、その活動の中で自分自身の心の成長に気付くこともできる。また、1年生の児童は、自分たちの活動には2学年の児童の支えがあったことに気付き、喜びを感じるとともに自ら学ぼうとする。さらに、この異学年集団の中で表現活動を進めることの利点も積極的に生かしたい。2学年の児童は1学年児童の表現のよさを見出したり、思いを豊かに表現できるようになった自分に気付いたりすることができる。1学年の児童は、2学年の児童の多彩な表現活動に触れ、より豊かな表現につながっていくと考えられる。

複式学級では、教師が一人一人の児童の行動を観察し、その変容を見取っていきやすい環境にある。教師はそれぞれの児童の思いや願いを理解し、相互に共感しながら、学習を進めていき、一人一人の変容を指導計画の見直しや修正に生かすことも考慮に入れる必要がある。

(2) 学年別指導を基本とした指導の工夫

学年別指導を行うに当たっての留意点は、以下の通りである。

○生活科の目標は2学年共通に示されているので、2年間を通して力を付けることを意識しつつ、各学年で求められる子どもの姿を明確にして指導する。(1年生→ 関心をもたせたり気付かせたりする。2年生→自分の役割や行動の仕方を考えさせる。)

○児童一人一人の思いや願いを大切に扱う。(受け止める、見守る、言葉をかける、環境構成や活動展開を工夫する、共に活動する、一人の考えを全体に広げる。)

○児童一人一人の変容を支援に生かす。(内容を記録し、適切な支援を行う。)

○地域の人材を生かす。(伝統行事や自然とのかかわりの中で生かせる場面を設定する。)

○全員がリーダーとしての経験をもつようにする。(人数が少ないので、リーダーが固定化しないようにする。)

○上学年の児童が、下学年の児童に教える場面を設定し、リーダーの自覚をもたせる。

第2節 指導計画について

1 年間指導計画の在り方

(1) 指導計画作成における基本的な考え方

平成20年生活科改訂の趣旨に、自分自身のよさや可能性などについて一人一人の児童が理解を深めること、対象に対する一人一人の認識である「気付き」の質を高めること、安全教育や自然の素晴らしさ、生命の尊さを実感する活動を充実させることなどが示されている。これらの趣旨を踏まえ、これまで以上に「小規模校・複式学級のよさ」を生かした特色ある生活科の展開が必要である。年間指導計画作成において配慮すべき点は、以下の通りである。

① 児童の実態に対応する

児童一人一人の思いや願いを生かす学習を重視し、児童が身近な環境に直接働きかけると同時に、働き返されながら学ぶという生活科の特質を踏まえることが大切である。指導計画作成に当たっては、一人一人に即して個別性と協同性の両面にわたる観点から児童の実態を把握し、個々の児童に対応した指導ができるようにし、個に応じた指導が進めやすいという少人数学級の利点を生かし、児童の実態に即した年間指導計画を作成していくことが大切である。

② 地域の環境を生かす

地域は児童にとって生活の場であり学習の場である。地域の素材や活動の場などを見いだす観点から地域の環境を繰り返し調査し、それらを教材化して最大限に生かすことが重要である。また、学校環境も大切な活動や体験の場である。学校で働く人々や学校を訪れる様々な人々、校地内の物や場所や施設、そこに見いだすことができる自然、学校で計画される行事などを、地域に見られる人や社会、自然などと関連付けて把握することも大切である。小規模校においては、小規模校のよさである豊かな自然、地域との結び付き、一人一人の児童と教師集団の緊密な触れ合いを生かし、地域の環境を生かした年間指導計画を作成していくことが大切である。

③ 指導体制を整える

個々の活動が多様なものとなることから、一人一人の活動を支援し指導するためには、その体制を整え工夫することが必要である。安全確保の面からも学校としての指導体制を整えることが重要である。また、地域の身近な環境とのかかわりから直接学ぶという教科の特質から、保護者や地域の人々、公共施設や関係機関の人々の協力が得られる体制づくりも重要である。

(2) 各学年の目標及び内容の構成

学年の目標は4つの項目で構成されている。(1)主に自分と人や社会とのかかわりに関すること、(2)主に自分と自然とのかかわりに関すること、(3)自分自身に関すること、(4)生活科特有の学び方に関することである。なお、目標(1)(2)(3)は、目標(4)があることによって充実し、発展していくという構造的な関係にある。

内容は9項目で構成している。「学校と生活」、「家庭と生活」、「地域と生活」、「公共物や公共施設の利用」、「季節の変化と生活」、「自然や物を使った遊び」、「動植物の飼育・栽培」、「生活や出来事の交流」、「自分の成長」である。これら9項目の内容について、構成要素である「学

習対象・学習活動等」、「思考・認識等」、「能力・態度等」を明らかにするとともに、階層性を意識して単元の構成を行うことが必要である。（詳細は学習指導要領に示されている「生活科の内容の全体構成図」を参照のこと）

(3) 単元配列の仕方

単元配列については、以下のような工夫が考えられる。

- ①各単元相互の関連性を図り、2年間を見通して9項目の内容がバランス良く配分・配列されるような構成にする。
- ②飼育・栽培活動について、動物と植物の双方を2学年にわたって継続的に育てるための授業時数の割り振りに配慮する。
- ③単元によっては、季節や天候、成長の様子に左右されるものがあるので、地域の気候の違いに配慮し、活動に最適な時期はいつか、どの季節から始めるのがより適切かなどを検討する。
- ④活動場所を教室外とする場合、複式学級においては1・2学年一緒の活動にすることを想定し、単元の配列を工夫する。
- ⑤他教科（国語・音楽・図工等）との合科的な指導、他の教育活動（全校児童集会・合同学習・お祭りや収穫祭・学習発表会等）と関連させた指導を充実させ、指導の効果を高めるように工夫する。そのために、生活科だけの指導計画作成にとどまらず、低学年教育の全体を視野に入れた計画を工夫する。

(4) 指導に当たっての留意点

指導に当たっては、以下の点に留意する。

- ①入学当初の時期は学びの芽生えから自覚的な学びへと連続させることが大切である。自分とのかかわりを通して、総合的に学ぶ児童の発達の特性を踏まえ、生活科を中心とした他教科等との合科的・関連的な指導の充実を図ることが大切である。
- ②複式学級においては1・2学年一緒の活動を行う単元が想定される。しかし、活動は同じであっても評価の視点や目指す児童の姿は学年に応じて異なるので、学年差や発達段階を考慮し、それぞれの学年のねらいや評価規準を設定することが大切である。
- ③複式学級においては、発達段階や経験の違う異学年の児童がともに活動するという「よさ」がある。異学年とのかかわりを生かすため、2学年の児童にリーダーの自覚を持たせるようにしたり、1学年の児童には2学年の児童の支えがあったことに気付かせたりする。さらに、この異学年集団の中で表現活動を進めることの利点も積極的に生かすようにする。
- ④少人数学級は個に応じた指導を進めやすい環境にあるといえるが、教師が一方的に活動を決めたり与えたりするのではなく、児童の思いや願いを大切にして、できるだけ児童自身が主体的に考えたり選んだりしていくように配慮する。
- ⑤少人数学級では、教師が一人一人の児童の行動を観察し、その変容を見取っていきやすい環境にある。それぞれの児童の思いや願いを理解し、相互に共感しながら、学習を進めていき、一人一人の変容を指導計画の見直しや修正に生かすことも考慮に入れる必要がある。

2 年間指導計画例

(1) 年間指導計画作成における主な留意点

- ①学習内容の詳細は、単式用の年間指導計画を参照する。また、時数についても各校の実態、児童の実態に合わせ調整する。
- ②栽培活動を両学年同時に行い、2学年の児童が1学年の児童に教えたり、互いに協力して活動したりする場を工夫する。また、探検活動についても両学年同時に実施できるように単元の指導計画等を検討する。さらに、児童の多様な活動に対応するための指導体制を工夫し、実施の際には安全面にも十分配慮する。
- ③単元によっては1学年と2学年の活動場所が異なる場合がある。めあてや約束等の事前指導を十分に行うとともに、校内での指導体制を工夫し、児童の活動に支障がないようにする。
- ④両学年合同での発表会を積極的に取り入れ、異学年の交流を通して、互いの表現のよさに気付かせたり、活動の意欲付けにつなげたりする。

(2) 1・2学年の複式学級年間指導計画例

第 1 学 年			第 2 学 年		
単 元 名	時数	月	月	時数	単 元 名
<u>みんななかよし</u> ・ともだちたくさんつくろう ・わたしのがっこうどんどころ	6	4	4	9	<u>春はっけん</u> ・2年生になったよ
・わたしのつうがくる	9	5	5	9	・春の町ではっけん
[さいばい] ・はなややさいをそだてよう① <u>なつとなかよし</u> ・おもしろいあそびがいっぱい	12	6	6	12	[さいばい] ・はなややさいをそだてよう④ <u>生き物はっけん</u> ・生きているってすごい！
[さいばい] ・はなややさいをそだてよう② ・なつはたのしいことがいっぱい	6	7	7	6	[さいばい] ・はなややさいをそだてよう⑤ ・はっけんかんどう夏休み

<p>あきとなかよし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いきものとなかよし <p>[さいばい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はなややさいをそだてよう③ 	3	8	8	3	<p>わたしの町はっけん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町にははっけんがいっぱい
<ul style="list-style-type: none"> ・あきとふれあおう 	12	10	10	12	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなのはっけんをあつめよう
<ul style="list-style-type: none"> ・つくろうあきのおくりもの <p>ふゆとなかよし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふゆをみつけたよ 	12	11	11	12	<ul style="list-style-type: none"> ・町の人につたえたい <p>はっけんくふうおもちゃ作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃを作ってみよう
<ul style="list-style-type: none"> ・かぞくでいっしょにおしょうがつ 	6	12	12	6	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃのひみつはっけん！
<ul style="list-style-type: none"> ・みんなかぜの子 	6	1	1	6	<p>自分のはっけん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はっけん自分のよいところ
<ul style="list-style-type: none"> ・もうすぐ2年生 	12	2	2	12	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことをもっと知りたいな ・ようこそ、 自分のはっけんはっぴょう会
<ul style="list-style-type: none"> ・はるをさがそう 	6	3	3	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうをとどけよう ・みらいにむかってはばたこう！

※ □ は大単元名、「・」は小単元名である。

※大単元名・小単元名は、平成27年度用小学校教科書「たのしいせいかつ」（大日本図書）より

第3節 実践事例（1・2年）

事例1）第1学年 生活科学習実践事例（児童数3名）

- 1 単元名 「ありがとうがいっぱい」（学校図書）
小単元名 「いえのしごと」

2 小単元について

(1) 児童の実態

家庭での手伝いの様子を発言や日記などから推測すると、よく手伝いをしている児童、たまにしたことがある児童、全くしていない児童と三者三様である。この学習は、家庭の協力によってできる学習であるため、学級便りで児童のできる仕事をさせてくれるようお願いした。家の仕事をすることで、児童にとってできることを増やし、自信につながると考える。この学習を通して、家庭での自分の役割について考え、家族の一員として家庭の仕事を続けていけるようにしていきたい。

(2) 小単元の特性

本単元「ありがとうがいっぱい」は、「いえのしごと」「できるようになったこと」「もうすぐ2ねんせい」の3つの小単元で構成されている。

今回取り上げた小単元「いえのしごと」は、学習指導要領に示されている内容（2）「家庭と生活」を核として、内容（9）「自分の成長」を関連付けて構成した。

本小単元「いえのしごと」は、家庭の仕事について考え、家族の一員として家族のためにできることを探し、実際に家の仕事に挑戦する。実際に家の仕事をやってみることで、毎日仕事を続けていくことの大変さや、その仕事を毎日行っている家族に対してのありがたみに気付くことができる。また、この単元だけに終わらず継続して家庭の仕事ができるよう、家庭と連携し、長期休業などと合わせて行ったり、お仕事券等を作ったりして、楽しく活動させていきたい。

そして、実践を通して、今までできなかったことができるようになったり、家の仕事が習慣化し家族に頼りにされたりする児童がでてくるのではないかと考える。そのようなことを、「自分の成長」として気付かせ、「自立への基礎」の育成につなげていきたい。

3 小単元の目標

- (1) 自分の一日の生活を振り返るとともに、家族の中で自分の役割について考え、自分にできそうな仕事に、挑戦することができる。
- (2) 家で自分の役割に気付き、家での自分の役割を積極的に果たそうとすることができる。
- (3) 家の仕事に挑戦したことを振り返り、家族の役割のよさに気付くとともに、家族に感謝し、これから自分が家族のためにできることを考えることができる。

第2学年 生活科学学習実践事例（児童数5名）

- 1 単元名 「わたし大すき」（学校図書）
小単元名 「小さいころのこと」

2 小単元について

(1) 児童の実態

普段から小さいころの事や家族について興味を持ち、語ることが大好きな子どもたちである。また、今回の学習では保護者の協力が不可欠であるが、協力的な保護者が多く、小さいころのことを調べる上で多くの材料を集めることができるであろう。友だちの発表を聞いて感想を言ったり、質問したりする学習もいろいろな教科で行ってきているので、友だちの発表からもっと調べたいことなどを広げていけるのではないかと思われる。

(2) 小単元の特性

本単元「わたし大すき」は、「できるようになったこと」「小さいころのこと」「じぶんものがたり」「もうすぐ3年生」の4つの小単元で構成されている。

今回取り上げた小単元「小さいころのこと」は、学習指導要領に示されている内容（9）「自分の成長」を核として、（2）「家庭と生活」を関連付けて構成した。

前小単元「できるようになったこと」では、入学から今までの自分を振り返り、できるようになったことや友だちのよさに気付くようにする。そして、本小単元「小さいころのこと」では、赤ちゃんのころや幼児のころに遡って、自分の成長を振り返る。そのために、小さいころのことを家族や保育園・幼稚園の先生などに聴いたり、小さいころの写真を見たり、小さいときに使っていた物に触れたりすることで自分の成長を多面的に振り返る。調べていく中で、家族に支えられて成長してきたことや、できることが増えたことなどに気付けるようにしていきたい。

次小単元「じぶんものがたり」では、本小単元で紹介したことや友だちの発表を聞いて気付いたことなどをまとめていく。児童本人がまとめたい方法でまとめ、満足できる作品を作ることができるようにしていきたい。そこで、本小単元では、内容を充実させるために、友だちの小さいころの発表を参考にして、自分の小さいころと照らし合わせることで、「自分はどうだったのかな。」というように、新たに知りたいことなどを考え、家族に聞くなどして、まとめていけるようサポートしていく。

3 小単元の目標

- (1) 自分が小さいころのことに興味をもち、知りたいことや調べ方を考えながら、小さいころのことを調べることができる。
- (2) 小さいころに使っていた物や写真、エピソードなどをもとに、小さいころのことをカードに記録したり自分の成長を実感したりすることができる。

4 小単元の評価規準

生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や 自分についての気付き
家の仕事や家族の役割とよさについて振り返り、家族や自分のしている仕事に関心をもったり、家の仕事に取り組んだりしようとしている。	家の仕事や家族の役割とよさについて振り返り、自分の紹介したいことを絵やカードで表現し、友だちに知らせることができる。また、家族が喜んでくれることを考えたり、家族に感謝の気持ちを伝えたりすることができる。	家にはいろいろな仕事や団らん、楽しみなどがあることや、家庭生活は家族によって支えられていることに気付いている。

5 指導と評価の計画（全6時）



時	学習活動	指導・支援	評価規準（◇）・評価方法（◆）
1	○一日の生活を振り返るために、一日にどんなことをしているかを短冊に書き、表にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が書いた短冊が、表の中に順番に並ぶよう、声をかける。 ・正しい生活習慣ができているか振り返られるようにする。 	◇規則正しい生活習慣に気付き、自分の生活を振り返っている。[関・意・態] ◆活動の様子を観察や発言の内容による。
2 (本時)	○一日の家の仕事にはどんなものがあるか考え、短冊に書き、表にまとめる。 ○挑戦したい家の仕事を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の生活表を参考にしながら、家の仕事を短冊に書かせる。 ・挑戦したい仕事を考えるときは、「やってみたい。」だけではなく「家族のため」を考えるように促す。 	◇家にはどんな仕事があるか、生活を振り返りながら考えている。[気] ◆短冊の内容による。 ◇挑戦したい家の仕事を考えている。[関・意・態] ◆ワークシートの内容による。

4 小単元の評価規準

生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や 自分についての気付き
小さいころの自分に関心をもち、成長の様子を知る手がかりを探したり、いろいろな人に話を聞いたりしようとしている。	小さいころのことを調べる計画を立てたり、調べて分かったことや感じたことをカードに記録したりすることができる。	過去と現在の自分の違いに気付くとともに、自分の成長には多くの人々の支えがあったことに気付いている。

5 指導と評価の計画（全2時）

時	学習活動	指導・支援	評価規準（◇）・評価方法（◆）
1	○小さいころの自分について調べる学習をすることを知り、小さいころのことについて知りたいという意欲をもち、どのように調べていくか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいころのことをどのように調べればいいのか考えさせる。 ・児童が家族などにスムーズにインタビューできるよう、「聞いた人」「いつのものか」「エピソード」などについて書けるワークシートを用意する。 	◇小さいころのことや物について調べようとしている。 [関・意・態] ◆活動の様子の観察による。 ◇どのように調べていくか考えている。[思・表] ◆発言の内容による。
2 (本時)	○聞いてきた小さいころのことについて、簡単に紹介し合う。 ○友だちの発表を聞いて、感想を言ったり質問したりして、自分の小さいころのことについて、もっと知りたいと思ったことを考えたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの成長に気付くように、発表を支援する。 ・物や写真が見やすいように実物投影機を使う。 ・紹介し合う中で、自分と比べて考えさせるために板書を工夫する。 	◇調べてきたことを発表している。[思・表] ◆発表の内容による。 ◇友だちの発表をもとに、自分の小さいころのことをもっと知りたいと思っている。 [関・意・態] ◆ワークシートの記述の内容による。 ◇自分や友だちの成長に気付いている。[気付き] ◆発言・ワークシートの内容による。

3	<p>○挑戦したい家の仕事を考え、挑戦したい仕事を書いた「お仕事券」を作る。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が家族のためにやってみたい仕事を考えやすいように、一日の生活表を参考にさせる。 ・「お仕事券」を作らせ、意欲をもたせる。 	<p>◇家族のことを考え、挑戦したい仕事の「お仕事券」を作っている。[思・表]</p> <p>◆お仕事券の内容による。</p>
4 5	<p>○家でやった仕事について発表するために、絵や文でまとめ、紹介し合う。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・家で挑戦した仕事の内容や家の人に言われた言葉などを思い出すような声かけをする。 ・友達の紹介を聞き、感想や発表を言えるよう声かけをする。 	<p>◇家で挑戦した仕事を振り返り、絵や文で表現している。[思・表]</p> <p>◇家にあるいろいろな仕事や家族のありがたみに気付いている。[気]</p> <p>◆ワークシート・発言の内容による。</p>
6	<p>○挑戦した仕事を振り返り、これから挑戦したい仕事について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表を参考にしたり、家族の反応を思い出したりして、これからやってみたい仕事を考えさせる。 	<p>◇学習を振り返り、家族のことを考え、これから続けていきたい仕事を考えている。[関・意・態]</p> <p>◆ワークシートの内容による。</p>

6 本時の指導（2／6時）




(1) 目標

一日の生活の中で、家にはたくさんの仕事があるということに気付き、家の仕事についてこれからやってみたい、できるようになりたいという意欲をもつことができる。

(2) 展開にあたって

一日の生活の中にはどんな仕事があるのかを、自分の生活を振り返りながら考え、短冊に書いて発表する。たくさんの仕事を挙げ、その中から自分でできそうなものやこれから家族に教えてもらいながらやれそうなものを考えさせる。家族のことを考えながら児童一人一人が家族の一員としてできる仕事を考えられるよう声かけをしていきたい。

※次小単元「じぶんものがたり」(全4時間)の指導と評価の計画

時	学習活動	指導・支援	評価規準(◇)・評価方法(◆)
1 2 3	<p>○今まで調べたことや、聞いたことを自分なりの方法でまとめる。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べてきたものをどんな順番でどのような形にまとめていくのか、自分なりに表現できるよう、事例を挙げたり、友だちと相談させたりしていく。 	<p>◇調べたことをもとに、自分なりに成長の様子をまとめている。[関・意・態]</p> <p>◆活動の様子の観察による。</p> <p>◇「じぶんものがたり」を様々な方法で工夫して表現している。[思・表]</p> <p>◆「じぶんものがたり」の内容による。</p>
4	<p>○自分なりに作った「じぶんものがたり」を紹介し合い、お互いに感想を言う。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの発表を聞き、今まで育ててくれた家族や、身近な人々の存在に改めて気付けるよう声がけをする。 ・発表に対して感想を言い合う場を設け、友だちの成長や表現の工夫、家族への思いに気付くよう支援する。 	<p>◇友だちの発表を聞いて、自分の成長と共に、友だちの成長にも気付いている。[気]</p> <p>◆発言の内容による。</p> 

6 本時の指導(2/2時)

(1) 目標





小さいころに使っていた物や写真を紹介し、発表について感想を言ったり質問をし合ったりする活動を通して、自分の小さいころについてさらに興味をもち、自分や友だちの成長に気付くことができる。

(2) 展開にあたって

事前に小さいころに使っていた物や写真を持ってくるよう家庭に連絡をしておき、児童はいつ使っていたものかなどのエピソードを家族に聞いてきている。本時では、物や写真を見せながら当時のエピソードを紹介し、児童一人一人の成長を学級みんなで共有したいと考える。感想を伝え合ったり質問をし合ったりする中で、自分や友だちの成長に気付いたり、小さいころのことについてもっと知りたいという興味を持たせたりしていきたい。


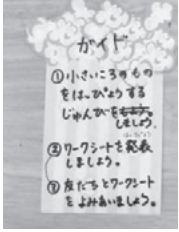


(3) 展開


(■：直接指導 □：間接指導)

主な学習活動	教師の働きかけ(○)・●ガイド・児童の反応(・)	指導・支援(△)・評価規準(◇)・評価方法(◆)	形態
<p>1 一日の生活の中で、家にはどんな仕事があるのか考える。</p> <div data-bbox="252 456 900 524" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>いえのしごとには、どんなものがあるかな。</p> </div>	<p>○一日の生活の表を見て、家の中にはどんな仕事があるのか考えましょう。</p> <p>・朝は朝ご飯を食べているから、お母さんは朝ご飯を作ってくれているよ。</p>	<p>△前時に作った一日の生活表を参考にさせる。</p> 	
<p>2 家の仕事を考え、短冊に書く。</p> 	<p>●家の仕事をたくさん見つけて短冊に書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯をしているよ。 ・玄関がいつもきれいだから玄関掃除をしているかな。 ・お風呂は毎日入るからお風呂を洗わないといけないね。 ・トイレは毎日汚れるからきれいにしたいな。 ・お茶碗洗いをするのを手伝ったことがあるよ。 	<p>△やったことがない仕事でも、思いついた仕事をどんどん書くようにさせる。</p> <p>◇家の仕事を考えている。[気]</p> <p>◆短冊の内容による。(一人一人ペンの色を変え、後で誰が書いたのか分かるようにしておくー思考の可視化ー)</p> 	
<p>3 書いた短冊を一日の生活表に貼る。</p> 	<p>○短冊に書いたことを発表しながら表に貼りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんは朝早く起きて朝ごはんを作っています。 ・夜、お米とぎの仕事をやっています。 ・私のうちも〇〇さんのうちと同じでお米とぎをしています。 	<p>△だいたい時間帯を考えさせながら貼るように声をかける。</p> <p>△同じ仕事を書いていたら重ねて貼らせる。</p> <p>△2年生が発表の準備や後片付けをしている時に、1年生の様子を見る。</p>	

(3) 展開

(■：直接指導 □：間接指導)

形態	主な学習活動	教師の働きかけ (○)・●ガイド・児童の反応 (・)	指導・支援 (△)・評価規準 (◇)・評価方法 (◆)
	<p>1 小さいころの写真や物などを紹介する準備をする。</p>	<p>●小さいころのことを発表する準備をしましょう。</p> 	<p>△ガイドに、活動内容のメモとタイマーを渡し、発表の準備をするよう声かけをお願いしておく。</p> 
	<p>2 小さいころの写真や物を紹介し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>小さいころのことをみんなにはっぴょうしよう。</p> </div> 	<p>○持ってきた物や写真を紹介しましょう。友だちの紹介を聞いたら、感想を言ったり質問をしたりしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしは、生まれたときの写真を持ってきました。生まれるときは何時間もかかって大変だったそうです。 ・無事に生まれてよかったですね。 ・ぼくは、小さい時着ていた服を持ってきました。今のぼくが着ると小さすぎて着れません。 ・とても小さいですね。大きくなったんですね。 ・わたしは小さいころ遊んでいたおもちゃを持ってきました。小さいころはこれに夢中ずっと遊んでいたそうです。 ・ぼくも小さい時、車のおもちゃでよく遊んでいたな。 	<p>△紹介した後は感想を言ったり、質問をさせたりすることで、自分の成長にさらに気付くようにさせる。</p> <p>△写真など小さいものは実物投影機を使い、拡大して見せる。</p> <p>◇小さいころに使っていた物や写真についてのエピソードを発表している。[思・表]</p> <p>◆発表内容による。</p>
			<p>△新たに知りたいことを考えやすくするために、児童の発表からキーワードになるような言葉(離乳食・つかまり立ち・お腹の中の様子)を板書していく。</p> <p>◇発表を聞き、自分や友だちの成長に気付いている。[気]</p> <p>◆発言の内容による。</p>

<p>4 これからやってみたい仕事を考える。</p>	<p>○この中でやったことがある仕事はありますか。やってみてどうでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米研ぎです。お母さんが喜んでくれました。 ・お風呂洗いです。服がぬれました。 ・お茶碗洗いです。でも、「汚れが残っているよ」と言われる時もあります。 <p>○やってみたい仕事はありますか。ワークシートに書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掃除機かけをしてみたい。 ・洗濯たたみをきれいにできるようにしたいです。 ・お料理をやってみたいです。 	<p>△やったことがある仕事、これからやってみたい仕事を考えさせ、家の仕事に取り組む意欲をもたせる。</p> <p>◇やってみたい仕事を考え、ワークシートに書いている。 [関・意・態]</p> <p>◆ワークシートにやりたい仕事を書いているかによる。</p>
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>いえにはいろいろなしごとがあるんだな。 いろいろなしごとにチャレンジしてみたいな。</p> </div>		
	<p>○では、お家の人とも相談してできそうな仕事にチャレンジしていきましょう。</p>	

(4) 授業を終えて (◎よかった点・△改善点)


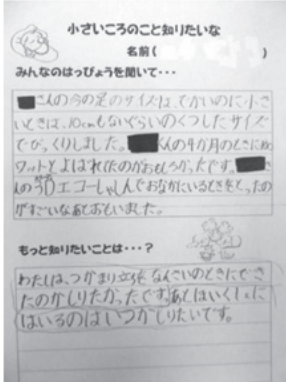
◎一日の生活表を前時に作ったことが助けになり、間接指導中に児童が自分で家の仕事を考え、短冊にたくさん書くことができた。

◎短冊を書く際、一人一人ペンの色を変え、後で誰が書いたのか分かるようにしておくことで、思考の可視化を図ることができた。

◎間接指導に移る際に、学習活動の内容を具体的に伝え、理解したかを確認してから移ることで、活動をスムーズに行うことができた。

△最後に挑戦したい仕事を書かせたが、自分で短冊に書いた内容をそのまま書く児童が多かったの
で、発表の際に児童の発言を価値付けるような声かけをしたり、ガイドを設定して発表の工夫を
したり、2年生からのアドバイスを入れたりするなどして、児童の考えに広がりをもたせるよう
な工夫をしていきたい。

△気付きの質を高めていけるような、教室環境、体験活動時の声かけ、また、その気付きを全体に
広げるための工夫を続けていくことが必要である。

<p>3 学習の感想をワークシートに書く。</p>  	<p>○友だちの発表を聞いて思ったことや、自分の小さいころのことでもっと知りたいと思ったことをワークシートに書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんは生まれたときの体重や身長を発表していたな。私の生まれたときの身長や体重も知りたいな。 ・〇〇君は、つかまり立ちを9ヶ月のときにできたと言っていたけど、わたしはいつできるようになったのかな。 	<p>△ワークシートの項目を分け、「友だちの発表を聞いての感想」「自分についてもっと知りたいと思ったこと」を書かせることで、次小単元「じぶんものがたり」への意欲へつなげる。</p> <p>◇友だちの発表をもとに、自分の小さいころのことをもっと知りたいと思っている。 [関・意・態]</p> <p>◆ワークシートの記述の内容による。</p>
<p>みんなの小さいころのことを知ることができてよかったな。 わたしの小さいころのことをもっとよく知りたいな。</p>		
<p>4 ワークシートに書いたことを発表し合う。</p>	<p>●ワークシートを発表しよう。</p>	<p>△ワークシートを書いて時間が余ったら発表し合うが、時間がなかったら書き終わった人同士で交換し、読み合う。</p>

(4) 授業を終えて (◎よかった点・△改善点)

- ◎児童は自分が聞いてきたことを、写真や物を見せながら発表することができ、それを聞いていた児童も質問や感想を言うことができていた。
 - ◎友だちの小さいころの写真や小さいころ着ていた服などを見て「かわいいな。」「小さかったんだな。」などと感想を言うことで、互いの存在や成長を認めることができていた。
 - ◎発表の際に実物投影機を活用し、当時の写真や思い出の物を拡大して見ることで、児童の興味・関心をひき、互いの成長を学級みんなで共有することができた。
 - ◎「離乳食」や「つかまり立ち」「はいはい」など、友だちの発表を聞かなければ分からなかった用語が出てきたので、児童が自分はどうだったのか、もっと知りたいと思うきっかけになった。
- △次小単元「じぶんものがたり」では、2年生に直接指導をすることが多くなってしまった。今後は、2年生が1年生にアドバイスをしたりするなど、交流できるような授業構成を考えていきたい。

事例 2) 第 1 学年 生活科学学習実践事例 (児童数 4 名)

- 1 単元名 「みんななかよし」(大日本図書)
小単元名 「わたしのつうがくろ」

2 小單元について

(1) 児童の実態

入学して数ヶ月が経ち、登下校にも余裕が出てきた頃である。ただ、安全に対する判断力はまだ十分とは言えず、急に走り出して競争を始めたり、遊びながら歩いたり、横断歩道がない所で横断したりすることもある。

本單元前に行った友達作りや校外を巡る活動等においては、自分をわかってもらうために、自己紹介の内容を工夫し、意欲的に声をかけ友達作りをしたり、学校にはどんな場所があるのか知りたいという思いで目を輝かせて歩いたり、躊躇せず積極的に活動する様子が見られた。

ただ、自分を取り巻く人や物を見ているようで見ていないことが多く、気付かせるための支援が必要となる場面が多かった。

(2) 小単元の特性

本單元「みんななかよし」は、「ともだちたくさんつくろう」「わたしのがっこうこんなところ」「はなややさいをそだてよう」「わたしのつうがくろ」の4つの小単元で構成されており、担っている重要な役割は、安全教育の充実と幼児教育から教科学習への円滑な接続である。

今回取り上げた小單元「わたしのつうがくろ」は、主に安全教育に関する内容であり、学習指導要領に示されている内容(1)「学校と生活」を核として、(3)「地域と生活」と(4)「公共物や公共施設の利用」、さらに(5)「季節の変化と生活」を関連付けて構成した。

自分たちが通る通学路の安全性や安全に関係のある施設、マーク、自分たちを見守る人たちに気付き、ルールを知ること意識を高め、安全に気を付けて登下校できるようになることをねらいとしている。

最初に、校庭探検で見つけた春が、通学路でも見られるかということをつきかけとし、校外に行ってみたいという気持ちをもたせる。2年生の探検の内容との関連もあり、春を探すことをきかけにはするが、そこに固執せず、めずらしいものやワクワクするもの、出会う人など、広く視点を広げて探検させる。最後には、いろいろ見つけた中から、安全に関係があるものに関心をもたせ、自分たちが安全に登下校できるように配慮されていることを理解させる。

きまりの押しつけに終わるのではなく、街頭指導してくださる保護者や老人クラブの方々、先生方の話等から、きまりに気付き、自ら意識をもって行動できるように支援する。

公共の場の使い方や地域の人に対するマナーについても、通学路を探検する活動の中で気付かせ、考えさせることにした。

第2学年 生活科学習実践事例（児童数4名）

- 1 単元名 「春はっけん」（大日本図書）
小単元名 「春の町ではっけん」

2 小単元について

(1) 児童の実態

2年生になり、自分たちが知っていることや、昨年度経験したことを思い出し、上学年として1年生にかかわろうとしている。

どの児童も生活科において何でもやりたがり、活動を楽しむことができる。本単元前に行った1年生を迎えるための活動では、1年生を喜ばせたいという思いをもち、4人で話し合い、計画的に準備を進めて「1年生を迎える会」を成功させ、成就感を味わうことができた。

しかし、新たなことに気付かせたり、活動への思いをもたせるためには、誘導したり提示したりすることが多かった。

本単元における1回目の「町の春探し」は、昨年度の「通学路探検」と変わらない内容を見付け満足していたため、2年生としての観点を示すことによって、気づきを促した。主体的な活動や興味のもたせ方については、まだまだ支援が必要である。

(2) 小単元の特性

本単元「春はっけん」は、「2年生になったよ」「花ややさいをそだてよう」「春の町ではっけん」の3つの小単元で構成されている。

今回取り上げた小単元「春の町ではっけん」は、学習指導要領の内容（5）「季節の変化と生活」に関連のある町の春を感じ取るところからスタートする。その後、地域に目を向け、興味をもった場所を散歩感覚で歩き、身近でありながらまだ知らないことを見付ける活動をする。それは、学習指導要領の内容の（1）「学校と生活」（3）「地域と生活」（4）「公共物と公共施設の利用」に関連する活動である。また、地域の方と触れ合うことや表現し伝え合う活動も行うので、（8）「生活や出来事の交流」の内容も含まれる。

春の町探検においては、まず、1年生と合同で校庭の春探しを行い、活動を校内から校外に広げる。町でも春が見付けられるかということを引きかけに町に出かけてみたいという気持ちを持ち取り組む。初めは、町の春を探して歩いていくが、地域の方に声をかけたり、春以外で町にあるものに気付いたりすることで、もっと詳しく調べてみたいことや行ってみたいところ、聞いてみたいことなどを見付け、自分たちが住んでいる地域に今まで以上に興味関心をもたせる。

探検には「〇〇したい。」という思いをもたせてから出かけることを大事にしていくことで、指導者や友だちの影響を受けてばかりでなく、自分が調べるという気持ちをもたせる。また、見付けたことをどのような形で伝えるのかについても考えさせ、まとめを意識して情報収集する姿勢も徐々に身に付けさせたいと考えた。そして、今回の探検で、もっと知りたい、調べたいという思いをもつことで、秋の探検への意欲を高めることができる活動にしたい。


3 小単元の目標

通学路を探検し、発見したことを表現する活動を通して、通学路の様子や、安全を守っている施設や人々に気づき、安全な登下校ができる。

4 小単元の評価規準

生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や 自分についての気づき
通学路の様子やその安全を守っている人々に関心を持ち、安全な登下校をしようとしている。	①安全な登下校について、自分なりに考えたり、工夫したり、振り返ったりして、それらを自分らしく表現している。 ②毎日の登下校を振り返り、自分たちの安全を守ってくれる人々に感謝している。	通学路の様子や危険箇所、安全を守っている施設や人々に気付いている。

5 指導と評価の計画（全9時）

時	学習活動	指導・支援	評価規準（◇）・評価方法（◆）
1	○通学路探検の計画を立てる。 (春以外の物にも目を向ける。)	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校で見かける通学路の春について、普段の気づきを引き出すよう配慮する。 ・通学路探検のためのルールや持ち物について考えさせ、2年生主導の話合いに参加させる。 	◇通学路の様子に関心を持ち、その様子を進んで友達や先生に話そうとしている。[関・意・態] ◆通学路について気付いていることを話したり、友達の話の聞いたりする様子や反応の観察による。 ◇出かける計画を立てたり、準備をしたりしている。[関・意・態] ◆話合いの様子の観察による。
2 3	○1回目の通学路探検をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路で春を実感しながら、それ以外の物（通学路のすてき）にも目を向けるよう促す。 ・絵や文で表すことができるようなカードを用意する。 	◇通学路で見付けたことを自分なりに表現している。[思・表] ◆観察カードの記述内容や探検中の発言の内容による。 ◇通学路の動植物や自然、そこで出会う人々、暮らしの様子などに気



3 小単元の目標



春の町（学区）を歩き、発見したことを表現する活動を通し、人々の暮らしの様子や自然の変化、安全を守っている施設や人々に気付くことができる。




4 小単元の評価規準


生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や 自分についての気付き
春の自然や町の様子について、様々な人とかかわりながら見たり、調べたりしようとしている。	春の町に出て見つけた季節の変化や、新たに発見した場所、人々にインタビューしたことなどについて、自分なりの方法を考え表現している。	①春という季節を諸感覚を通して感じ取り、それらと自分とのかかわりに気付いている。 ②地域には様々な場所があり、そこには多様な人々が生活していることに気付いている。

5 指導と評価の計画（全9時）

時	学習活動	指導・支援	評価規準（◇）・評価方法（◆）
1	○春の町探検の計画を立てる。 (春以外の物にも目を向ける。) 	・冬とは違った町の様子を話ながら、季節の変化のイメージがもてるよう支援する。 ・探検に行く目的をはっきりさせる。 ・ルールや持ち物等、春の町探検に必要な内容を話し合わせる。 	◇春の町の様子に関心をもち、その様子を進んで友達や先生に話そうとしている。[関・意・態] ◆春の町について気付いていることを話したり、友達の話の聞いたりする様子や反応の観察による。 ◇出かける計画を立てたり、準備をしたりしている。[関・意・態] ◆話合いの様子の観察による。
2 3	○1回目の春の町探検をする。	・何のためにいくのか、目的を忘れないように意識づける。 ・町の春を見付け、季節の移り変わりを実感できるよう変化した	◇町の春の様子や町の施設、人などを安全に気をつけながら、見つけようとしている。[関・意・態] ◆探検の様子の観察やカードの内

			付いている。[気] ◆観察カードの内容や、地域の人たちとふれあう様子の観察による。
4 (本時)	<p>○通学路で見つけた春を発表する。</p> <p>○もっとよく見たい物や探してみたい物を発表する。</p> <p>○2回目の探検の計画を立てる。 (安全に関係する内容に目を向ける。)</p>	<p>・通学路で見つけた「春」とそれ以外に見つけた「通学路のすてき」についてカードを整理させ、次の活動への意欲をもたせる。</p> <p>・「通学路のすてき」を十分に出させてから、安全に関する物に目を向けさせ、もっと探してみたいという気持ちをもたせる。</p> <p>・「安全探しの探検」について目的や持ち物、ルールを確認させる。</p>	<p>◇通学路で見つけた春やすてきな物などを進んで友達や先生に話そうとしている。[関・意・態]</p> <p>◆進んで発言する様子の観察や、カードをもとにした発言の内容による。</p> <p>◇通学路には、様々な安全に関する物があることに気付いている。 [気]</p> <p>◆発言やカードの記述内容による。</p> <p>◇自分が確かめたい物を決め、出かける計画を立てたり、準備をしたりしている。[関・意・態]</p> <p>◆話合いの様子の観察による。</p>
5 6	<p>○2回目の通学路探検をする。</p> 	<p>・自分たちを守ってくれる物や人に気付かせる。</p> <p>・公共の場におけるルールを確認する。</p> <p>・あらかじめ、交通安全街頭指導に携わっている老人クラブの方やこども110番のシールを貼っている家の方などに探検の時間を知らせ、話が聞けるような場面を設定する。</p> <p>・絵や文で表すことができるようなカードを用意する。</p>	<p>◇交通ルールやマナーに気をつけて歩こうとしている。[関・意・態]</p> <p>◆探検時の様子の観察による。</p> <p>◇安全を守ってくれているマークや人を見つけている。[思・表]</p> <p>◆探検時の様子の観察による。</p> <p>◇通学路では、様々な人に守られていることに気付いている。[気]</p> <p>◆探検時の発言やカードの記述内容による。</p>
7 8	<p>○見つけたことをみんなに教える準備をする。</p> 	<p>・見つけたことを持ち寄り、分担を決めたり、発表方法を考えさせたりする。</p> <p>・自分が教えたことが伝わるように、発表資料は、丁寧に仕上げられるように指導する。</p>	<p>◇通学路で見つけた安全に関係があるものについて友達に伝わるように考え、表現している。[思・表]</p> <p>◆発表資料の記述内容による。</p>

		<p>ことを意識させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春以外のものにも目を向けるよう促す。 ・絵や文で表すことができるようなカードを用意する。 	<p>容による。</p> <p>◇町の春の様子や町の施設、人などに気付いている。[気]</p> <p>◆観察カードの記述内容や探検中の発言の内容による。</p>
4 (本時)	<p>○春の町で見つけた春を発表する。</p> <p>○もっとよく見たいものや探してみたいものを発表する。</p> <p>○2回目の探検の計画を立てる。 (春以外の内容に目を向ける。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町で見つけた春やその他気付いたことを報告し合い、町の春探しから探検へと意欲をもてるように導く。 ・90分程度で行って帰ることができるコースを考えさせる。 ・ルールや持ち物など、春の町探検に必要な内容を確認させる。 	<p>◇春の町で見つけたことを自分なりに表現している。[思・表]</p> <p>◆観察カードの記述内容や報告の内容による。</p> <p>◇自分が行ってみたい場所を決め、出かける計画を立てたり、準備をしたりしている。[関・意・態]</p> <p>◆話合いの様子を観察による。</p>
5 6	<p>○2回目の春の町探検をする。 (探検隊毎に活動する。)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に、町の人や保護者に、情報提供や安全確保のための協力を依頼する。 ・探検隊ごとに行動させる。 ・行動範囲が前回より広がり、ばらけるため、校内でも協力体制をとる。 ・絵や文で表すことができるようなカードを用意する。 	<p>◇地域の人とかかわることを楽しみながら、町の様子に興味を持ち知ろうとしている。[関・意・態]</p> <p>◆探検時の様子を観察による。</p> <p>◇町には働いている人や今まで気付かなかった場所があることに気付いている。[気]</p> <p>◆探検時の様子を観察や発言、カードの記述内容による。</p>
7 8	<p>○見つけたことをみんなに教える準備をする。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・探検隊毎に見つけたことを持ち寄り、分担を決めてわかりやすい資料を作成するように促す。 ・相手意識をもって発表できるように、発表資料はわかりやすく、丁寧に仕上げるように指導する。 	<p>◇春の町で見つけたことやかかわった人について友達に伝わるように考え、表現している。[思・表]</p> <p>◆発表資料の記述内容による。</p>

9	○通学路探検で見つけたことを発表する。	<p>・はっきりと大きな声で発表できるように事前に練習させておく。</p> 	<p>◇通学路について調べたことを友達に伝えようとしている。[関・意・態]</p> <p>◆発表時の様子の観察による。</p> <p>◇聞いている人に良く聞こえるように発表の仕方を考えている。[思・表]</p> <p>◆発表時の様子の観察による。</p>
---	---------------------	---	---

6 本時の学習 (4 / 9時)

(1) 目標

一回目の探検の様子を知らせ合う活動を通し、通学路には、春以外にも様々な人や物がたくさんあり、中でも安全に関係するものがたくさんあることに気づき、それがどんなところにあるのか、どんな人が守ってくれているのかということに関心を持ち、次の探検の計画を立てることができる。

(2) 展開に当たって


本時は、通学路で見つけた春について伝え合う活動から始める。通学路で見つけたたくさんの春を報告し合う中で、通学路には春以外にもいろいろな物（通学路のすてき）があったことに気付く。その中に、ストップマークや信号、110番の家等、安全に関係するものが数多くあったことに注目させ、2回目の探検は、自分たちを守ってくれる施設や人に関するものを探しに出かけたいという思いをもたせたい。その際、教師からの押しつけにならないように、児童の発表内容を意図的に書き出したり、どのくらいあるのか数を聞いて興味をもたせたりして、児童の思いが自然に通学路に向くように促したい。

出かけるために必要な約束や持ち物は、一回目と同様に2年生と一緒に確認して、探検のための準備を進めさせたい。

(3) 展開

(■：直接指導 □：間接指導)

主な学習活動	教師の働きかけ (○)・児童の反応 (・)	指導と支援 (△)・評価規準 (◇)・評価方法 (◆)	形態
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> つうがくろで見つけたものをおしえよう。 </div> <p>1 通学路で見つけた「春」や「すてき」をかいたカードを整理する。</p>	<p>○探検で書いてきたカードを見直して書き残したところを加えたり、カードの整理をしたりしましょう。</p>	<p>△カードを整理したり、見直したりする活動を通して探検の様子を思い出させる。</p>	

9	○春の町探検で見つけたことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 資料を活用して、順序よく、わかりやすく伝えられるように事前に練習させておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇春の町について調べたことを友達にわかりやすく伝えようとしている。[関・意・態] ◆発表時の様子の観察による。 ◇聞いている人に伝わるように発表の仕方を考えている。[思・表] ◆発表時の様子の観察による。
---	---------------------	--	---

6 本時の学習 (4 / 9時)

(1) 目標

春探しの探検の様子を知らせ合う活動を通し、町には春だけではなく、いろいろな建物や施設があり、いろいろな人がいることに気付き、興味をもったことについてもう一度町に出て、調べてみたいという思いをもち、次の探検の計画を立てることができる。

(2) 展開に当たって

本時は、町で見つけた春について伝え合う活動から始める。確かに町にも春は来ていたことを報告し合う中で、町では春以外にもいろいろなものを見付けることができることに気付く。

そこで、前回、見たくても十分に見ることができなかつたところに焦点を当て、興味をもったことについて詳しく調べてくることを目的に、再度探検の計画を立てることになる。その際、1回目の探検と目的が違うことをはっきりと意識して計画を立てさせたい。また、この探検は、秋の町探検につながる活動になるので、町にあるさまざまな物や人々に興味をもちながらかかわることができるよう配慮していきたい。

出かけるための準備は、前回と大きく変わるところはないが、足りなかつたことやより注意が必要な内容についてきちんと確認し、2回目の探検に臨めるようにしたい。

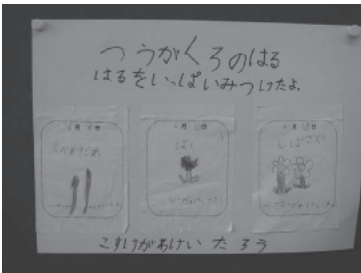
(3) 展開

(■ : 直接指導 □ : 間接指導)

形態	主な学習活動	教師の働きかけ (○)・児童の反応 (・)	指導と支援 (△)・評価規準 (◇)・評価方法 (◆)
■	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">春の町で見つけたものをつたえよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○春の町でどんな物を見つけたか発表しましょう。 ・いろいろな種類の花がたくさん咲いていたね。 	△カードをもとに見てきた町の春を発表させる。
	1 町で見つけた春を発表する。		



2 通学路で見つけた春を
発表する。



○通学路で見つけた春を発表しまし
よう。

- ・道路にもたんぼぼがあったよ。
- ・つばめがとんでいたね。
- ・いろんな花がいっぱいさいていたよ。
- ・春は、学校だけでなく通学路にも
いっぱいあった。



△自分が書いたカードをも
とにして発表させる。

◇通学路で見つけた春やす
てきなものを進んで友だ
ちや先生に話そうとして
いる。[関・意・態]

◆発言する様子や、カード
をもとにした発言の内容
による。

3 春以外に見つけた物を
発表する。



○春だけでなく、「通学路のすてき」
もありましたね。発表しましょう。

- ・床屋さんの前にくるくる回るもの
があったよ。
- ・道路にかえるのマークがついてい
たね。
- ・横断歩道のマークもあったよ。
- ・犬がいたね。
- ・お店もあった。いつもお菓子を
いに行くんだよ。
- ・110の家のシールを貼った家
があった。
- ・止まれって教えているマークが多
いね。何でかな。
- ・ぼくは見なかった。
- ・もっといっぱい安全でいられるよ
うにしているものってあるのかな。

△「通学路のすてき」を十
分に出させる。その際、
意図的に通学路の安全に
関係するものと関係しな
いものに分けて板書する
ことで、安全に関する
ものが多いことに気付か
せ、次の活動へ導く。

◇通学路には、様々な安全
に関するものがあるこ
とに気付いている。[気]

◆発言やカードの記述内容
による。

△次につながる児童の思い
を大事に扱う。

2 探検で見つけた春以外のものをそれぞれ出し合い確かめる。

- ・つばめもとんでいたよ。
- ・学校だけでなく、町の中のいろんなところで春が見付けられたね。
- ・風もあたたかくなったものね。
- ・春以外でもいろんなものを見つけたよ。

○春以外にどんなものを見つけたか出し合い仲間分けをしてみましよう。



- ・動物がいた。
(黒い犬、ツバメ、猫)
- ・変わった建物があつた。
(寺、神社)
- ・お店があつた。
(畑山商店、氣仙家具、床屋)
- ・いろんなマークがあつた。
(床屋のマーク、郵便局のマーク、ストップマーク、店の看板)
- ・何だかわからないものもあつた。
(消火栓、バス停)



◇春の町で見つけたことを自分なりに表現している。
[思・表]

◆観察カードの記述内容や報告の内容による。

△2年生だけで進めさせる。似たものは集めて整理するよう指示する。

△整理しながら、自分と同じところや違うところに注目させ、気付かなかつたことにも目を向け、広く町の様子を見ることができるよう促す。

・さがしにいてみたいね。

◇自分が確かめたいものを決め、出かける計画を立てたり、準備をしたりしている。[関・意・態]

◆話合いの様子を観察による。

あんぜんさがしのたんけんのけいかくをたてよう。

4 次にやってみたいことを決める。

○今度の探検で、何をするか決めましょう。探検の持ち物やルールも確かめましょう。

・交通安全のマークとか、ぼくたちを助けるマークをもっとちゃんと見てこよう。

・止まれのマークは何個あった？

・信号は上手に渡れたよね。どんな場所にあったっけ。

・110番の家って何かな。○○さんの家だよね。

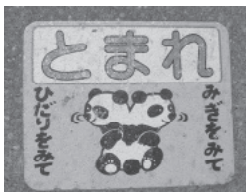
・前の探検で何をもっていったっけ。

・前はどんな約束をしたかな。

△前の探検の経験を生かして、自分たちで計画を話し合うよう促す。

後半は、2年生と一緒に次の探検でやることを確かめる。

△やりたいことが決まったら、カードに書き込む。



5 探検に行くために必要なことをみんなで確かめる。

○2年生と一緒に探検の持ち物や約束を確かめましょう。

・持ち物は、探検バック、色鉛筆、鉛筆、消しゴム、カード、帽子、タオル、水筒。



3 春以外にどんなものを見つけたか発表する。

- どんなものを見付けましたか。
- ・動物や建物、看板などいろいろ見つけたよ。
 - ・お店の人と話したよ。
 - ・また行って、よく見てきたいな。

△黒板にまとめたものをもとに話をさせる。話をしながら次の探検への意欲を引き出す。

△次につながる児童の思いを大事に扱う。

もう一度探検に行く計画を立てよう。

4 次にやってみたいことを決める。

- 今度町に出たらどんなことがしてみたいですか。
- ・前の探検で気になったところに行きたい。
 - ・どこにどんな動物がいたかまとめてみたいな。
 - ・畑にいた人ともっとゆっくり話してみたいな。
 - ・お店が気になるな。

△自分が行ってみたいところや、見てみたいところを決めさせる。その際は具体的に、どこで何をしたいかはっきりさせる。

△必要に応じてグループを作る。

(同じ目的の人同士)

◇自分が行ってみたい場所を決め、出かける計画を立てたり、準備をしたりしている。[関・意・態]

◆話合いの様子を観察や発言による

5 探検に行くために必要なことをみんなで確かめる。

- 1年生と一緒に探検の持ち物やルールを確かめましょう。
- ・持ち物は、探検バック、色鉛筆、鉛筆、消しゴム、カード、帽子、タオル、水筒。

△2年生が話合いを進め前回の持ち物やルールをもとに確かめさせる。

<p>6 次時の予定を確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールは、 <ul style="list-style-type: none"> ①交通ルールを守る。 ②町の人に挨拶する。 ③けんかをしない。 ④話をよく聞く。 ⑤安全な場所でメモする。 <p>○2回目の探検は、○日です。自分がやってみたいことができたり、見つけたいものが見つかるようにみんなで決めたことを守ってよい探検にしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早く行きたいな。 ・たくさん見つけられるかな。 ・わくわくするね。 	<p>△次の探検への期待感をもって終わらせる。</p>
----------------------	--	-----------------------------

(4) 授業を終えて (◎よかった点・△改善点)

◎春の通学路で見つけた花等は、自分のカードをもとにして発表することができた。春が身近にいっぱいあることも実感できたと思う。

◎春以外に見つけた物の発表では、様々な物が出されたが、交通安全に関係する物が多いことに気付くことができた。そこから交通標識等に自然に興味をもつことができたので、2回目の探検の目的に導くことが容易にできた。

◎準備については、2回目なので、前回の反省も踏まえて2年生と一緒に確認することができた。話し合いでは、進んで挙手したり、前回の探検時に注意されたことを思い出したりして、1回目よりも積極的に話し合いに参加できていた。

△春の交通安全街頭指導で保護者や老人クラブの方々、先生方も登下校の様子を見守っていた話も出ていたので、2回目の探検では身近な人々とのかわりていろいろな人たちと話をする活動も取り入れたいと考えたが、学校事情や町の方々の事情を考えると、実施日や時間帯などの設定は難しい。可能な範囲での実施となった。

△似たような活動ではあるが、異内容指導であるため、合同ではなく複式形態での授業を行ったが、入学して間もないこともあり、間接指導時でも、1年生の様子を気にかけて、必要に応じて2年生の指導をしながら、声をかけることもたびたびあった。



6 次時の予定を確かめる。

- ・ルールは、
 - ①交通ルールを守る。
 - ②町の人に挨拶する。
 - ③けんかをしない。
 - ④話をよく聞く。
 - ⑤安全な場所でメモする。

△インタビューする場合も想定し、話し方についても確認する。

○2回目の探検は、○日です。自分がやってみたいことができたり、見つけたいものが見つかるようにみんなで決めたことを守ってよい探検にしましょう。

△次の探検への期待感をもって終わらせる。

- ・楽しみだな。
- ・しっかり見てこよう。
- ・いっぱいお話がしたいな。

(4) 授業を終えて (◎よかった点・△改善点)

◎町にも春がいっぱいだったということを確認した後、それ以外で見つけたものについて児童だけで話し合わせた。黒板のところにカードを持って集まり、板書しながら自分たちなりの観点で種類に分けて、2年生なりにまとめることができた。間接指導での話し合いだったが、互いに意見を出し合い、発表につながるよう良く整理されていた。

◎もう一度見てみたいところを考えさせると、「お店をみてきたい。」「神社や寺をみてきたい。」とそれぞれ詳しく見たい場所への思いをもつことができ、2つのグループができた。次の探検では、今回より焦点を絞り、まわりをじっくりと観察させ、更に詳しく調べる秋の探検に結び付けたい。

◎探検の準備は、前回話し合った内容を確認させたが、より気を付けなければならないこと等を付け加えて話し合うことができた。

◎2年生は、1年生からの意見を引き出すことができるようになり、話し合いを進めたり、決まったことを板書したりすることにも慣れ、スムーズに2回目の探検の持ち物やルールを確認することができた。

平成27・28年度指導資料第38集

へき地・複式教育ハンドブック(社会科・理科・生活科編)

作成委員

外ヶ浜町立平館小学校	教諭	伊藤 圭一
鶴田町立梅沢小学校	教諭	鍋田 千秋
弘前市立自得小学校	教諭	菊池 克浩
横浜町立横浜小学校	教諭	村上 さおり
むつ市立正津川小学校	教諭	石川 依子
新郷村立西越小学校	教諭	橘 宏卓
東青教育事務所	指導主事	松尾 健治
西北教育事務所	指導主事	番場 亜由美
中南教育事務所	指導主事	鎌田 寛市
	前指導主事	小山内 睦子
		(現 黒石市立東小学校 教頭)
上北教育事務所	指導主事	江渡 勇
下北教育事務所	指導主事	伊藤 慎
三八教育事務所	指導主事	石渡 保

なお、次の者が編集に当たりました。

青森県教育庁学校教育課	課長	和嶋 延寿
	課長代理	仁和 由紀人
	総括副参事	傳法 公彦
	主任指導主事	工藤 直之
	前指導主事	長尾 朗
		(現 藤崎町立藤崎中学校 教頭)
	指導主事	山口 安祈子

